

三木市多文化共生のまちづくりに関する  
調査報告書

三木市

## 目次

第1章 調査の概要.....	2
1. 調査目的 .....	2
2. 調査の対象と調査方法 .....	2
3. 調査時期 .....	2
4. 回収状況 .....	3
5. 報告書の留意点・見方 .....	3
第2章 外国人住民アンケート結果.....	4
1. あなたについて .....	4
2. 日本語力について .....	15
3. 三木市での暮らしについて（情報・交流） .....	28
4. 多文化共生のまちづくりに向けて .....	39
第3章 日本人住民アンケート結果.....	46
1. あなたについて .....	46
2. 三木市での暮らしについて（情報・交流） .....	56
3. 多文化共生のまちづくりに向けて .....	61
第3章 団体ヒアリング結果（関係団体） .....	73
第4章 団体ヒアリング結果（自治会） .....	84
第5章 考察.....	97
(1) 教育・学習 .....	98
(2) 交流 .....	99
(3) 労働 .....	100
(4) 災害 .....	100
(5) 理解・差別 .....	101
(6) 情報・相談 .....	101

# 第1章 調査の概要

## 1. 調査目的

全国的に外国人住民が増加している中、本市においても外国人住民は増加の傾向にあります。本調査は、多文化共生のまちづくりを推進するに当たり、本市に住む日本人住民や外国人住民の多文化共生に関する意識や考え等を把握し、「三木市多文化共生推進プラン」策定の基礎資料とするため実施しました。

## 2. 調査の対象と調査方法

調査の種類	対象者	調査方法
①外国人住民アンケート	市内に住む18歳以上の外国人住民200人	来庁者、日本語教室、市内企業に依頼・回収
②日本人住民アンケート	令和4年6月1日現在、市内に住む18歳以上の日本人住民から2,000人を無作為に抽出	郵送による配布・回収
③団体ヒアリング調査	市内で外国人支援に携わる団体	郵送及びメールにより調査票を配布。内容をもとに聞き取りを実施。

## 3. 調査時期

調査の種類	調査時期
①外国人住民アンケート	令和4年7月1日から令和4年7月29日まで
②日本人住民アンケート	令和4年6月20日から令和4年7月20日まで
③団体ヒアリング調査	令和4年8月22日から令和4年9月30日まで

## 4. 回収状況

調査の種類	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
①外国人住民アンケート	246 通	200 通	81.3%	200 通	81.3%
②日本人住民アンケート	2,000 通	876 通	43.8%	876 通	43.8%
③団体ヒアリング調査	24 団体	24 団体	100.0%	24 団体	100.0%
うち関係団体	4 団体	4 団体	100.0%	4 団体	100.0%
うち自治会	20 団体	20 団体	100.0%	20 団体	100.0%

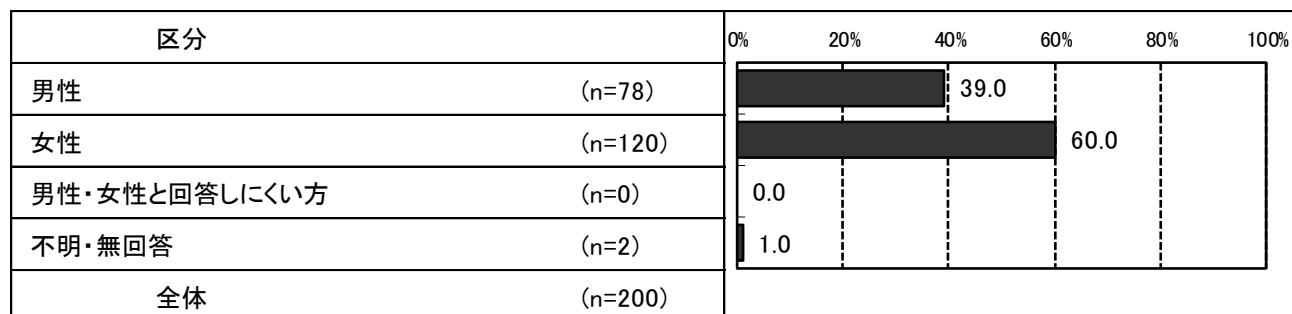
## 5. 報告書の留意点・見方

- 表・グラフに付加されている「n」は質問に対する回答者数を表しています。
- 結果数値(%)は、小数点第2位を四捨五入しており、内訳の合計が100%にならないことがあります。
- 複数回答の場合、回答者数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が100%を超えます。
- 表・グラフ中の「不明・無回答」の表記については、無記入、回答の読み取りが著しく困難な場合、1つまでの回答を求めている設問に対し2つ以上回答していた場合は「不明・無回答」として処理しています。

## 第2章 外国人住民アンケート結果

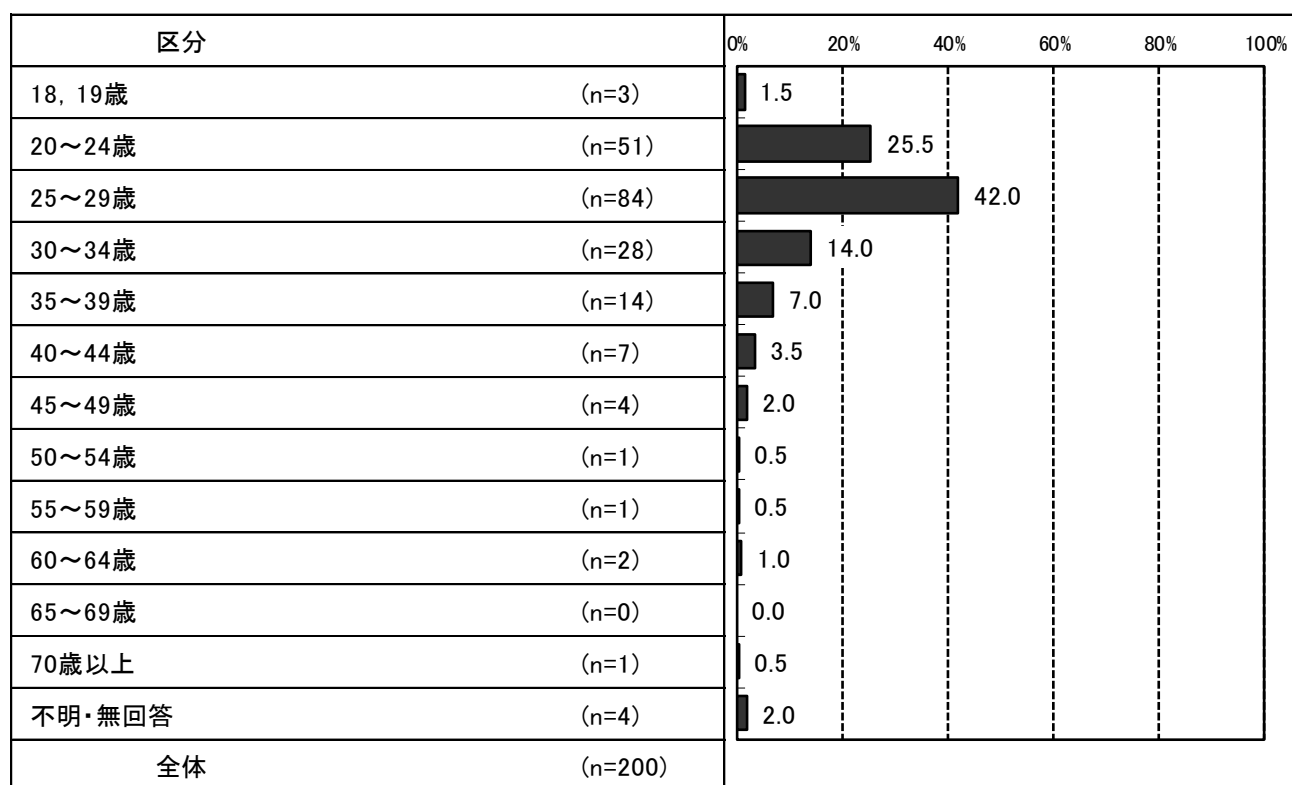
### 1. あなたについて

問1 あなたの性別を教えてください。



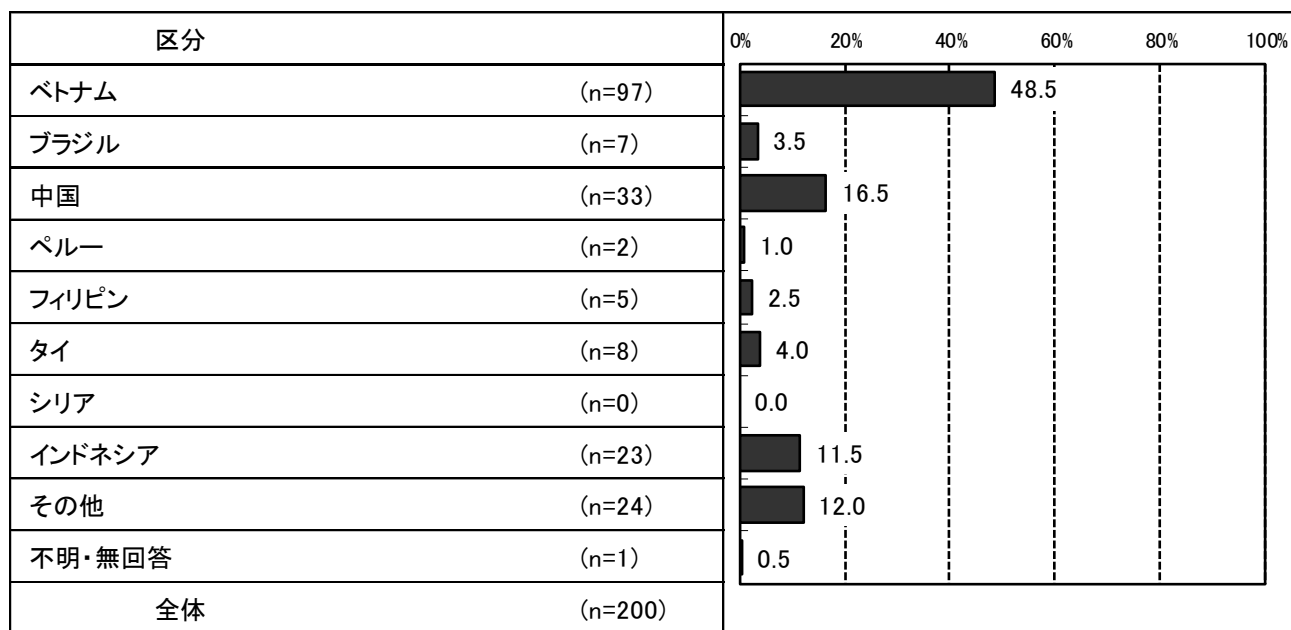
「女性」が60.0%で最も多く、次いで「男性」が39.0%が続いています。

問2 あなたの年齢を教えてください。



「25～29歳」が42.0%で最も多く、次いで「20～24歳」が25.5%、「30～34歳」が14.0%が続いています。

問3 あなたの国籍を教えてください。

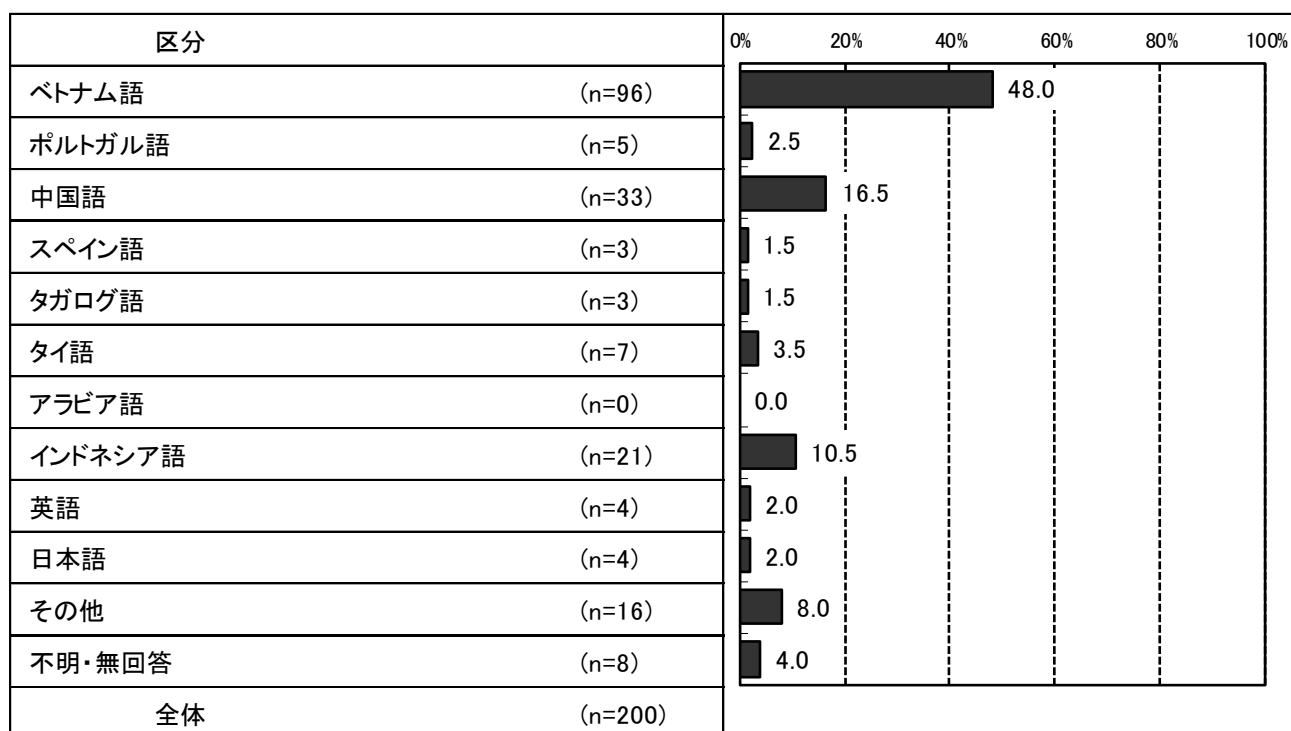


「ベトナム」が48.5%で最も多く、次いで「中国」が16.5%、「その他」が12.0%が続いています。

	(n)	ベトナム	ブラジル	中国	ペルー	フィリピン	タイ	シリア	インドネシア	その他	不明・無回答	
全体	200	48.5	3.5	16.5	1.0	2.5	4.0	0.0	11.5	12.0	0.5	
年齢	29歳以下	138	53.6	0.7	12.3	0.0	1.4	2.9	0.0	15.2	13.8	0.0
	30歳代	42	50.0	0.0	19.0	0.0	4.8	9.5	0.0	4.8	9.5	2.4
	40歳以上	16	0.0	37.5	37.5	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0

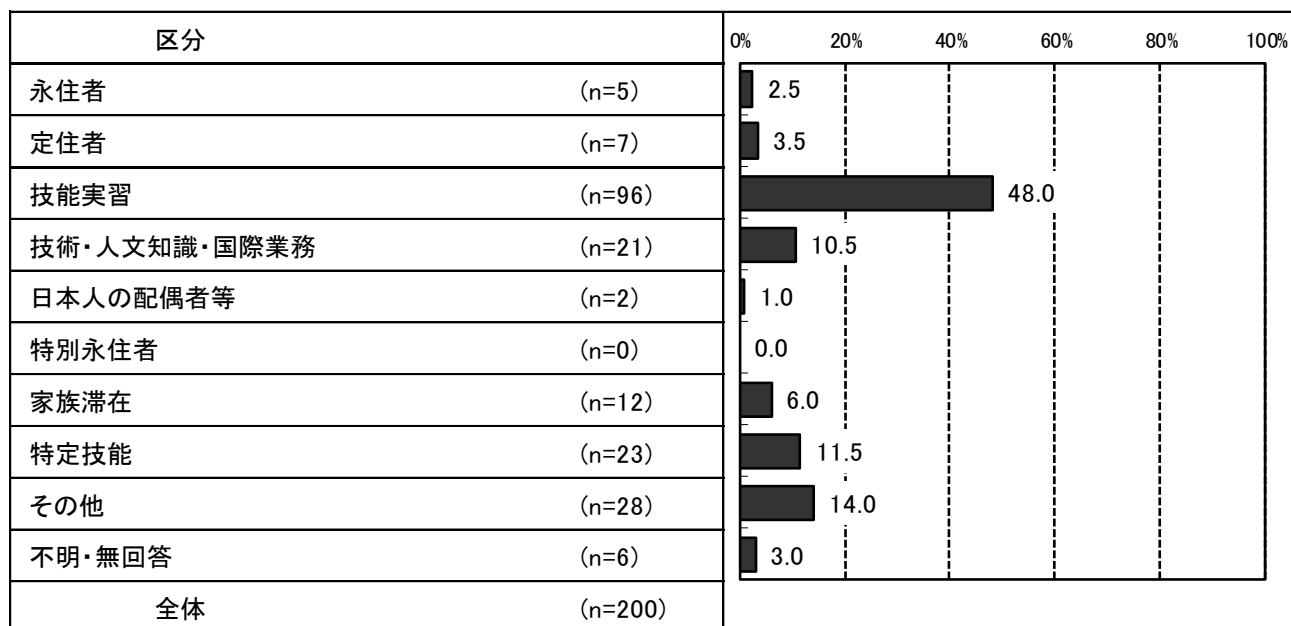
○年齢別にみると、30歳代以下の年代は「ベトナム」、40歳以上は「ブラジル」「中国」が最も多くなっています。

問4 あなたの母語または、いちばん得意な言語はどれですか。



「ベトナム語」が48.0%で最も多く、次いで「中国語」が16.5%、「インドネシア語」が10.5%で続いています。

問5 あなたの在留資格はどれですか。



「技能実習」が48.0%で最も多く、次いで「その他」が14.0%、「特定技能」が11.5%で続いています。

	(n)	永住者	定住者	技能実習	技術・人文知識・国際業務	日本人の配偶者等	特別永住者	家族滞在	特定技能	その他	不明・無回答	
全体	200	2.5	3.5	48.0	10.5	1.0	0.0	6.0	11.5	14.0	3.0	
性別	男性	78	0.0	5.1	30.8	26.9	1.3	0.0	3.8	11.5	17.9	2.6
	女性	120	4.2	2.5	58.3	0.0	0.8	0.0	7.5	11.7	11.7	3.3
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	29歳以下	138	0.0	2.2	58.0	6.5	0.0	0.0	4.3	10.1	15.9	2.9
	30歳代	42	0.0	4.8	28.6	28.6	2.4	0.0	14.3	7.1	11.9	2.4
	40歳以上	16	31.3	12.5	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	31.3	6.3	6.3
在日期間	1年未満	43	0.0	2.3	69.8	7.0	0.0	0.0	4.7	4.7	9.3	2.3
	1～3年未満	62	0.0	0.0	66.1	6.5	0.0	0.0	4.8	1.6	17.7	3.2
	3～5年未満	63	0.0	3.2	30.2	14.3	3.2	0.0	6.3	23.8	15.9	3.2
	5年以上	26	19.2	15.4	7.7	19.2	0.0	0.0	11.5	11.5	11.5	3.8

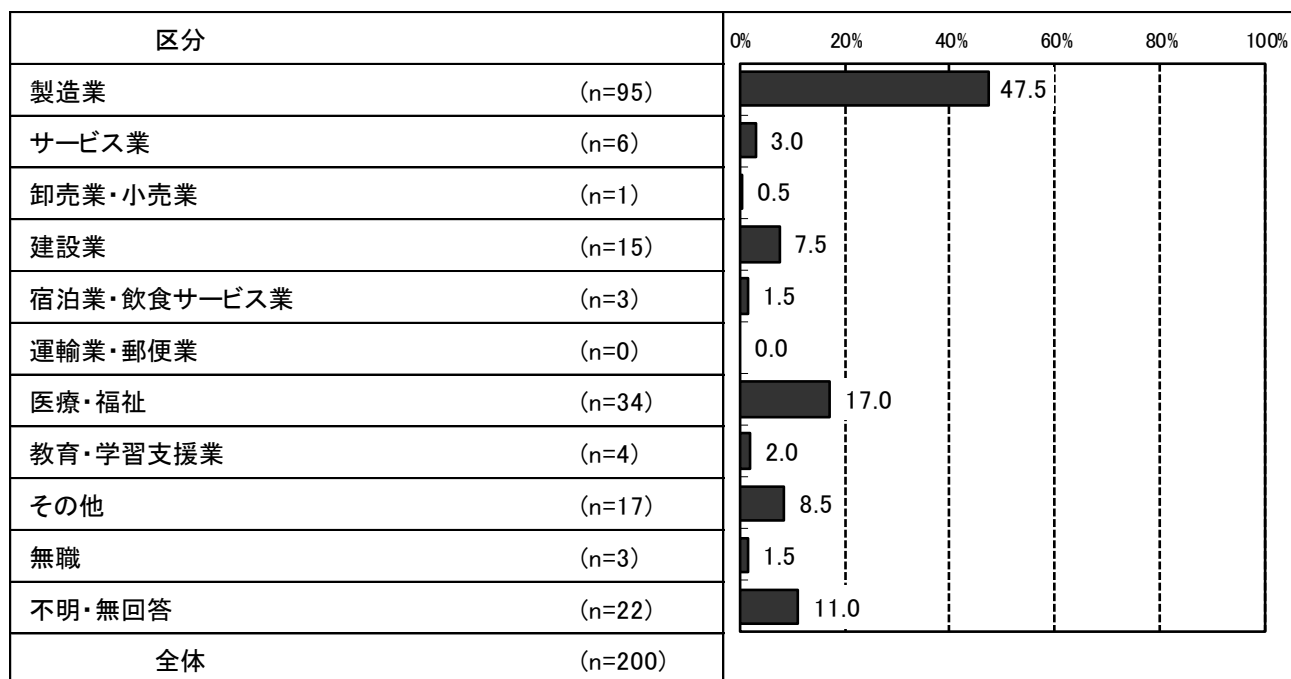
○性別にみると、男女ともに「技能実習」が最も多く、女性は半数を超えています。また、「技術・人文知識・国際業務」は男性で26.9%、女性の回答はありません。

○年齢別にみると、29歳以下は「技能実習」、30歳代は「技能実習」と「技術・人文知識・国際業務」、40歳以上は「永住者」と「特定技能」が最も多くなっています。

○在日期間別にみると、5年未満の人は「技能実習」、5年以上の人は「永住者」と「技術・人文知識・国際業務」が最も多くなっています。



問6 あなたの職業を教えてください。



「製造業」が47.5%で最も多く、次いで「医療・福祉」が17.0%、「その他」が8.5%が続いています。

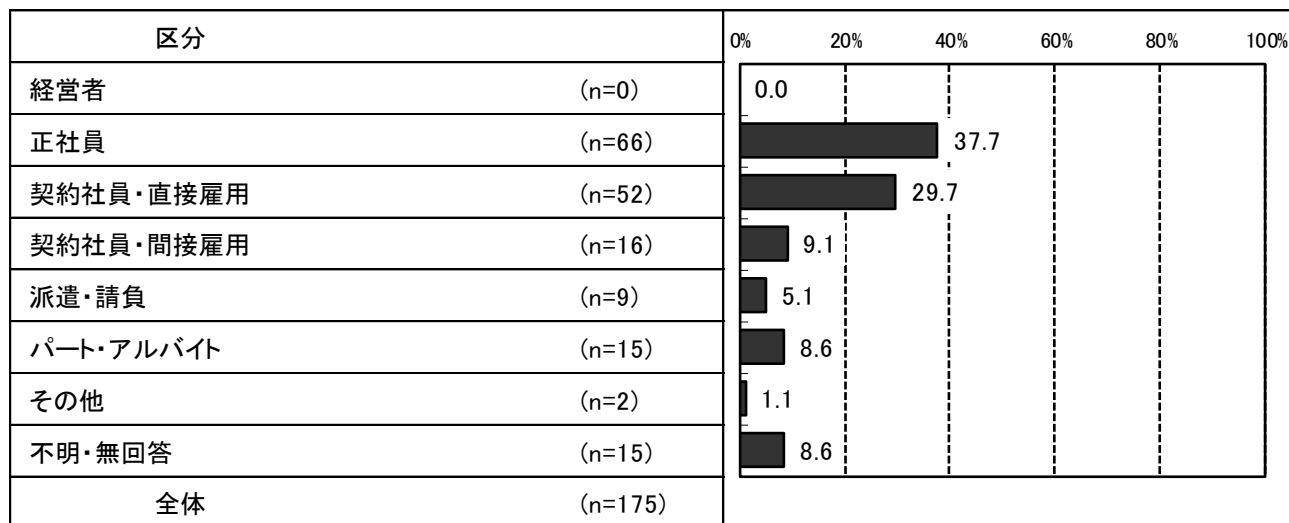
		(n)	製造業	サービス業	卸売業・小売業	建設業	宿泊業・飲食サービス業	運輸業・郵便業	医療・福祉	教育・学習支援業	その他	無職	不明・無回答
全体		200	47.5	3.0	0.5	7.5	1.5	0.0	17.0	2.0	8.5	1.5	11.0
性別	男性	78	47.4	3.8	0.0	19.2	1.3	0.0	6.4	5.1	6.4	0.0	10.3
	女性	120	46.7	2.5	0.8	0.0	1.7	0.0	24.2	0.0	10.0	2.5	11.7
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	29歳以下	138	42.8	1.4	0.0	9.4	0.7	0.0	20.3	2.9	10.1	1.4	10.9
	30歳代	42	66.7	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0	9.5	0.0	4.8	0.0	9.5
	40歳以上	16	37.5	12.5	6.3	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	6.3	12.5

○性別にみると、男女ともに「製造業」が最も多くなっています。また、「建設業」は男性で19.2%に対し女性の回答はなく、「医療・福祉」は女性で24.2%と男性より10ポイント以上多くなっています。

○年齢別にみると、年齢に関わらず「製造業」が最も多く、特に30歳代の回答が多くなっています。「医療・福祉」は29歳以下のみ20%台と、ほかの年代より多くなっています。

問6で「無職」以外を答えた方がお答えください。

問7 あなたの雇用形態はどれですか。



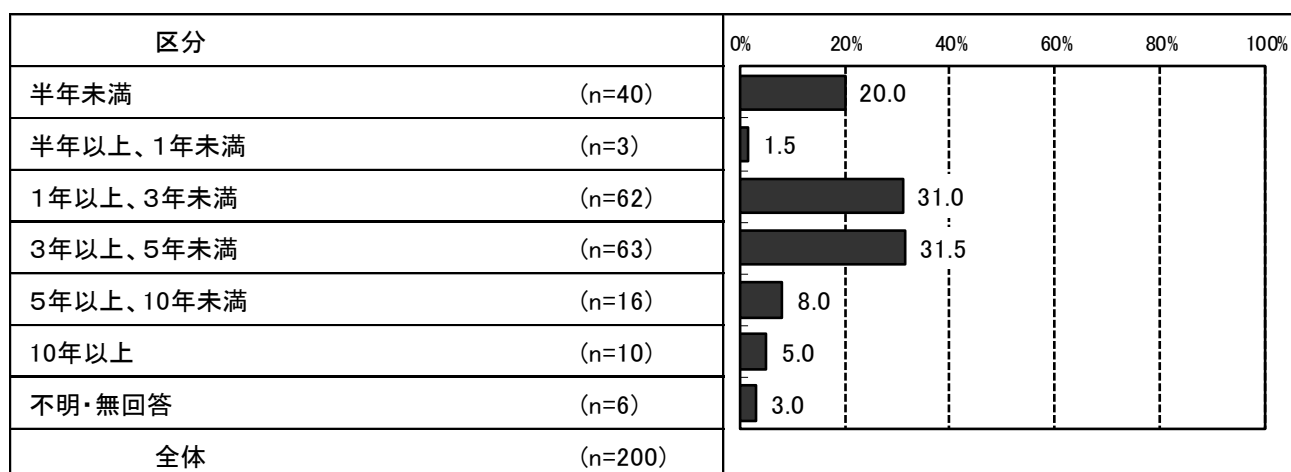
「正社員」が37.7%で最も多く、次いで「契約社員・直接雇用」が29.7%、「契約社員・間接雇用」が9.1%が続いています。

	(n)	経営者	正社員	契約社員・直接雇用	契約社員・間接雇用	派遣・請負	パート・アルバイト	その他	不明・無回答	
全体	175	0.0	37.7	29.7	9.1	5.1	8.6	1.1	8.6	
性別	男性	70	0.0	58.6	15.7	4.3	5.7	5.7	0.0	10.0
	女性	103	0.0	24.3	38.8	12.6	4.9	10.7	1.9	6.8
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	29歳以下	121	0.0	35.5	30.6	11.6	4.1	6.6	1.7	9.9
	30歳代	38	0.0	52.6	26.3	2.6	2.6	13.2	0.0	2.6
	40歳以上	13	0.0	15.4	23.1	7.7	23.1	15.4	0.0	15.4

○性別にみると、男性は「正社員」、女性は「契約社員・直接雇用」が最も多くなっています。

○年齢別にみると、30歳以下の年代は「正社員」、40歳以上は「契約社員・直接雇用」と「派遣・請負」が最も多くなっています。

問8 あなたは日本にどのくらい住んでいますか。

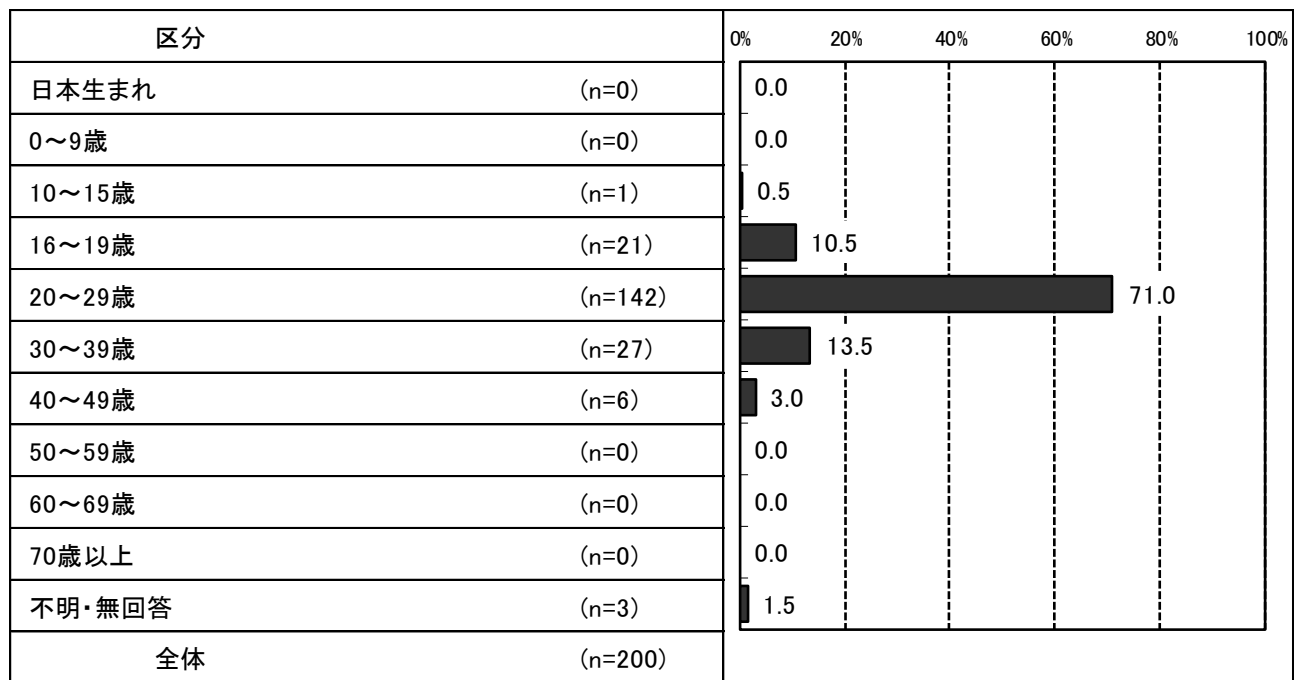


「3年以上、5年未満」が31.5%で最も多く、次いで「1年以上、3年未満」が31.0%、「半年未満」が20.0%が続いています。

		(n)	半年未満	半年以上、1年未満	1年以上、3年未満	3年以上、5年未満	5年以上、10年未満	10年以上	不明・無回答
全体		200	20.0	1.5	31.0	31.5	8.0	5.0	3.0
年齢	29歳以下	138	24.6	1.4	37.0	28.3	5.1	0.0	3.6
	30歳代	42	9.5	2.4	26.2	38.1	21.4	2.4	0.0
	40歳以上	16	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	56.3	6.3

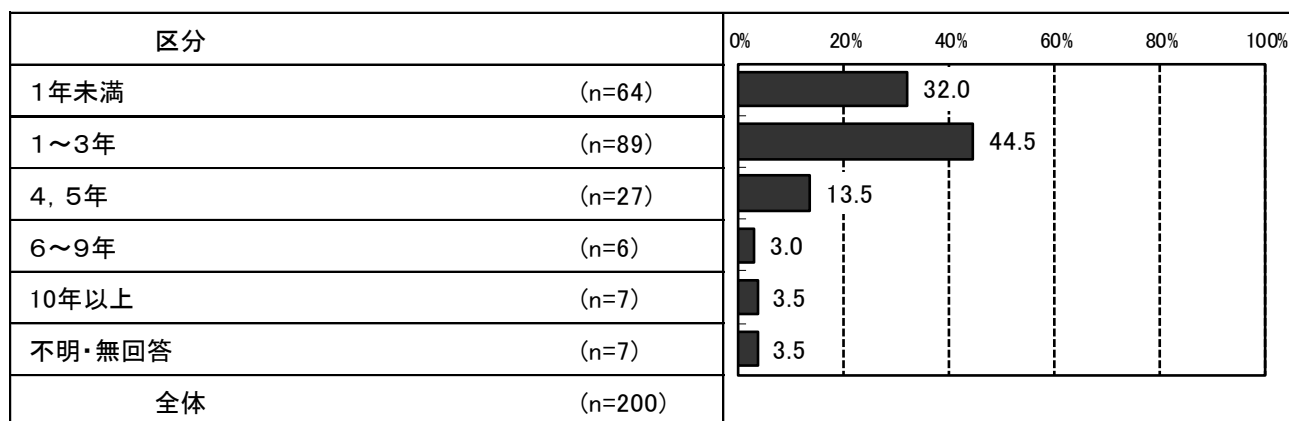
○年齢別にみると、29歳以下は「1年以上、3年未満」、30歳代は「3年以上、5年未満」、40歳以上は「10年以上」が最も多くなっています。また、29歳以下のみ「半年未満」が20%台と、ほかの年代より多くなっています。

問9 あなたは何歳のときに日本に来ましたか。



「20～29歳」が71.0%で最も多く、次いで「30～39歳」が13.5%、「16～19歳」が10.5%で続いています。

問10 あなたは三木市にどのくらい住んでいますか。

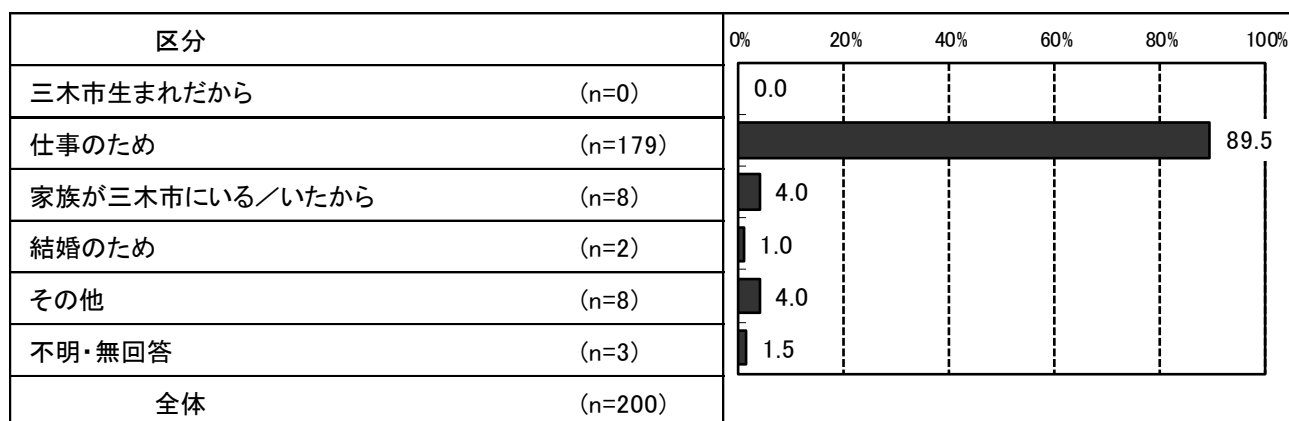


「1～3年」が44.5%で最も多く、次いで「1年未満」が32.0%、「4, 5年」が13.5%が続いています。

		(n)	1年未満	1～3年	4,5年	6～9年	10年以上	不明・無回答
全体		200	32.0	44.5	13.5	3.0	3.5	3.5
性別	男性	78	41.0	34.6	16.7	2.6	1.3	3.8
	女性	120	25.8	50.8	11.7	3.3	5.0	3.3
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

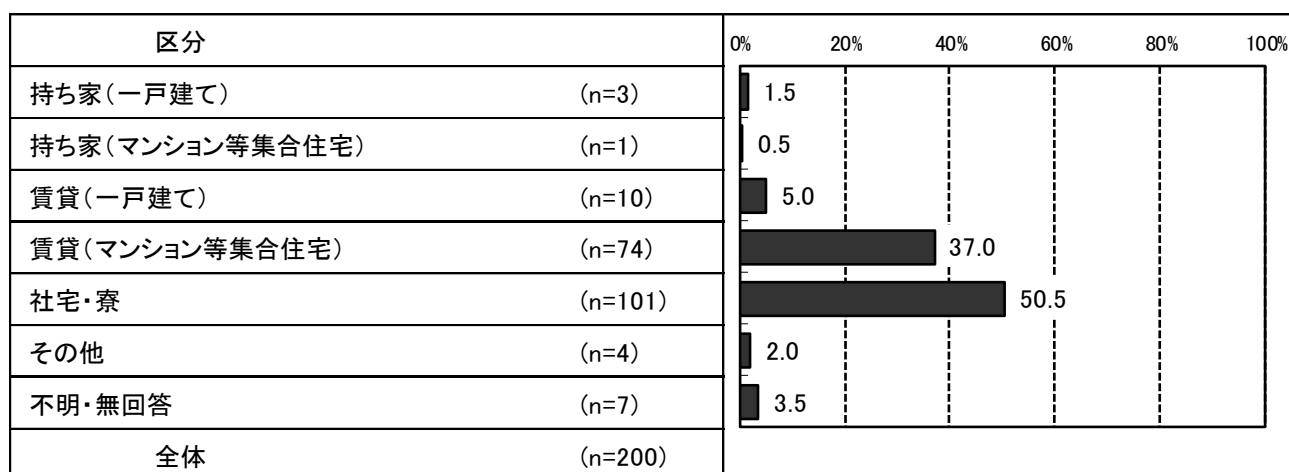
○性別にみると、男性は「1年未満」、女性は「1～3年」が最も多くなっています。

問11 三木市に住んだ理由は何ですか。



「仕事のため」が89.5%で最も多く、次いで「家族が三木市にいる／いたから」と「その他」が、ともに4.0%、「結婚のため」が1.0%が続いています。

問 12 現在の住居形態を教えてください。

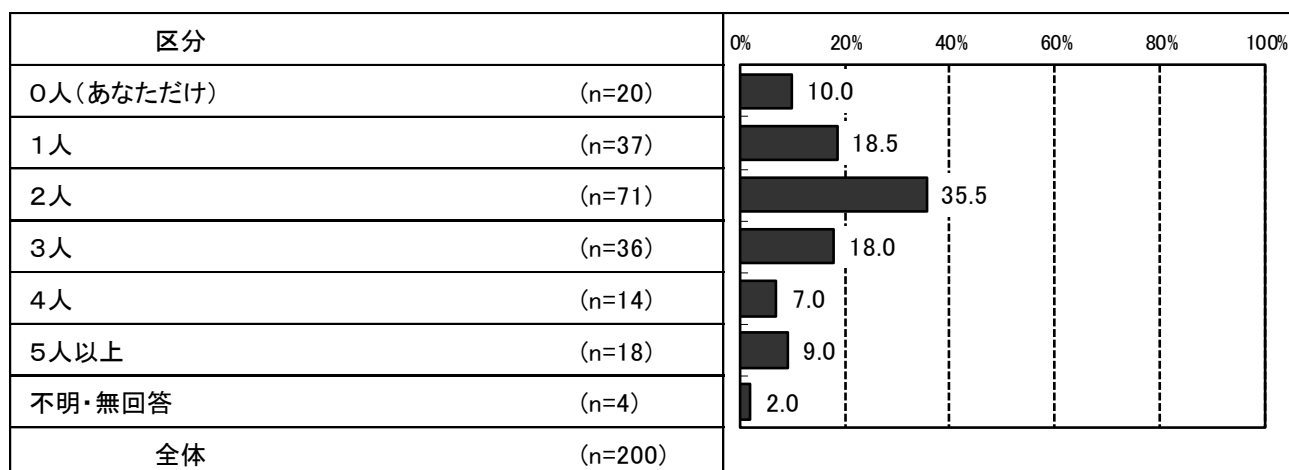


「社宅・寮」が 50.5%で最も多く、次いで「賃貸(マンション等集合住宅)」が 37.0%、「賃貸(一戸建て)」が 5.0%で続いています。

	(n)	持ち家(一戸建て)	持ち家(マンション等集合住宅)	賃貸(一戸建て)	賃貸(マンション等集合住宅)	社宅・寮	その他	不明・無回答	
全体	200	1.5	0.5	5.0	37.0	50.5	2.0	3.5	
在日期间	1年未満	43	0.0	0.0	2.3	48.8	44.2	0.0	4.7
	1～3年未満	62	0.0	1.6	3.2	21.0	66.1	1.6	6.5
	3～5年未満	63	1.6	0.0	4.8	41.3	47.6	4.8	0.0
	5年以上	26	7.7	0.0	15.4	50.0	26.9	0.0	0.0

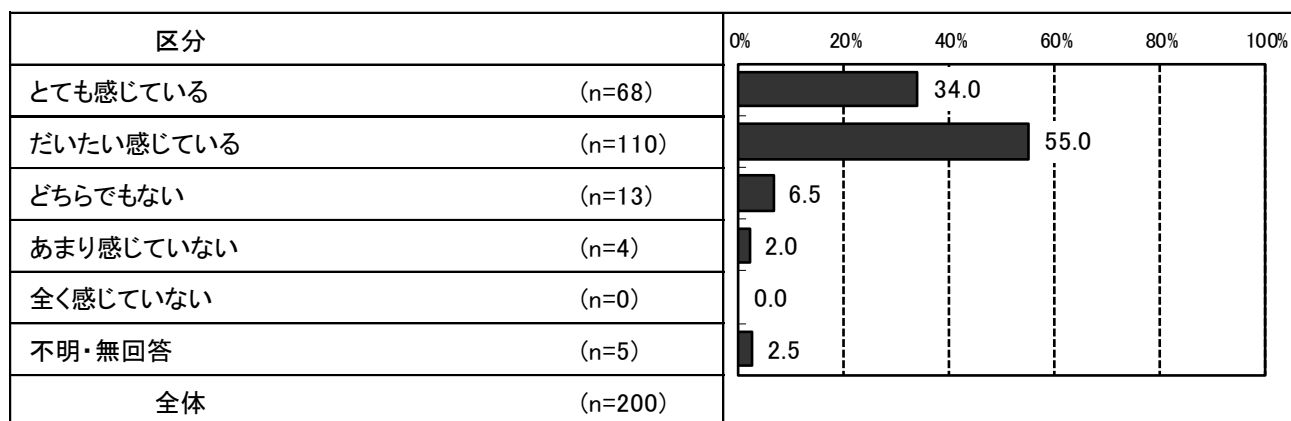
○在日期间別にみると、1年未満と5年以上の人は「賃貸(マンション等集合住宅)」、1～3年未満と3～5年未満の人は「社宅・寮」が最も多くなっています。

問 13 現在、一緒に住んでいる人は何人ですか。(あなた以外)。



「2人」が 35.5%で最も多く、次いで「1人」が 18.5%、「3人」が 18.0%で続いています。

問 14 三木市に住んで良かったと感じていますか。



「だいたい感じている」が55.0%で最も多く、次いで「とても感じている」が34.0%、「どちらでもない」が6.5%が続いています。

	(n)	とても感じている	だいたい感じている	どちらでもない	あまり感じていない	全く感じていない	不明・無回答	
全体	200	34.0	55.0	6.5	2.0	0.0	2.5	
年齢	29歳以下	138	31.9	57.2	8.0	1.4	0.0	1.4
	30歳代	42	33.3	57.1	2.4	2.4	0.0	4.8
	40歳以上	16	56.3	25.0	6.3	6.3	0.0	6.3
在日期间	1年未満	43	25.6	65.1	4.7	2.3	0.0	2.3
	1～3年未満	62	32.3	54.8	9.7	1.6	0.0	1.6
	3～5年未満	63	34.9	54.0	4.8	1.6	0.0	4.8
	5年以上	26	53.8	34.6	7.7	3.8	0.0	0.0

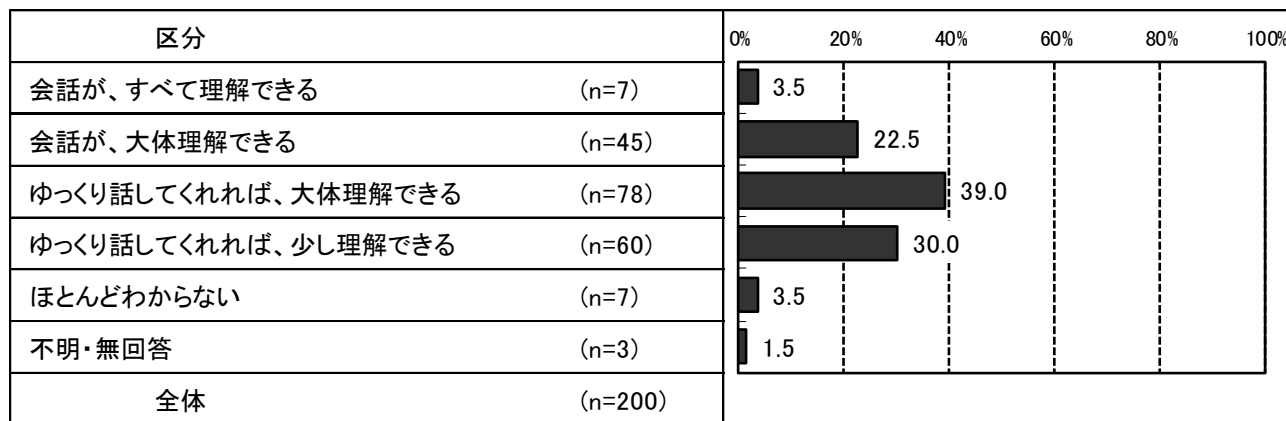
○年齢別にみると、30歳代以下の年代は「だいたい感じている」、40歳以上は「とても感じている」が最も多くなっています。

○在日期间別にみると、5年未満の人は「だいたい感じている」、5年以上の人は「とても感じている」が最も多くなっています。

## 2. 日本語力について

問 15 あなたは、日本語をどのくらい理解できますか？下の[聞く][話す][読む][書く]について、それぞれ a. ~e. から1つずつ選んでください。

[①聞く]



「ゆっくり話してくれれば、大体理解できる」が39.0%で最も多く、次いで「ゆっくり話してくれれば、少し理解できる」が30.0%、「会話が、大体理解できる」が22.5%で続いています。

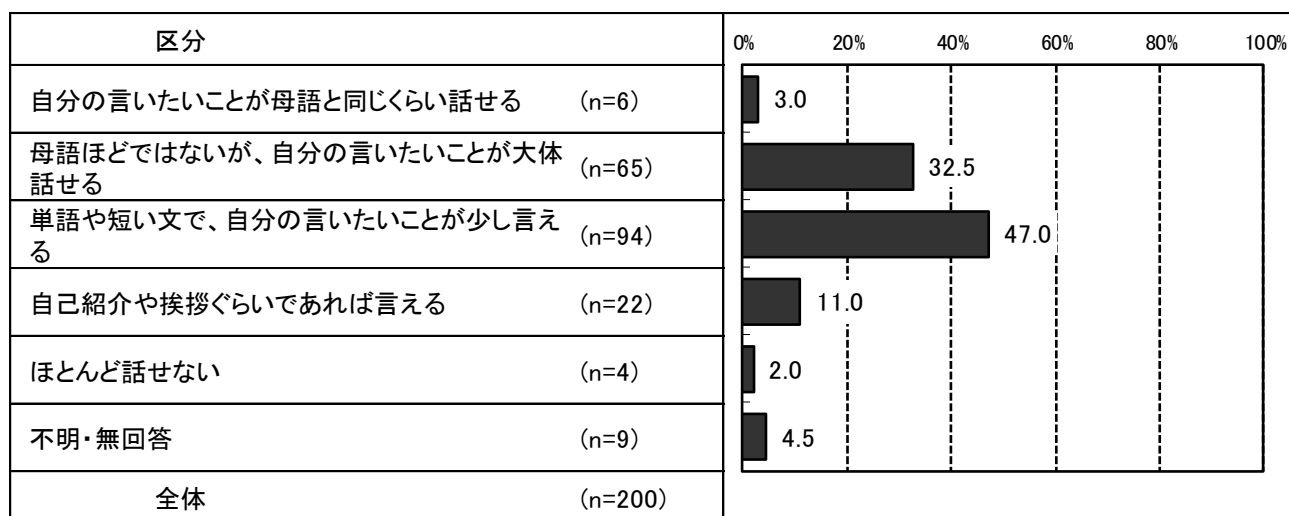
	(n)	会話が、 すべて理 解できる	会話が、 大体理 解できる	ゆっくり 話してく れれば、 大体理 解できる	ゆっくり 話してく れれば、 少し理 解できる	ほとんど わから ない	不明・無 回答	
全体	200	3.5	22.5	39.0	30.0	3.5	1.5	
年齢	29歳以下	138	3.6	26.1	37.7	27.5	2.9	2.2
	30歳代	42	2.4	11.9	38.1	40.5	7.1	0.0
	40歳以上	16	6.3	25.0	56.3	12.5	0.0	0.0
在日 期間	1年未満	43	4.7	4.7	30.2	48.8	7.0	4.7
	1～3年未満	62	1.6	27.4	35.5	33.9	1.6	0.0
	3～5年未満	63	1.6	25.4	42.9	23.8	4.8	1.6
	5年以上	26	11.5	30.8	46.2	11.5	0.0	0.0

○年齢別にみると、29歳以下・40歳以上は「ゆっくり話してくれれば、大体理解できる」、30歳代は「ゆっくり話してくれれば、少し理解できる」が最も多くなっています。

○在日期間別にみると、1年未満の人は「ゆっくり話してくれれば、少し理解できる」、1年以上の人は「ゆっくり話してくれれば、大体理解できる」が最も多くなっています。5年以上の人のみ「会話が、すべて理解できる」が10%台となっています。



【②話す】



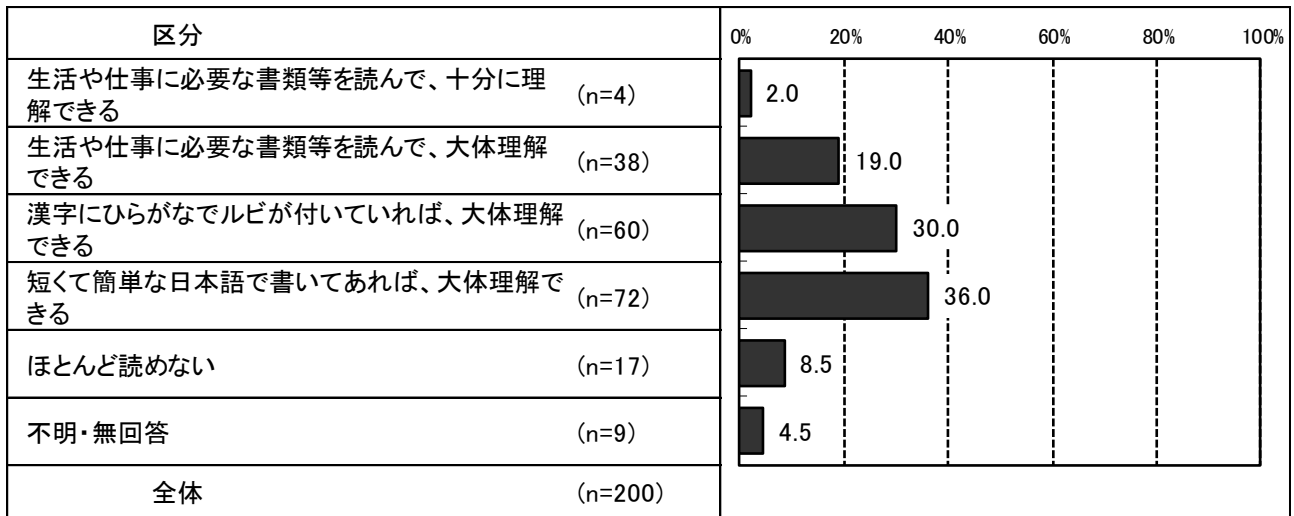
「単語や短い文で、自分の言いたいことが少し言える」が47.0%で最も多く、次いで「母語ほどではないが、自分の言いたいことが大体話せる」が32.5%、「自己紹介や挨拶ぐらいであれば言える」が11.0%で続いています。

	(n)	自分の言いたいことが母語と同じくらい話せる	母語ほどではないが、自分の言いたいことが大体話せる	単語や短い文で、自分の言いたいことが少し言える	自己紹介や挨拶ぐらいであれば言える	ほとんど話せない	不明・無回答	
全体	200	3.0	32.5	47.0	11.0	2.0	4.5	
年齢	29歳以下	138	2.9	33.3	47.1	8.7	2.2	5.8
	30歳代	42	2.4	28.6	47.6	16.7	2.4	2.4
	40歳以上	16	6.3	43.8	43.8	6.3	0.0	0.0
在日期间	1年未満	43	2.3	14.0	48.8	25.6	0.0	9.3
	1～3年未満	62	1.6	35.5	45.2	11.3	3.2	3.2
	3～5年未満	63	3.2	38.1	50.8	6.3	1.6	0.0
	5年以上	26	7.7	46.2	38.5	0.0	3.8	3.8

○年齢別にみると、40歳以上は「母語ほどではないが、自分の言いたいことが大体話せる」と「単語や短い文で、自分の言いたいことが少し言える」、30歳代以下の年代は「単語や短い文で、自分の言いたいことが少し言える」が最も多くなっています。

○在日期間別にみると、5年以上の人は「母語ほどではないが、自分の言いたいことが大体話せる」、5年未満の人は「単語や短い文で、自分の言いたいことが少し言える」が最も多くなっています。1年未満の人は「自己紹介や挨拶ぐらいであれば言える」が20%台と、ほかより多くなっています。

【③読む】



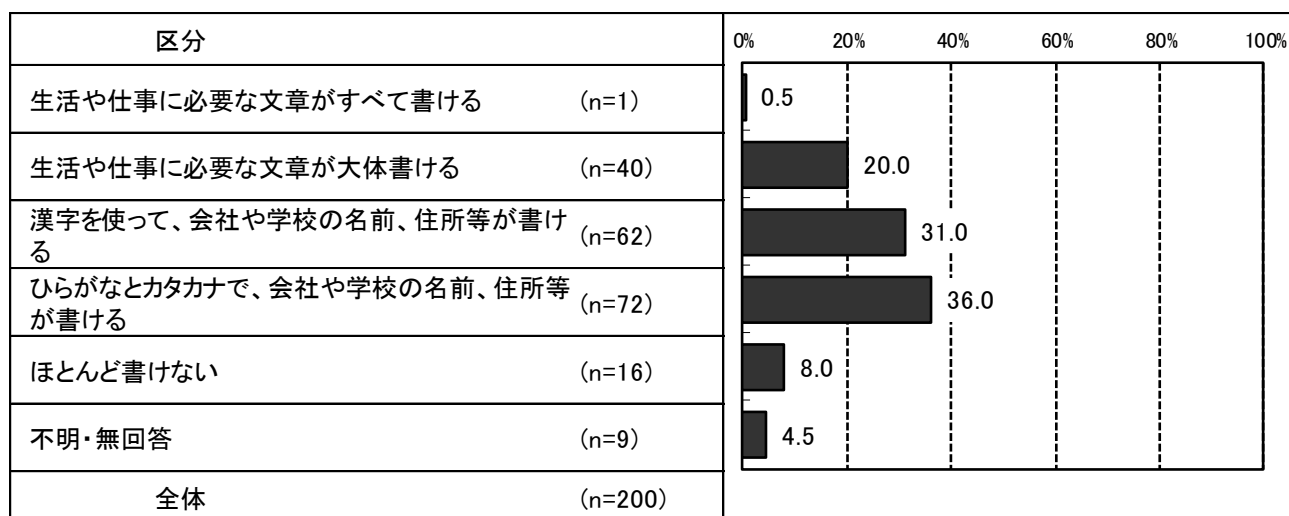
「短くて簡単な日本語で書いてあれば、大体理解できる」が36.0%で最も多く、次いで「漢字にひらがなでルビが付いていれば、大体理解できる」が30.0%、「生活や仕事に必要な書類等を読んで、大体理解できる」が19.0%が続いています。

	(n)	生活や仕事に必要な書類等を読んで、十分に理解できる	生活や仕事に必要な書類等を読んで、大体理解できる	漢字にひらがなでルビが付いていれば、大体理解できる	短くて簡単な日本語で書いてあれば、大体理解できる	ほとんど読めない	不明・無回答	
全体	200	2.0	19.0	30.0	36.0	8.5	4.5	
年齢	29歳以下	138	1.4	22.5	30.4	34.1	6.5	5.1
	30歳代	42	2.4	16.7	21.4	38.1	16.7	4.8
	40歳以上	16	6.3	0.0	50.0	43.8	0.0	0.0
在日期间	1年未満	43	0.0	9.3	20.9	60.5	4.7	4.7
	1～3年未満	62	3.2	22.6	32.3	27.4	11.3	3.2
	3～5年未満	63	3.2	22.2	28.6	31.7	11.1	3.2
	5年以上	26	0.0	23.1	42.3	30.8	3.8	0.0

○年齢別にみると、40歳以上は「漢字にひらがなでルビが付いていれば、大体理解できる」、30歳代以下の年代は「短くて簡単な日本語で書いてあれば、大体理解できる」が最も多くなっています。29歳以下は「生活や仕事に必要な書類等を読んで、大体理解できる」が20%台と、ほかの年代より多くなっています。

○在日期间別にみると、1～3年未満と5年以上の人は「漢字にひらがなでルビが付いていれば、大体理解できる」、1年未満と3～5年未満の人は「短くて簡単な日本語で書いてあれば、大体理解できる」が最も多くなっています。

〔④書く〕



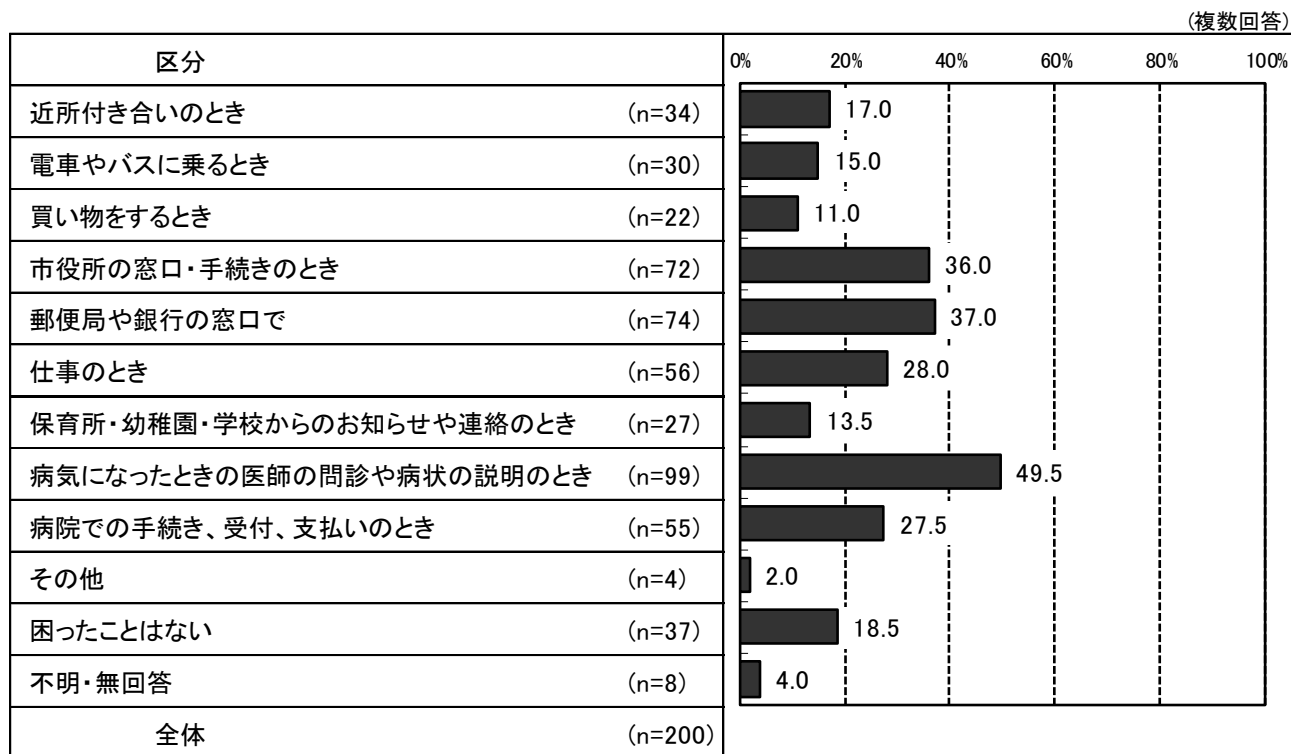
「ひらがなとカタカナで、会社や学校の名前、住所等が書ける」が 36.0%で最も多く、次いで「漢字を使って、会社や学校の名前、住所等が書ける」が 31.0%、「生活や仕事に必要な文章が大体書ける」が 20.0%で続いています。

	(n)	生活や仕事に必要な文章がすべて書ける	生活や仕事に必要な文章が大体書ける	漢字を使って、会社や学校の名前、住所等が書ける	ひらがなとカタカナで、会社や学校の名前、住所等が書ける	ほとんど書けない	不明・無回答	
全体	200	0.5	20.0	31.0	36.0	8.0	4.5	
年齢	29歳以下	138	0.7	26.8	26.8	32.6	8.7	4.3
	30歳代	42	0.0	7.1	38.1	38.1	9.5	7.1
	40歳以上	16	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
在日期間	1年未満	43	0.0	7.0	14.0	65.1	9.3	4.7
	1～3年未満	62	0.0	21.0	37.1	30.6	8.1	3.2
	3～5年未満	63	0.0	28.6	39.7	20.6	9.5	1.6
	5年以上	26	3.8	19.2	26.9	38.5	3.8	7.7

○年齢別にみると、30歳以上の年代は「漢字を使って、会社や学校の名前、住所等が書ける」と「ひらがなとカタカナで、会社や学校の名前、住所等が書ける」、29歳以下は「ひらがなとカタカナで、会社や学校の名前、住所等が書ける」が最も多くなっています。また、29歳以下は「生活や仕事に必要な文章が大体書ける」が20%台と、ほかの年代より多くなっています。

○在日期間別にみると、1～3年未満と3～5年未満の人は「漢字を使って、会社や学校の名前、住所等が書ける」、1年未満と5年以上の人は「ひらがなとカタカナで、会社や学校の名前、住所等が書ける」が最も多くなっています。

問 16 あなたは次のようなとき、日本語を上手に話せなくて困ったことはありませんか。(複数選択可)



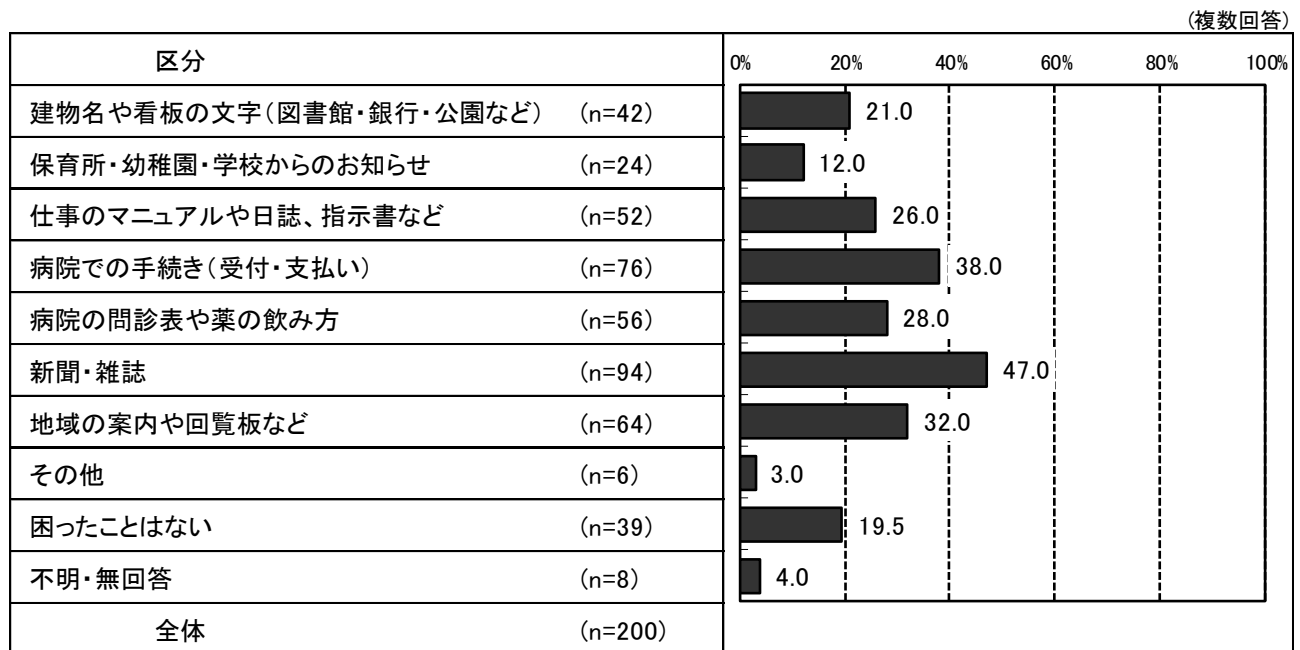
「病気になったときの医師の問診や病状の説明のとき」が49.5%で最も多く、次いで「郵便局や銀行の窓口で」が37.0%、「市役所の窓口・手続きのとき」が36.0%で続いています。

	(n)	近所付き合いのとき	電車やバスに乗るとき	買い物をするとき	市役所の窓口・手続きのとき	郵便局や銀行の窓口で	仕事するとき	お知らせや連絡のとき	保育所・幼稚園・学校からの	問診や病状の説明のとき	病気になったときの医師の問診や病状の説明のとき	病院での手続き、受付、支払いのとき	その他	困ったことはない	不明・無回答
全体	200	17.0	15.0	11.0	36.0	37.0	28.0	13.5	49.5	27.5	2.0	18.5	4.0		
年齢	29歳以下	138	18.8	15.9	12.3	36.2	39.1	29.0	13.0	49.3	26.1	0.7	18.1	3.6	
	30歳代	42	14.3	14.3	9.5	35.7	40.5	31.0	16.7	59.5	35.7	4.8	16.7	2.4	
	40歳以上	16	6.3	6.3	0.0	31.3	6.3	0.0	12.5	31.3	18.8	6.3	25.0	12.5	
在日期间	1年未満	43	27.9	25.6	16.3	41.9	41.9	41.9	11.6	34.9	25.6	2.3	18.6	4.7	
	1～3年未満	62	14.5	19.4	11.3	33.9	38.7	33.9	16.1	58.1	25.8	1.6	21.0	1.6	
	3～5年未満	63	15.9	9.5	11.1	39.7	42.9	23.8	12.7	60.3	39.7	3.2	9.5	1.6	
	5年以上	26	11.5	3.8	0.0	26.9	19.2	3.8	15.4	38.5	11.5	0.0	34.6	3.8	

○年齢別にみると、40歳以上は「市役所の窓口・手続きのとき」と「病気になったときの医師の問診や病状の説明のとき」、30歳代以下の年代は「病気になったときの医師の問診や病状の説明のとき」が最も多くなっています。

○在日期间別にみると、1年未満の人は「市役所の窓口・手続きのとき」と「郵便局や銀行の窓口で」と「仕事するとき」、1年以上の人は「病気になったときの医師の問診や病状の説明のとき」が最も多くなっています。「近所付き合いのとき」は1年未満の人で27.9%と、ほかの人より10ポイント以上多くなっています。

問 17 あなたは次のようなとき、日本語が読めなくて困ったことはありましたか。(複数選択可)



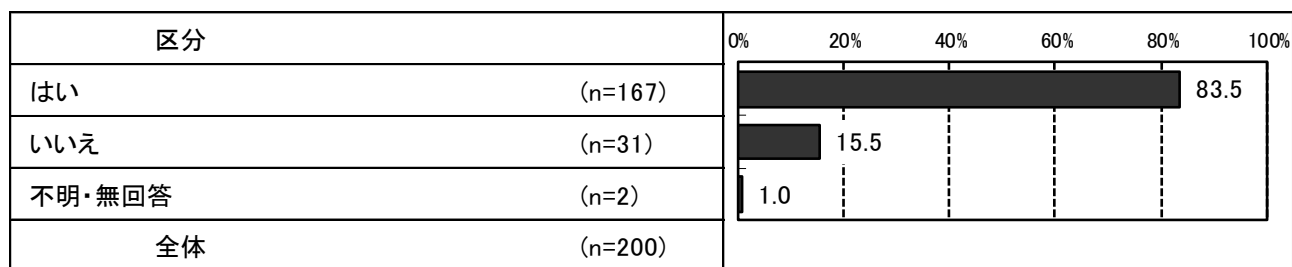
「新聞・雑誌」が47.0%で最も多く、次いで「病院での手続き(受付・支払い)」が38.0%、「地域の案内や回覧板など」が32.0%で続いています。

		(n)	建物名や看板の文字(図書館・銀行・公園など)	保育所・幼稚園・学校からのお知らせ	仕事のマニュアルや日誌、指示書など	病院での手続き(受付・支払い)	病院の問診表や薬の飲み方	新聞・雑誌	地域の案内や回覧板など	その他	困ったことはない	不明・無回答
全体		200	21.0	12.0	26.0	38.0	28.0	47.0	32.0	3.0	19.5	4.0
年齢	29歳以下	138	18.8	10.9	23.2	35.5	24.6	49.3	32.6	2.9	21.0	3.6
	30歳代	42	26.2	19.0	33.3	50.0	38.1	47.6	31.0	2.4	14.3	4.8
	40歳以上	16	31.3	6.3	31.3	31.3	31.3	31.3	18.8	6.3	18.8	6.3
在日期间	1年未満	43	20.9	9.3	41.9	39.5	27.9	58.1	48.8	2.3	14.0	2.3
	1～3年未満	62	24.2	16.1	24.2	33.9	22.6	40.3	29.0	3.2	25.8	4.8
	3～5年未満	63	17.5	11.1	19.0	49.2	33.3	50.8	25.4	3.2	14.3	3.2
	5年以上	26	26.9	11.5	26.9	26.9	34.6	42.3	34.6	3.8	19.2	0.0

○年齢別にみると、29歳以下は「新聞・雑誌」、30歳代は「病院での手続き(受付・支払い)」、40歳以上は「建物名や看板の文字(図書館・銀行・公園など)」「仕事のマニュアルや日誌、指示書など」「病院での手続き(受付・支払い)」「病院の問診表や薬の飲み方」「新聞・雑誌」が最も多くなっています。「地域の案内や回覧板など」は40歳以上のみ10%台と、ほかの年代より低くなっています。

○在日期间別にみると、在日期间に関わらず「新聞・雑誌」が最も多くなっています。1年未満の人は「仕事のマニュアルや日誌、指示書など」「地域の案内や回覧板など」がほかの人より10ポイント以上多くなっています。

問 18 あなたは今、日本語を学んでいますか。



「はい」が83.5%、「いいえ」が15.5%となっています。

		(n)	はい	いいえ	不明・無回答
全体		200	83.5	15.5	1.0
性別	男性	78	91.0	9.0	0.0
	女性	120	79.2	20.0	0.8
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0
年齢	29歳以下	138	87.0	12.3	0.7
	30歳代	42	83.3	16.7	0.0
	40歳以上	16	62.5	31.3	6.3
在日期间	1年未満	43	90.7	7.0	2.3
	1～3年未満	62	77.4	22.6	0.0
	3～5年未満	63	90.5	9.5	0.0
	5年以上	26	76.9	23.1	0.0

○性別にみると、男女ともに「はい」が最も多くなっていますが、男性より女性のほうが10ポイント以上低くなっています。

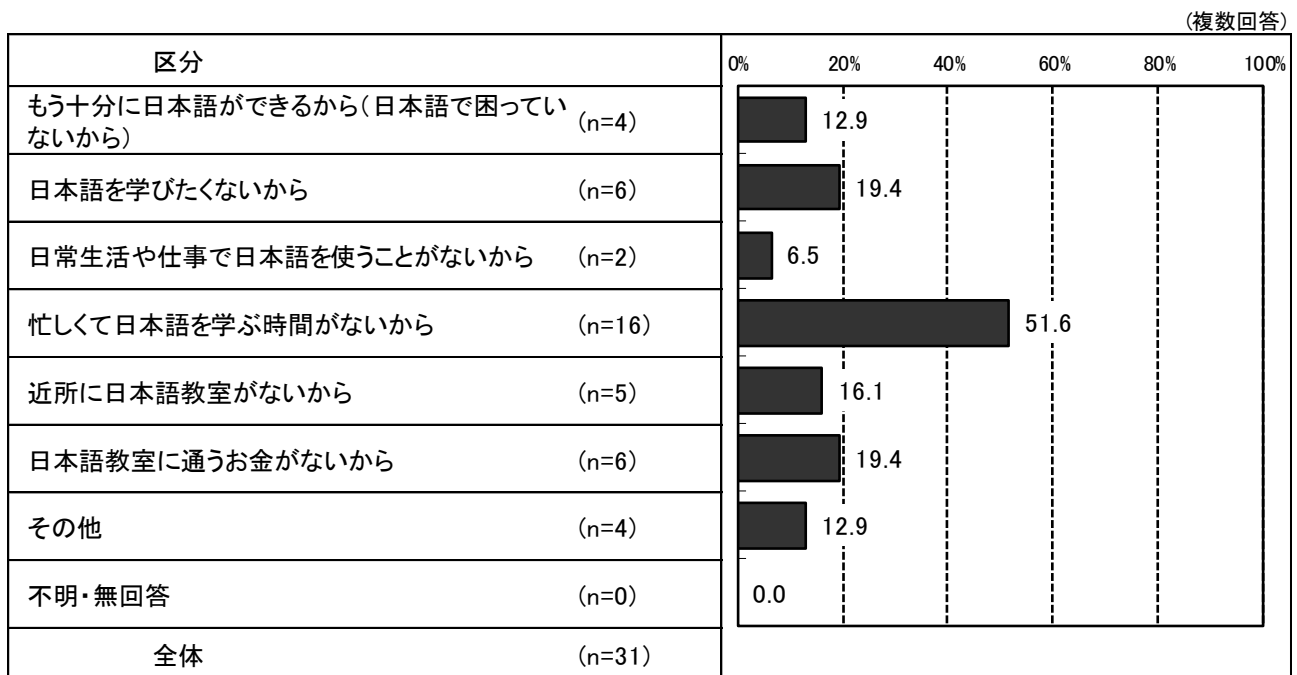
○年齢別にみると、年齢に関わらず「はい」が最も多くなっていますが、40歳以上はほかの年代より10ポイント以上低くなっています。

○在日期间別にみると、在日期间に関わらず「はい」が最も多くなっていますが、1～3年未満と5年以上の人はほかの人より10ポイント以上低くなっています。



問 18 で「いいえ」を答えた方がお答えください。

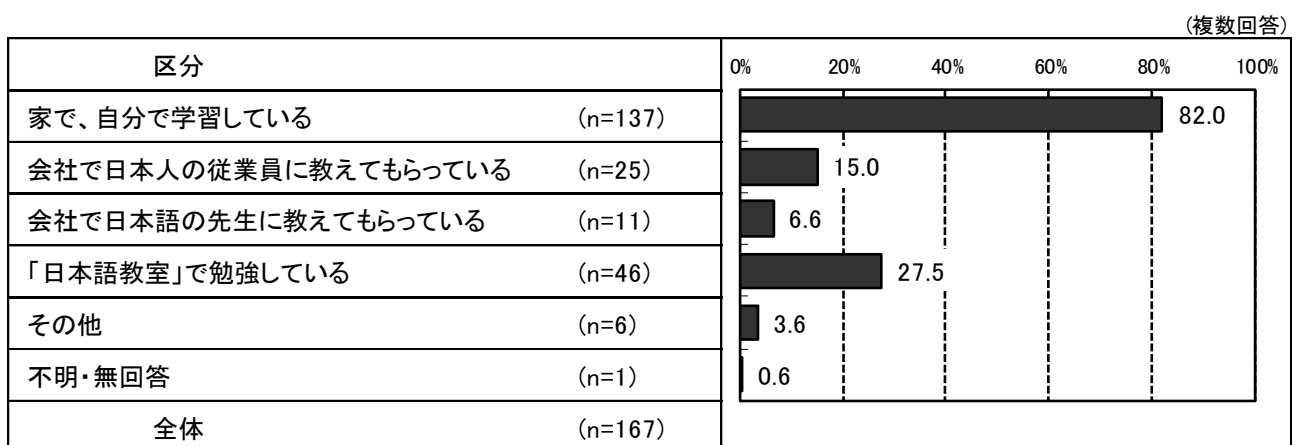
問 19 今、日本語を学んでいない理由を教えてください。(複数選択可)



「忙しくて日本語を学ぶ時間がないから」が51.6%で最も多く、次いで「日本語を学びたくないから」と「日本語教室に通うお金がないから」が、ともに19.4%、「近所に日本語教室がないから」が16.1%で続いています。

問 18 で「はい」を答えた方がお答えください。

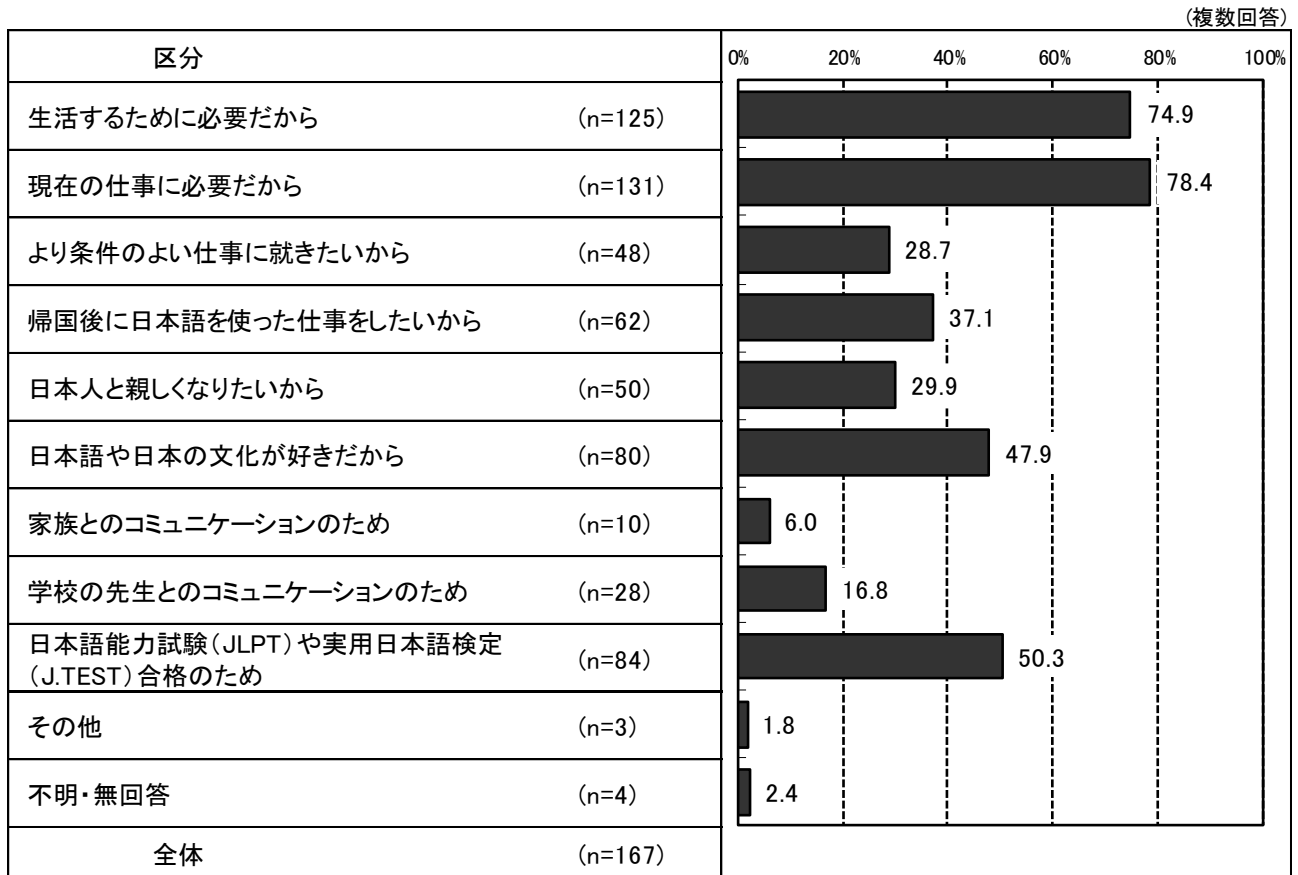
問 20 どうやって日本語を学習していますか。(複数選択可)



「家で、自分で学習している」が82.0%で最も多く、次いで「「日本語教室」で勉強している」が27.5%、「会社で日本人の従業員に教えてもらっている」が15.0%で続いています。

問 18 で「はい」を答えた方がお答えください。

問 21 日本語を学ぶ目的は何ですか。(複数選択可)



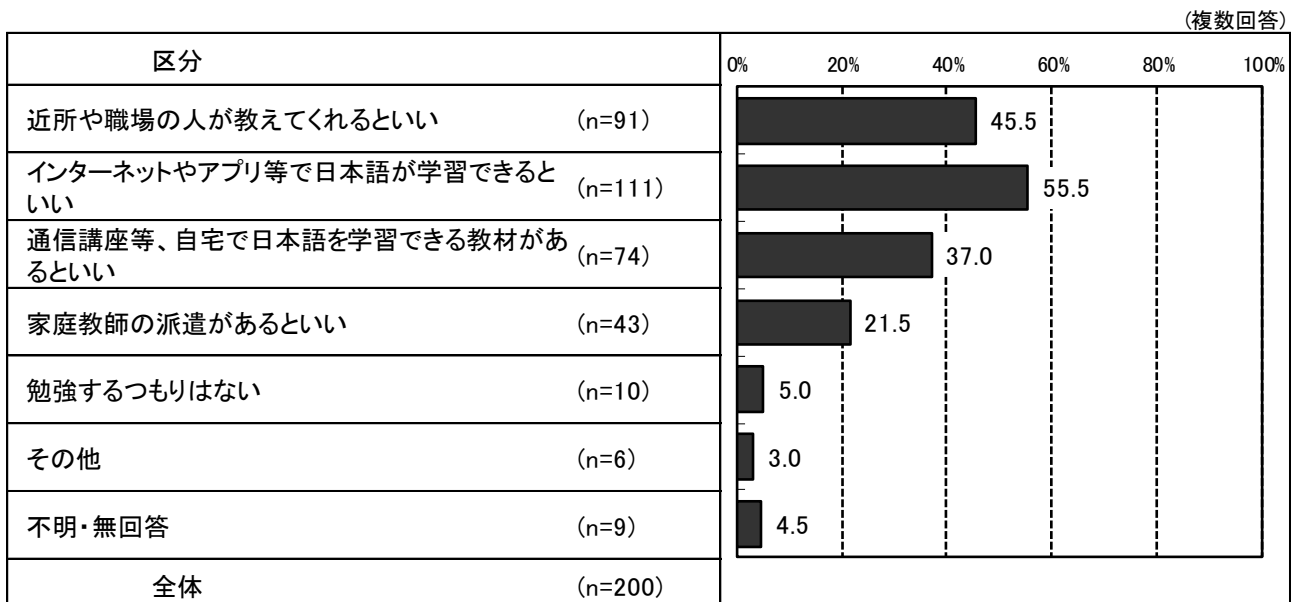
「現在の仕事に必要なだから」が78.4%で最も多く、次いで「生活するために必要だから」が74.9%、「日本語能力試験（JLPT）や実用日本語検定（J.TEST）合格のため」が50.3%が続いています。

	(n)	生活するために必要だから	現在の仕事に必要なだから	より条件のよい仕事に就きたいから	帰国後に日本語を使った仕事をしたいから	日本人と親しくなりたいたいから	日本語や日本の文化が好きだから	家族とのコミュニケーションのため	学校の先生とのコミュニケーションのため	日本語能力試験(JLPT)や実用日本語検定(J.TEST)合格のため	その他	不明・無回答	
全体	167	74.9	78.4	28.7	37.1	29.9	47.9	6.0	16.8	50.3	1.8	2.4	
年齢	29歳以下	120	74.2	77.5	26.7	40.0	28.3	50.0	5.8	15.0	52.5	2.5	1.7
	30歳代	35	77.1	85.7	34.3	34.3	34.3	45.7	2.9	22.9	54.3	0.0	5.7
	40歳以上	10	80.0	70.0	40.0	20.0	30.0	30.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0

○年齢別にみると、40歳以上は「生活するために必要だから」、30歳代以下の年代は「現在の仕事に必要なだから」が最も多くなっています。また30歳代以下の年代は「日本語能力試験(JLPT)や実用日本語検定(J.TEST)合格のため」が半数を超えています。

すべての方がお答えください。

問22 今後、どのような日本語学習機会があればいいと思いますか。(複数選択可)



「インターネットやアプリ等で日本語が学習できるといい」が55.5%で最も多く、次いで「近所や職場の人が教えてくれるといい」が45.5%、「通信講座等、自宅で日本語を学習できる教材があるといい」が37.0%で続いています。

	(n)	近所や職場の人が教えてくれるといい	インターネットやアプリ等で日本語が学習できるといい	通信講座等、自宅で日本語を学習できる教材があるといい	家庭教師の派遣があるといい	勉強するつもりはない	その他	不明・無回答
全体	200	45.5	55.5	37.0	21.5	5.0	3.0	4.5
年齢	29歳以下	138	42.8	58.7	37.0	18.8	4.3	3.6
	30歳代	42	52.4	54.8	42.9	23.8	0.0	7.1
	40歳以上	16	50.0	37.5	25.0	31.3	0.0	0.0
在日期间	1年未満	43	41.9	62.8	30.2	25.6	2.3	7.0
	1～3年未満	62	40.3	58.1	33.9	14.5	4.8	1.6
	3～5年未満	63	57.1	63.5	44.4	23.8	3.2	3.2
	5年以上	26	34.6	30.8	46.2	30.8	0.0	3.8

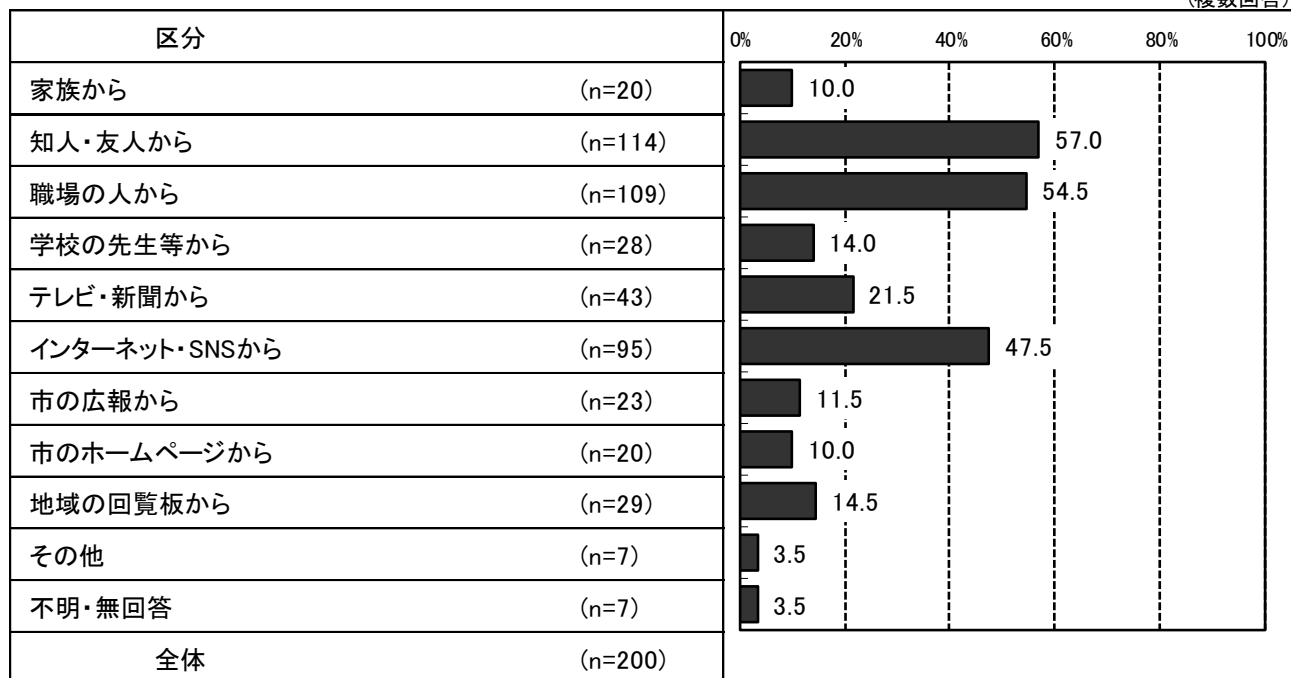
○年齢別にみると、40歳以上は「近所や職場の人が教えてくれるといい」、30歳代以下の年代は「インターネットやアプリ等で日本語が学習できるといい」が最も多くなっています。また「通信講座等、自宅で日本語を学習できる教材があるといい」は40歳以上のみ20%台と、ほかの年代より低くなっています。

○在日期间別にみると、5年未満の人は「インターネットやアプリ等で日本語が学習できるといい」、5年以上の人は「通信講座等、自宅で日本語を学習できる教材があるといい」が最も多くなっています。また、「近所や職場の人が教えてくれるといい」は3～5年未満の人のみ半数を超えています。

### 3. 三木市での暮らしについて（情報・交流）

問 23 あなたは、日常生活に必要な情報をどこから入手していますか。（複数選択可）

（複数回答）



「知人・友人から」が57.0%で最も多く、次いで「職場の人から」が54.5%、「インターネット・SNSから」が47.5%が続いています。

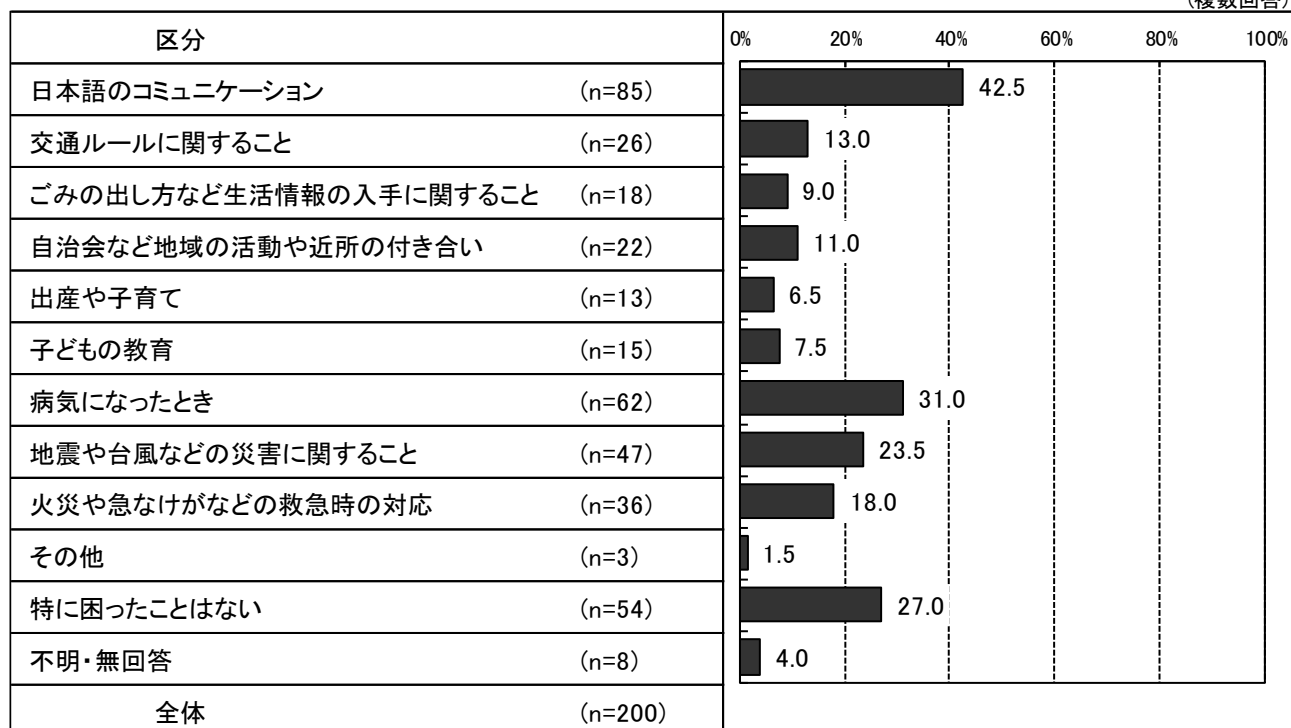
	(n)	家族から	知人・友人から	職場の人から	学校の先生等から	テレビ・新聞から	インターネット・SNSから	市の広報から	市のホームページから	地域の回覧板から	その他	不明・無回答	
全体	200	10.0	57.0	54.5	14.0	21.5	47.5	11.5	10.0	14.5	3.5	3.5	
年齢	29歳以下	138	5.1	60.1	52.2	12.3	20.3	47.8	8.7	7.2	15.2	2.9	2.9
	30歳代	42	21.4	57.1	59.5	9.5	16.7	57.1	16.7	14.3	14.3	2.4	7.1
	40歳以上	16	25.0	43.8	62.5	31.3	50.0	31.3	25.0	25.0	12.5	6.3	0.0
在日期间	1年未満	43	4.7	58.1	62.8	18.6	14.0	46.5	0.0	2.3	11.6	2.3	2.3
	1～3年未満	62	6.5	54.8	46.8	8.1	16.1	46.8	9.7	4.8	16.1	3.2	1.6
	3～5年未満	63	9.5	58.7	58.7	15.9	22.2	52.4	12.7	12.7	12.7	6.3	1.6
	5年以上	26	30.8	57.7	61.5	19.2	50.0	50.0	34.6	30.8	19.2	0.0	7.7

○年齢別にみると、29歳以下は「知人・友人から」、30歳代以上の人は「職場の人から」が最も多くなっています。40歳以上の人は「学校の先生等から」「テレビ・新聞から」「市のホームページから」が30歳代以下の人より10ポイント以上多くなっています。30歳代以下の人は「知人・友人から」「インターネット・SNSから」が40歳以上の人より10ポイント以上多くなっています。

○在日期间別にみると、在日期间に関わらず「知人・友人から」「職場の人から」に回答が集中しています。5年以上の人は「家族から」「テレビ・新聞から」「市の広報から」「市のホームページから」がほかの人より10ポイント以上多くなっています。

問 24 あなたが不安に感じていること、困っていることがありますか。(複数選択可)

(複数回答)



「日本語のコミュニケーション」が42.5%で最も多く、次いで「病気になったとき」が31.0%、「特に困ったことはない」が27.0%で続いています。

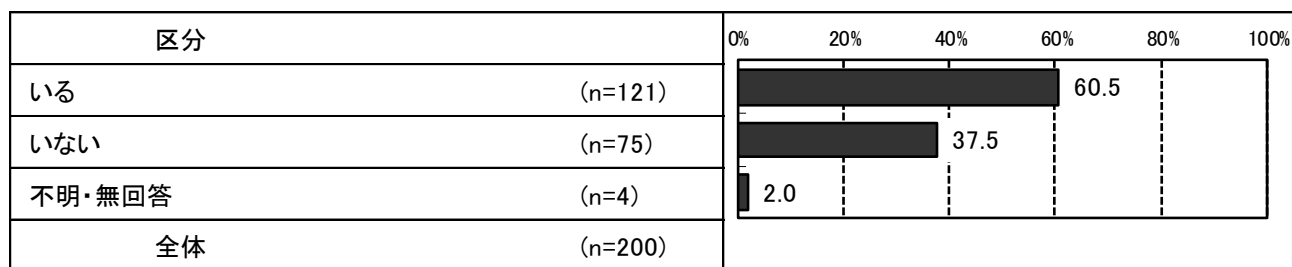
	(n)	日本語のコミュニケーション	交通ルールに関すること	報の入手に関すること	ごみの出し方など生活情報に関すること	近所の付き合い 自治会など地域の活動や近所の付き合い	出産や子育て	子どもの教育	病気になったとき	地震や台風などの災害に関すること	火災や急なけがなどの救急時の対応	その他	特に困ったことはない	不明・無回答
全体	200	42.5	13.0	9.0	11.0	6.5	7.5	31.0	23.5	18.0	1.5	27.0	4.0	
年齢	29歳以下	138	44.9	13.0	8.7	9.4	5.8	4.3	26.1	23.2	18.1	2.2	27.5	2.2
	30歳代	42	42.9	16.7	11.9	11.9	9.5	16.7	45.2	26.2	21.4	0.0	21.4	7.1
	40歳以上	16	25.0	6.3	6.3	25.0	6.3	12.5	31.3	18.8	12.5	0.0	31.3	12.5
在日期间	1年未満	43	67.4	25.6	14.0	11.6	2.3	2.3	32.6	23.3	23.3	2.3	16.3	0.0
	1～3年未満	62	41.9	8.1	3.2	9.7	4.8	4.8	17.7	14.5	14.5	0.0	35.5	6.5
	3～5年未満	63	36.5	12.7	11.1	6.3	4.8	6.3	46.0	38.1	19.0	3.2	22.2	3.2
	5年以上	26	26.9	7.7	11.5	26.9	23.1	26.9	30.8	15.4	19.2	0.0	23.1	3.8

○年齢別にみると、29歳以下は「日本語のコミュニケーション」、30歳代は「病気になったとき」、40歳以上は「病気になったとき」と「特に困ったことはない」が最も多くなっています。40歳以上は「自治会など地域の活動や近所の付き合い」が20%台と、ほかの年代より10ポイント以上多くなっています。

○在日期间別にみると、3年未満の人は「日本語のコミュニケーション」、3年以上の人は「病気になったとき」が最も多くなっています。1年未満の人は「交通ルールに関すること」が20%台とほかの人より10ポイント以上多くなっています。5年以上の人は「自治会など地域の活動や近所の付き合い」「出産や子育て」「子どもの教育」がほかの人より10ポイント以上多くなっています。



問 25 あなたは、三木市に住む日本人の友人や同僚がいますか。



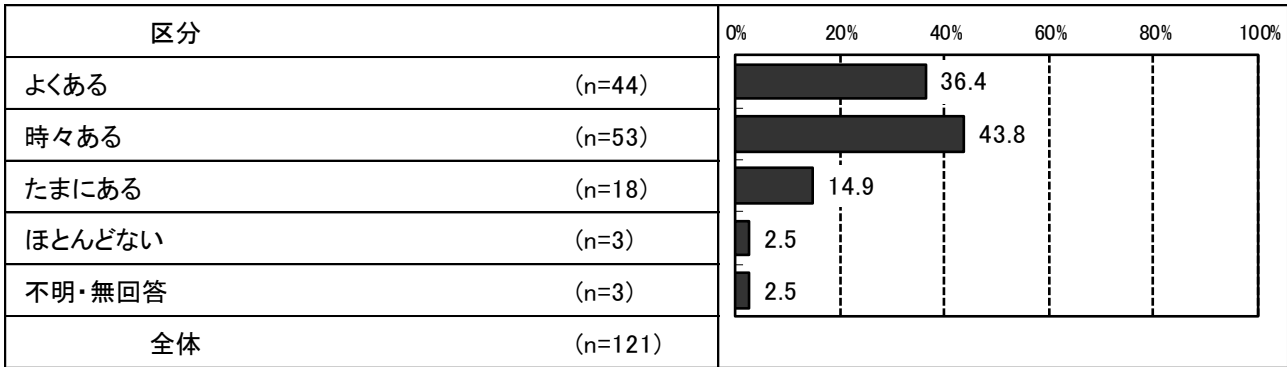
「いる」が60.5%、「いない」が37.5%となっています。

		(n)	いる	いない	不明・無回答
全体		200	60.5	37.5	2.0
在 日 期 間	1年未満	43	46.5	53.5	0.0
	1～3年未満	62	62.9	37.1	0.0
	3～5年未満	63	63.5	33.3	3.2
	5年以上	26	69.2	26.9	3.8

○在日期間別にみると、1年未満の人は「いない」、1年以上の人は「いる」が最も多くなっています。

問 25 で「いる」を答えた方がお答えください。

問 26 あなたは、日常生活で日本人と会話することがありますか。



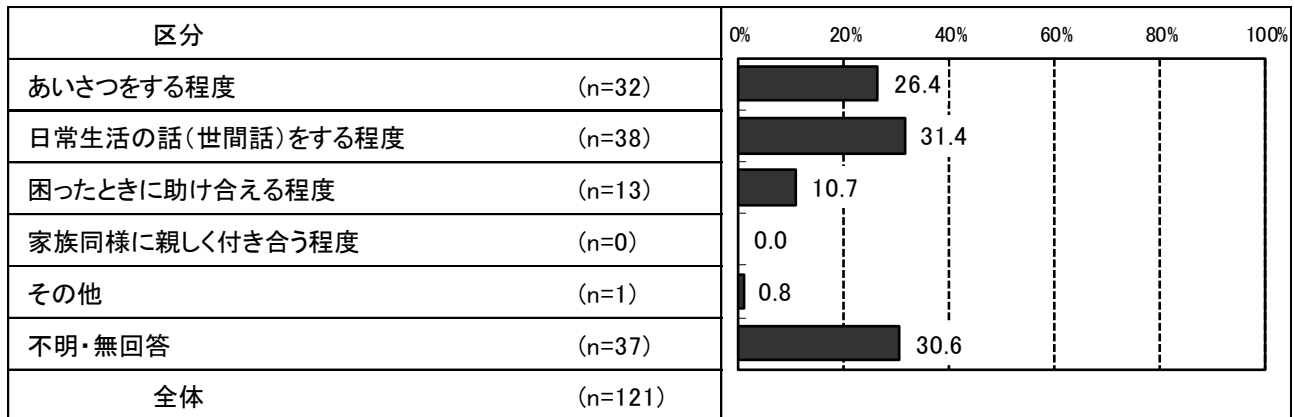
「時々ある」が43.8%で最も多く、次いで「よくある」が36.4%、「たまにある」が14.9%が続いています。

	(n)	よくある	時々ある	たまにある	ほとんどない	不明・無回答	
全体	121	36.4	43.8	14.9	2.5	2.5	
在 日 期 間	1年未満	20	30.0	40.0	20.0	10.0	0.0
	1～3年未満	39	30.8	38.5	23.1	2.6	5.1
	3～5年未満	40	37.5	52.5	10.0	0.0	0.0
	5年以上	18	50.0	44.4	0.0	0.0	5.6

○在日期間別にみると、5年未満の人は「時々ある」、5年以上の人は「よくある」が最も多くなっています。

問 25 で「いる」を答えた方がお答えください。

問 27 あなたは、日常生活で日本人とどのような交流をしていますか。



「日常生活の話(世間話)をする程度」が31.4%で最も多く、次いで「あいさつをする程度」が26.4%、「困ったときに助け合える程度」が10.7%が続いています。

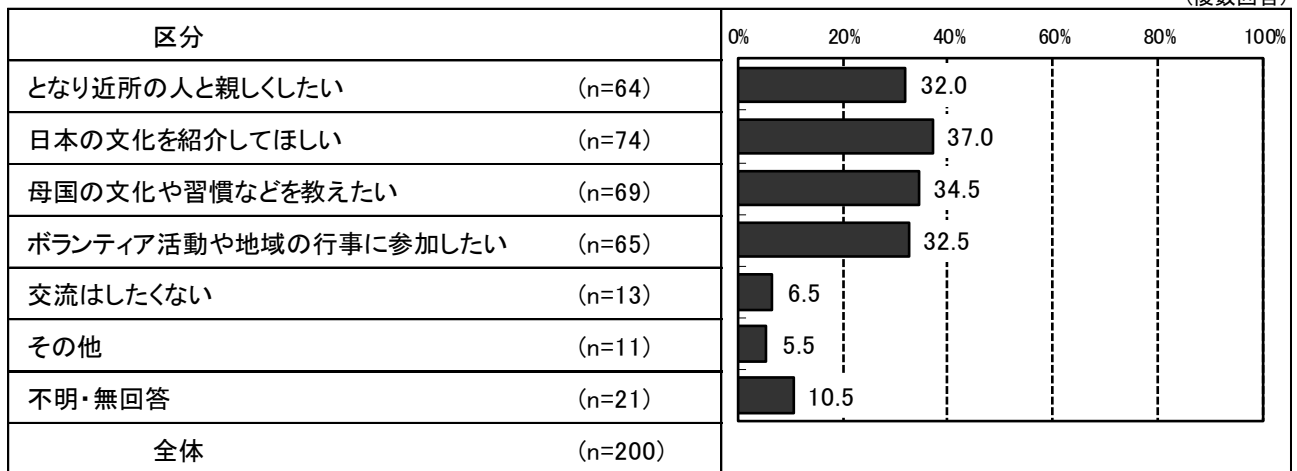
	(n)	あいさつ をする程 度	日常生活 の話(世 間話)を する程度	困ったと きに助け 合える程 度	家族同様 に親しく 付き合う 程度	その他	不明・無 回答
全体	121	26.4	31.4	10.7	0.0	0.8	30.6
在 日 期 間	1年未満	20	35.0	20.0	15.0	0.0	25.0
	1～3年未満	39	30.8	28.2	15.4	0.0	25.6
	3～5年未満	40	27.5	42.5	7.5	0.0	22.5
	5年以上	18	5.6	27.8	5.6	0.0	61.1

○在日期間別にみると、3年未満の人は「あいさつをする程度」、3年以上の人は「日常生活の話(世間話)をする程度」が最も多くなっています。

すべての方がお答えください。

問 28 あなたは、日本人とどのような交流機会があるといいと思いますか。(複数選択可)

(複数回答)

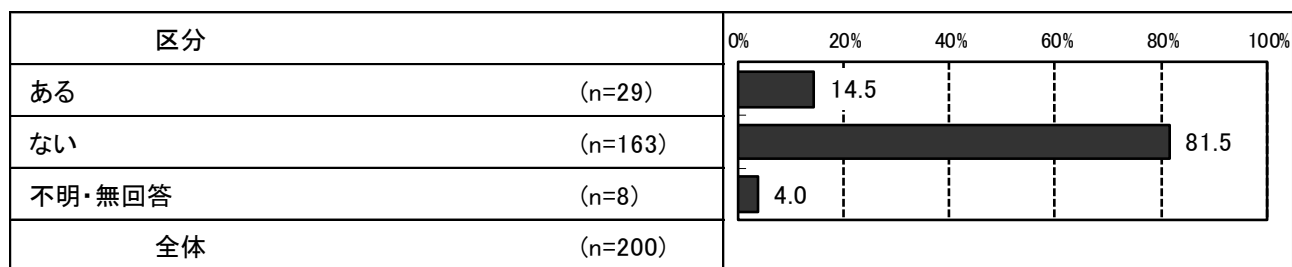


「日本の文化を紹介してほしい」が37.0%で最も多く、次いで「母国の文化や習慣などを教えたい」が34.5%、「ボランティア活動や地域の行事に参加したい」が32.5%で続いています。

	(n)	となり近所の人と親しくしたい	日本の文化を紹介してほしい	母国の文化や習慣などを教えたい	ボランティア活動や地域の行事に参加したい	交流はしたくない	その他	不明・無回答	
全体	200	32.0	37.0	34.5	32.5	6.5	5.5	10.5	
在日 期間	1年未満	43	46.5	44.2	37.2	25.6	2.3	2.3	7.0
	1～3年未満	62	27.4	45.2	45.2	35.5	9.7	9.7	3.2
	3～5年未満	63	23.8	28.6	25.4	33.3	4.8	6.3	14.3
	5年以上	26	42.3	30.8	30.8	42.3	11.5	0.0	7.7

○在日期間別にみると、1年未満の人は「となり近所の人と親しくしたい」、1～3年未満の人は「日本の文化を紹介してほしい」「母国の文化や習慣などを教えたい」、3～5年未満の人は「ボランティア活動や地域の行事に参加したい」、5年以上の人は「となり近所の人と親しくしたい」「ボランティア活動や地域の行事に参加したい」が最も多くなっています。3年未満の人は「日本の文化を紹介してほしい」「母国の文化や習慣などを教えたい」が3年以上の人より10ポイント以上多くなっています。

問 29 あなたは、これまでの三木市での生活において、差別を受けた経験がありますか。



「ない」が81.5%、「ある」が14.5%となっています。

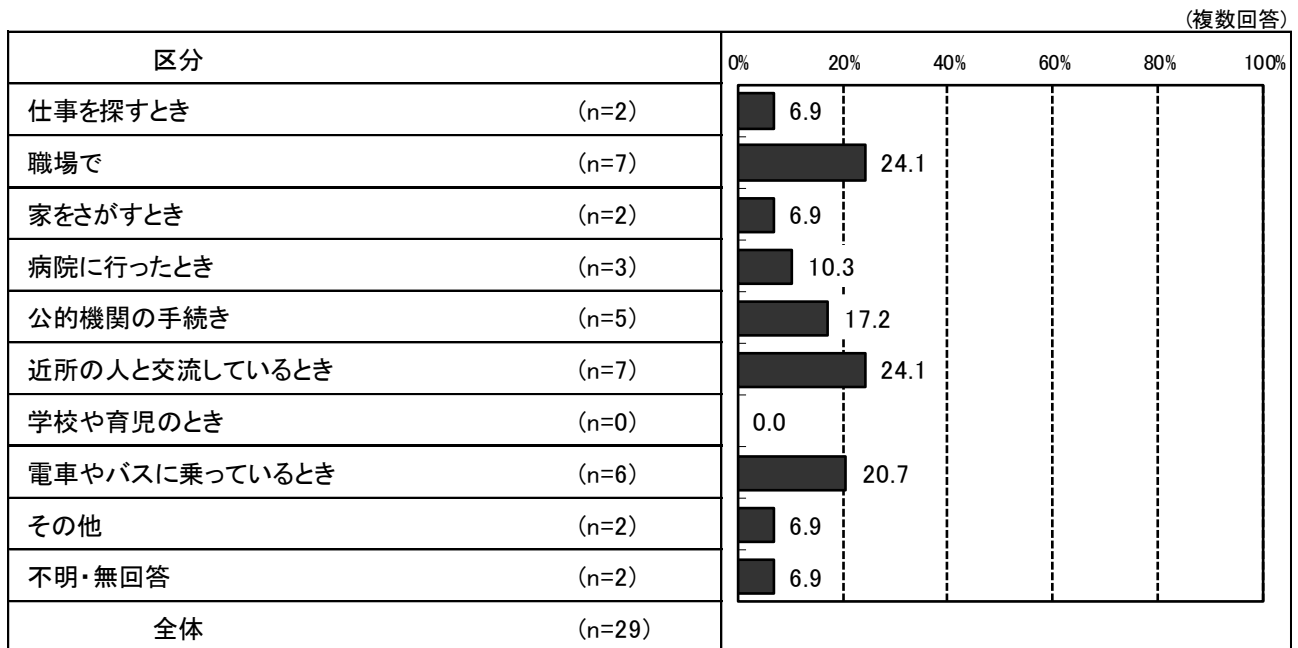
		(n)	ある	ない	不明・無回答
全体		200	14.5	81.5	4.0
年齢	29歳以下	138	8.7	88.4	2.9
	30歳代	42	26.2	71.4	2.4
	40歳以上	16	37.5	43.8	18.8
在日期间	1年未満	43	2.3	97.7	0.0
	1～3年未満	62	8.1	90.3	1.6
	3～5年未満	63	17.5	77.8	4.8
	5年以上	26	42.3	50.0	7.7

○年齢別にみると、年齢に関わらず「ない」が最も多くなっています。「ある」は年齢が高くなるにつれて回答が多くなっています。

○在日期间別にみると、在日期间に関わらず「ない」が最も多くなっています。「ある」は在期間が長くなるにつれて回答が多くなっています。

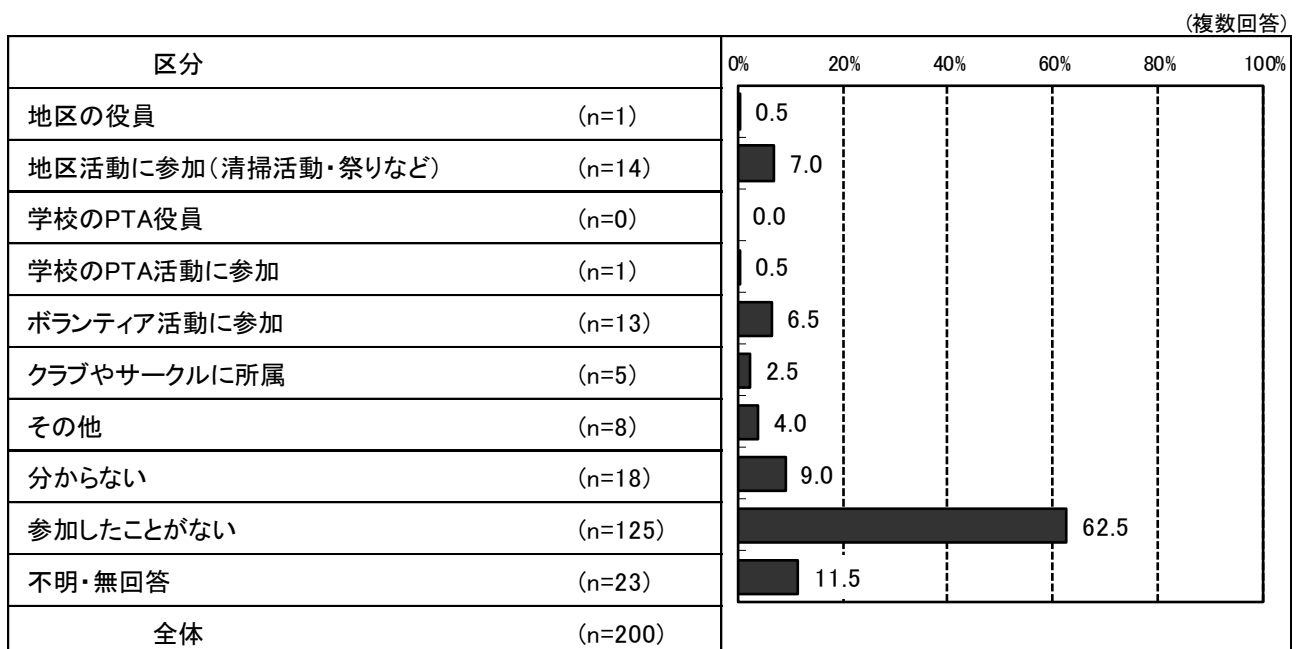
問 29 で「ある」を答えた方がお答えください。

問 30 具体的にどのようなことがあったかを可能な範囲で教えてください。(複数選択可)



「職場で」と「近所の人と交流しているとき」が、ともに 24.1%で最も多く、次いで「電車やバスに乗っているとき」が 20.7%、「公的機関の手続き」が 17.2%で続いています。

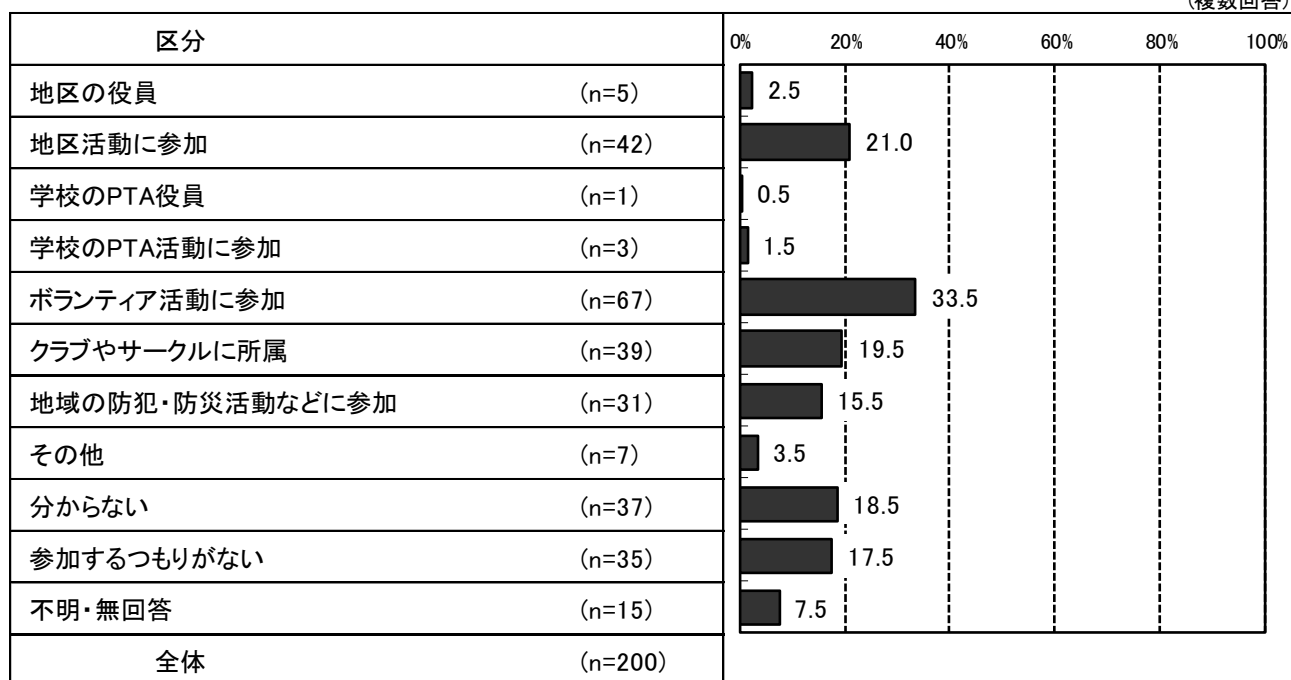
問 31 あなたは今、地域や学校などの活動に参加していますか。(複数選択可)



「参加したことがない」が 62.5%で最も多く、次いで「分からない」が 9.0%、「地区活動に参加(清掃活動・祭りなど)」が 7.0%で続いています。

問 32 あなたは、地域や学校などの活動に参加してみたいと思いますか。(複数選択可)

(複数回答)



「ボランティア活動に参加」が33.5%で最も多く、次いで「地区活動に参加」が21.0%、「クラブやサークルに所属」が19.5%が続いています。

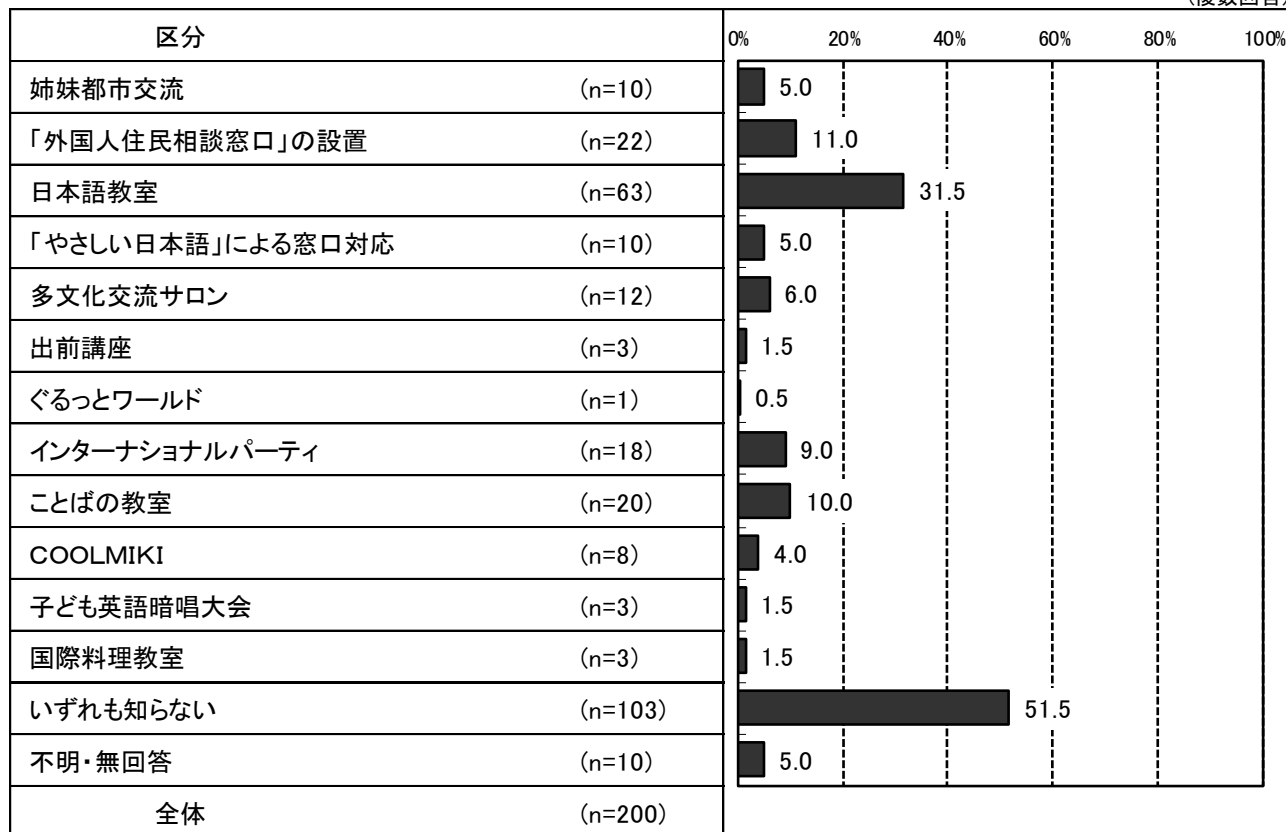
	(n)	地区の役員	地区活動に参加	学校のPTA役員	学校のPTA活動に参加	ボランティア活動に参加	クラブやサークルに所属	地域の防犯・防災活動などに参加	その他	分からない	参加するつもりがない	不明・無回答	
全体	200	2.5	21.0	0.5	1.5	33.5	19.5	15.5	3.5	18.5	17.5	7.5	
性別	男性	78	1.3	21.8	1.3	1.3	29.5	28.2	16.7	3.8	19.2	10.3	10.3
	女性	120	3.3	20.0	0.0	1.7	36.7	14.2	15.0	3.3	18.3	21.7	5.8
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

○性別にみると、男女ともに「ボランティア活動に参加」が最も多くなっています。「クラブやサークルに所属」が女性より男性のほうが10ポイント以上多く、「参加するつもりがない」は男性より女性のほうが10ポイント以上多くなっています。

## 4. 多文化共生のまちづくりに向けて

問 33 あなたは、多文化共生に向けた三木市の取り組みや三木市国際交流協会が実施している事業を知っていますか。(複数選択可)

(複数回答)



「いずれも知らない」が51.5%で最も多く、次いで「日本語教室」が31.5%、「外国人住民相談窓口」の設置」が11.0%が続いています。



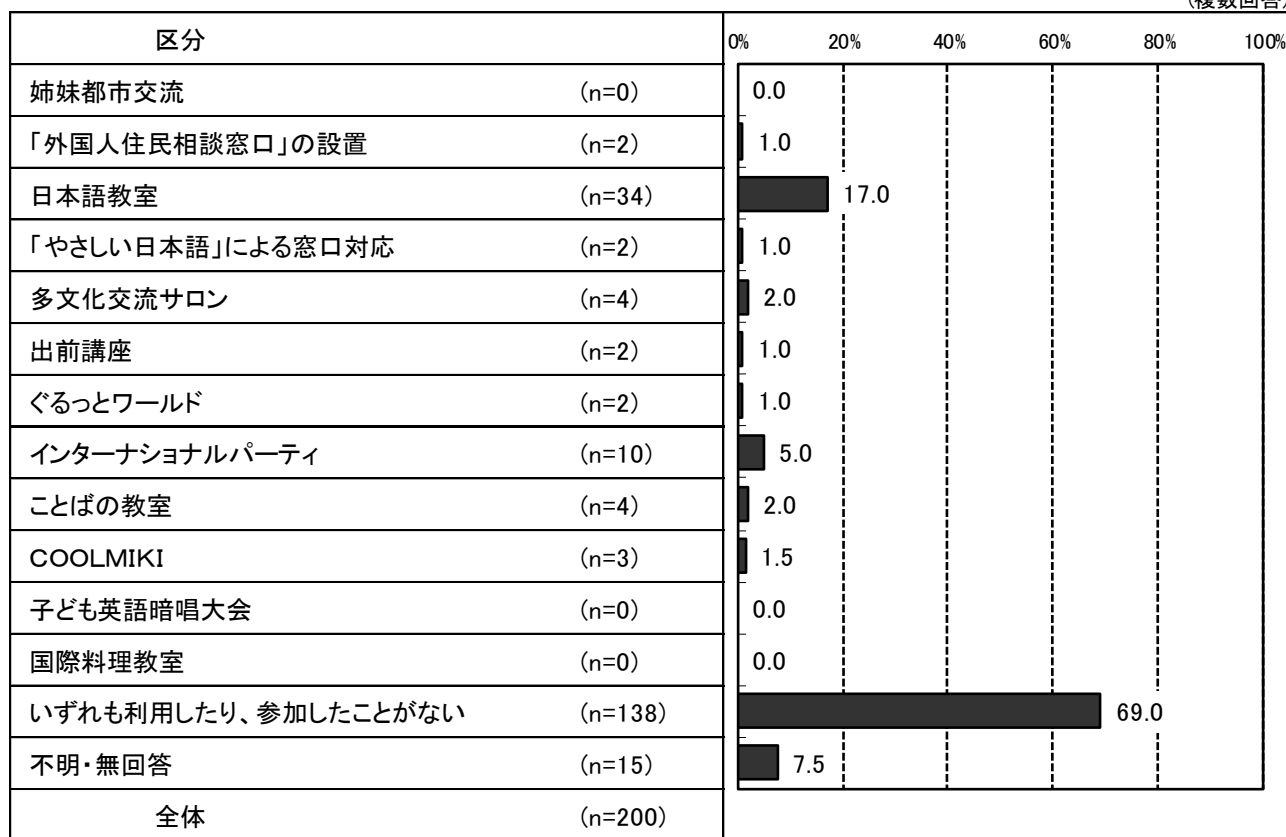
		(n)	姉妹都市交流	外国人住民相談 窓口の設置	日本語教室	やさしい日本語 による窓口対応	多文化交流サロン	出前講座	ぐるっとワールド
全体		200	5.0	11.0	31.5	5.0	6.0	1.5	0.5
性別	男性	78	2.6	14.1	43.6	3.8	5.1	2.6	1.3
	女性	120	6.7	9.2	24.2	5.8	6.7	0.8	0.0
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
在日期間	1年未満	43	4.7	7.0	20.9	2.3	0.0	2.3	0.0
	1～3年未満	62	4.8	9.7	30.6	4.8	8.1	0.0	0.0
	3～5年未満	63	4.8	9.5	33.3	6.3	4.8	1.6	1.6
	5年以上	26	7.7	26.9	42.3	7.7	15.4	3.8	0.0
		(n)	インターナシヨ ナルパーティー	ことばの教室	M I K I C O O L	子ども英語暗 唱大会	国際料理教室	い ず れ も 知 ら な い	不明・無回答
全体		200	9.0	10.0	4.0	1.5	1.5	51.5	5.0
性別	男性	78	7.7	12.8	3.8	1.3	1.3	43.6	5.1
	女性	120	10.0	8.3	4.2	1.7	1.7	56.7	4.2
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
在日期間	1年未満	43	2.3	2.3	7.0	2.3	0.0	67.4	4.7
	1～3年未満	62	11.3	11.3	6.5	1.6	3.2	45.2	6.5
	3～5年未満	63	7.9	9.5	1.6	0.0	0.0	55.6	3.2
	5年以上	26	19.2	19.2	0.0	3.8	3.8	34.6	3.8

○性別にみると、男性は「日本語教室」と「いずれも知らない」、女性は「いずれも知らない」が最も多くなっています。

○在日期間別にみると、5年未満の人は「いずれもしらない」、5年以上の人は「日本語教室」が最も多くなっています。また5年以上の人は「外国人住民相談窓口」の設置」がほかの人より10ポイント以上多くなっています。

問 34 あなたは、三木市や三木市国際交流協会が実施している事業を利用したり、参加したことがありますか。(複数選択可)

(複数回答)



「いずれも利用したり、参加したことがない」が 69.0%で最も多く、次いで「日本語教室」が 17.0%、「インターナショナルパーティ」が 5.0%が続いています。

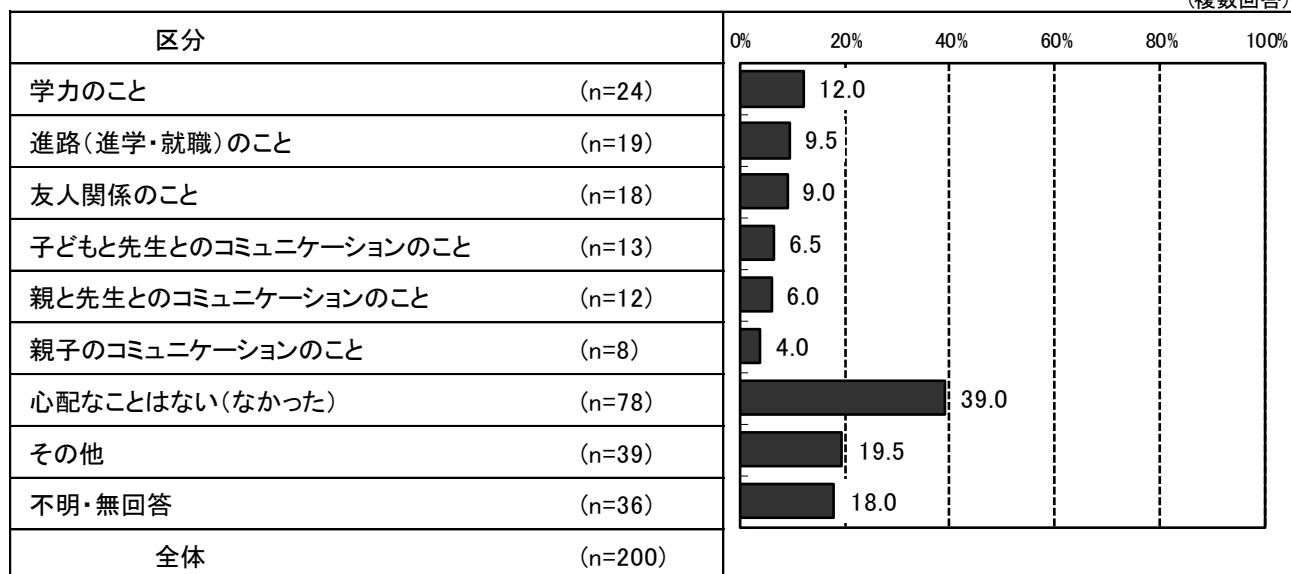
		(n)	姉妹都市交流	外国人住民相談 窓口の設置	日本語教室	やさしい日本語 による窓口対応	多文化交流サロン	出前講座	ぐるっとワールド
全体		200	0.0	1.0	17.0	1.0	2.0	1.0	1.0
性別	男性	78	0.0	1.3	25.6	1.3	0.0	1.3	2.6
	女性	120	0.0	0.8	11.7	0.8	3.3	0.8	0.0
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
在日期间	1年未満	43	0.0	0.0	11.6	0.0	0.0	2.3	0.0
	1～3年未満	62	0.0	0.0	12.9	0.0	4.8	0.0	0.0
	3～5年未満	63	0.0	3.2	17.5	3.2	1.6	0.0	3.2
	5年以上	26	0.0	0.0	30.8	0.0	0.0	3.8	0.0
		(n)	ティ インターナショナルパー ティー	ことばの教室	M I K I C O O L	子ども英語暗唱大会	国際料理教室	いずれも利用したり、 参加したことがない	不明・無回答
全体		200	5.0	2.0	1.5	0.0	0.0	69.0	7.5
性別	男性	78	5.1	3.8	2.6	0.0	0.0	59.0	9.0
	女性	120	5.0	0.8	0.8	0.0	0.0	75.8	5.8
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
在日期间	1年未満	43	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	76.7	9.3
	1～3年未満	62	6.5	1.6	1.6	0.0	0.0	67.7	9.7
	3～5年未満	63	4.8	3.2	3.2	0.0	0.0	71.4	4.8
	5年以上	26	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	57.7	3.8

○性別にみると、男女ともに「いずれも利用したり、参加したことがない」が最も多くなっています。「日本語教室」は女性より男性のほうが10ポイント以上多くなっています。

○在日期间別にみると、在日期间に関わらず「いずれも利用したり、参加したことがない」が最も多くなっています。「日本語教室」は5年以上の人で30%台と、ほかの人より10ポイント以上多くなっています。

問 35 子どものことで心配なことはあります（ありました）か。（複数選択可）

(複数回答)



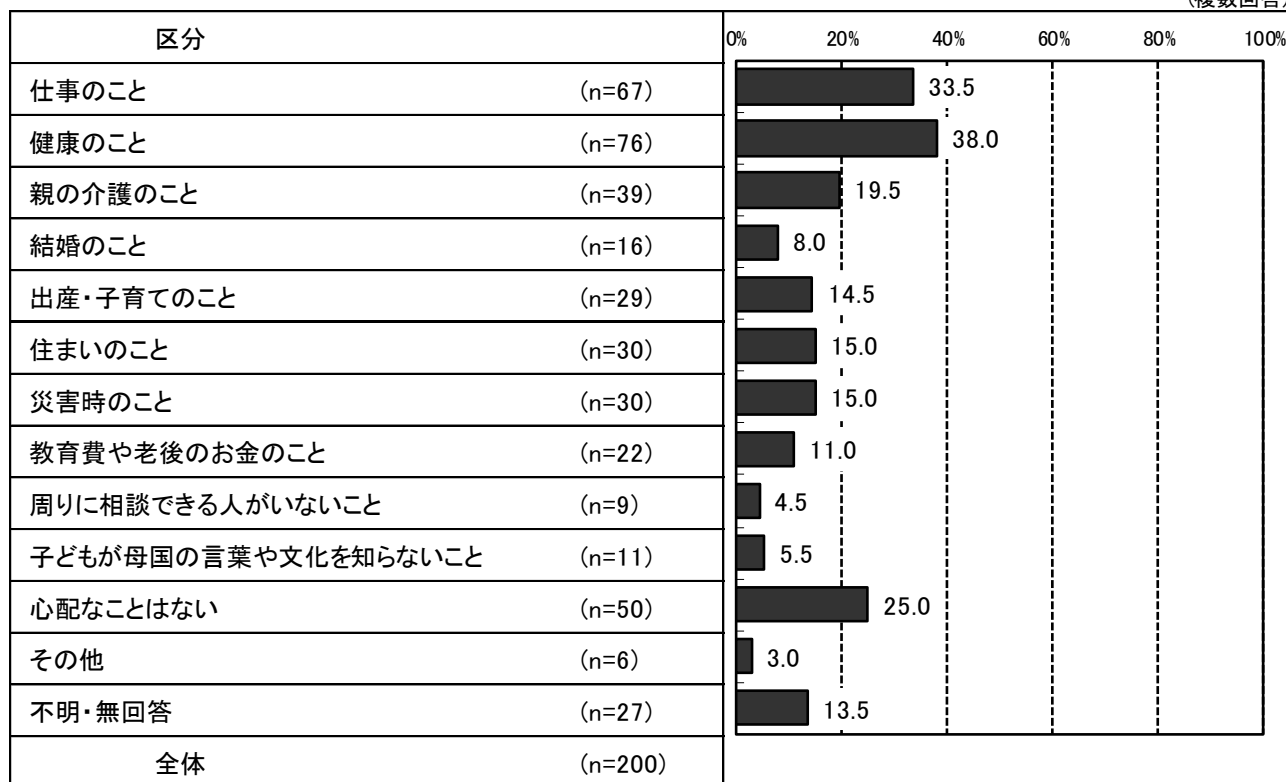
「心配なことはない（なかった）」が 39.0%で最も多く、次いで「その他」が 19.5%、「学力のこと」が 12.0%で続いています。

	(n)	学力のこと	進路(進学・就職)のこと	友人関係のこと	子どもと先生とのコミュニケーションのこと	親と先生とのコミュニケーションのこと	親子のコミュニケーションのこと	心配なことはない(なかった)	その他	不明・無回答	
全体	200	12.0	9.5	9.0	6.5	6.0	4.0	39.0	19.5	18.0	
年齢	29歳以下	138	8.7	9.4	8.0	5.8	5.8	4.3	37.7	24.6	21.0
	30歳代	42	16.7	11.9	14.3	7.1	9.5	4.8	40.5	9.5	9.5
	40歳以上	16	31.3	6.3	6.3	12.5	0.0	0.0	31.3	6.3	18.8

○年齢別みると、30歳代以下の年代は「心配なことはない（なかった）」、40歳以上は「学力のこと」と「心配なことはない（なかった）」が最も多くなっています。

問 36 あなたや家族のことについて、将来心配なことはありますか。(複数選択可)

(複数回答)

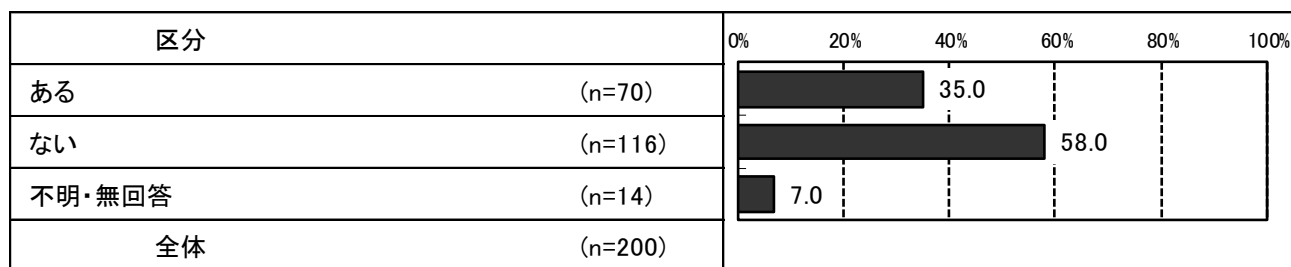


「健康のこと」が38.0%で最も多く、次いで「仕事のこと」が33.5%、「心配なことはない」が25.0%で続いています。

	(n)	仕事のこと	健康のこと	親の介護のこと	結婚のこと	出産・子育てのこと	住まいのこと	災害時のこと	教育費や老後のお金のこと	周りに相談できる人がいないこと	子どもが母国の言葉や文化を知らないこと	心配なことはない	その他	不明・無回答
全体	200	33.5	38.0	19.5	8.0	14.5	15.0	15.0	11.0	4.5	5.5	25.0	3.0	13.5
在日期間	1年未満	43	37.2	30.2	14.0	4.7	9.3	9.3	11.6	4.7	4.7	20.9	9.3	9.3
	1～3年未満	62	24.2	41.9	17.7	8.1	14.5	12.9	6.5	4.8	1.6	25.8	1.6	19.4
	3～5年未満	63	42.9	41.3	28.6	11.1	17.5	17.5	27.0	11.1	1.6	31.7	1.6	6.3
	5年以上	26	34.6	42.3	15.4	3.8	19.2	23.1	15.4	34.6	19.2	11.5	0.0	15.4

○在日期間別にみると、1年未満・3～5年未満の人は「仕事のこと」、1～3年未満・5年以上の人は「健康のこと」が最も多くなっています。5年以上の人は「教育費や老後のお金のこと」「周りに相談できる人がいないこと」がほかの人より10ポイント以上多くなっています。

問 37 あなたは、これまでに三木市以外のまちに住んだことがありますか。



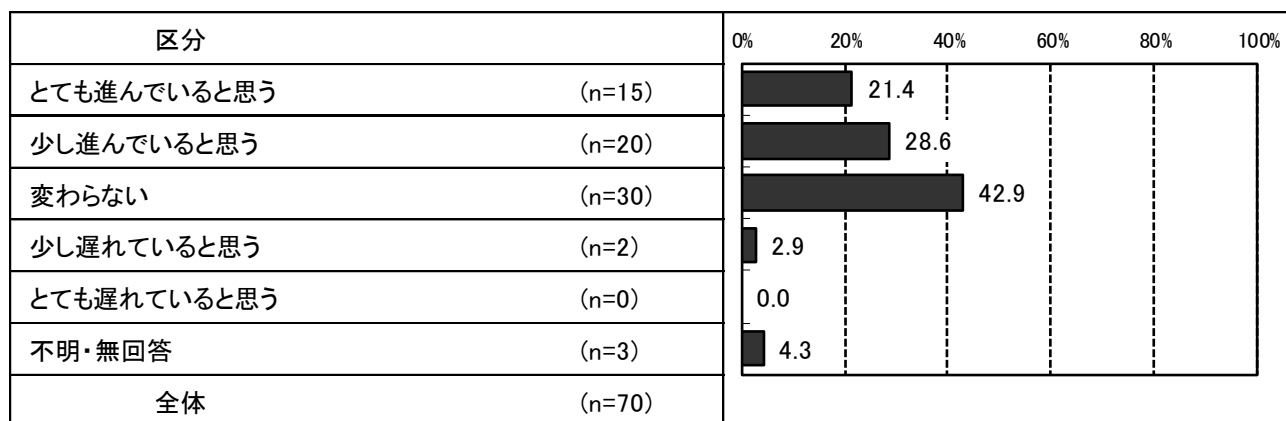
「ない」が58.0%、「ある」が35.0%となっています。

		(n)	ある	ない	不明・無回答
全体		200	35.0	58.0	7.0
性別	男性	78	44.9	44.9	10.3
	女性	120	28.3	66.7	5.0
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0
在日期間	1年未満	43	14.0	83.7	2.3
	1～3年未満	62	22.6	69.4	8.1
	3～5年未満	63	52.4	42.9	4.8
	5年以上	26	57.7	30.8	11.5

○性別にみると、男性は「ある」と「ない」、女性は「ない」が最も多くなっています。「ある」は女性より男性のほうが10ポイント以上多くなっています。

○在日期間別にみると、3年未満の人は「ない」、3年以上の人は「ある」が最も多くなっています。

問 38 以前に住んだことがあるまちと比べて、三木市は外国人に対する理解が進んでいると感じますか。

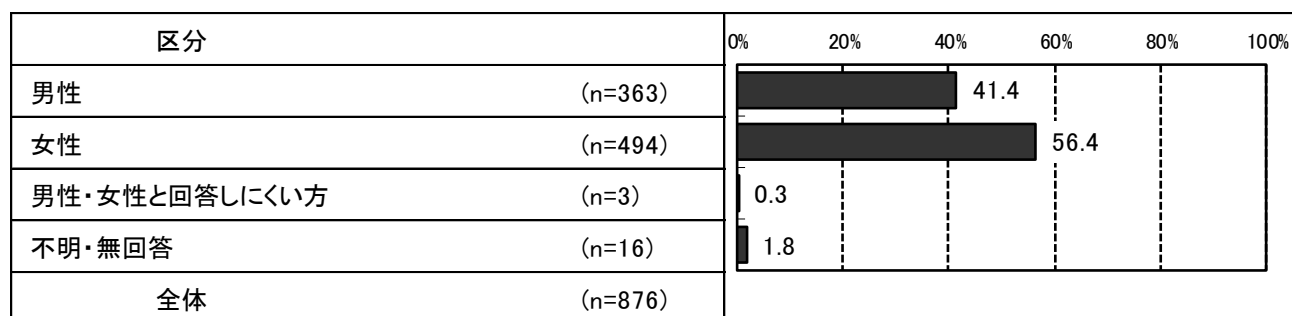


「変わらない」が42.9%で最も多く、次いで「少し進んでいると思う」が28.6%、「とても進んでいると思う」が21.4%が続いています。

## 第3章 日本人住民アンケート結果

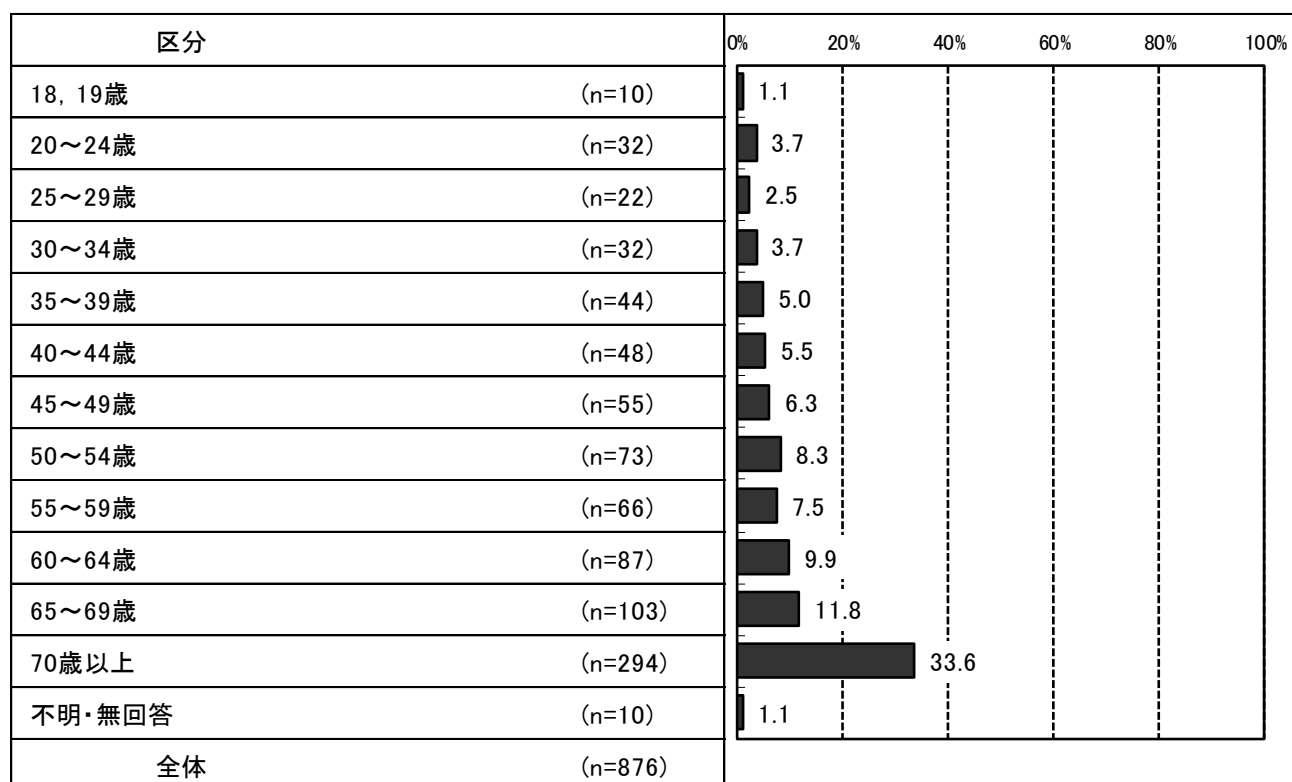
### 1. あなたについて

問1 あなたの性別を教えてください。



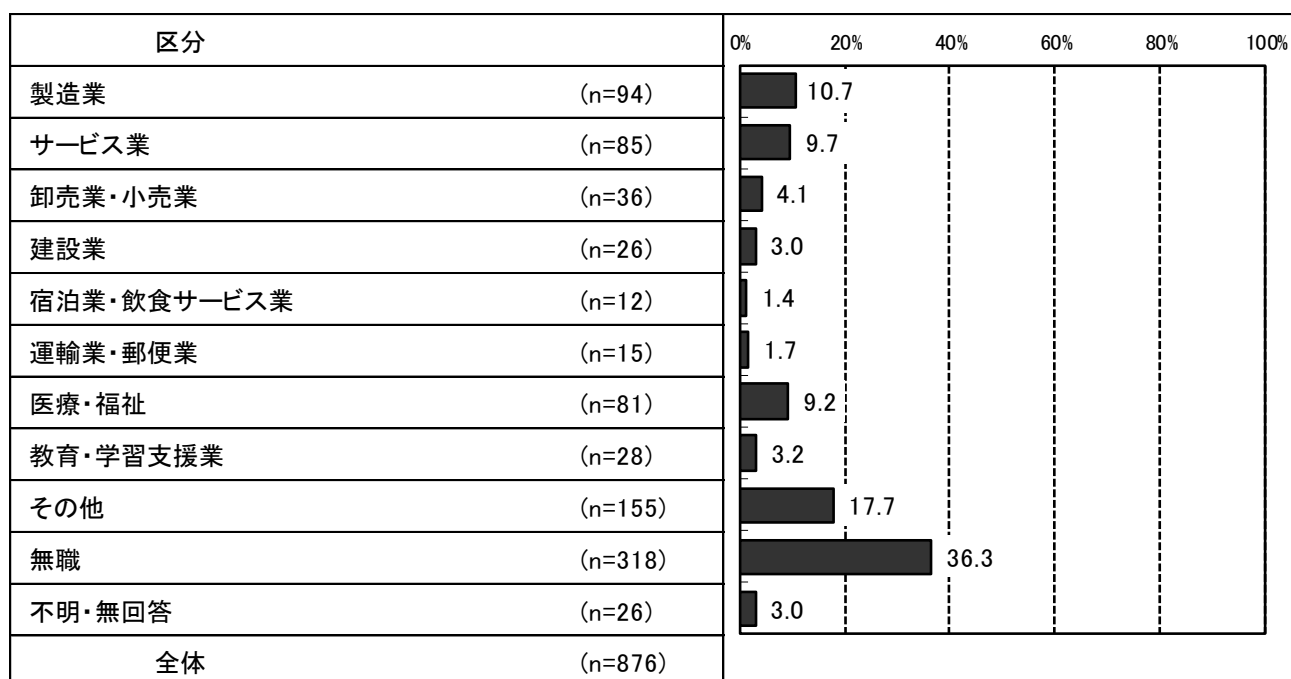
「女性」が56.4%で最も多く、次いで「男性」が41.4%、「男性・女性と回答しにくい方」が0.3%で続いています。

問2 あなたの年齢を教えてください。



「70歳以上」が33.6%で最も多く、次いで「65~69歳」が11.8%、「60~64歳」が9.9%で続いています。

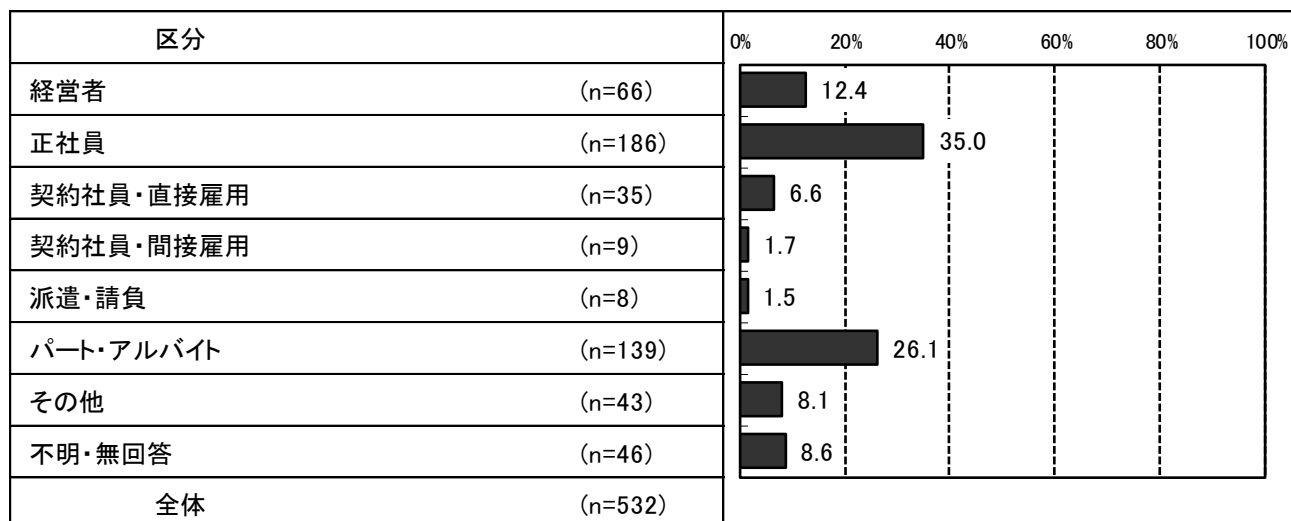
問3 あなたの職業を教えてください。



「無職」が36.3%で最も多く、次いで「その他」が17.7%、「製造業」が10.7%が続いています。

問3で「⑩無職」以外を答えた方がお答えください。

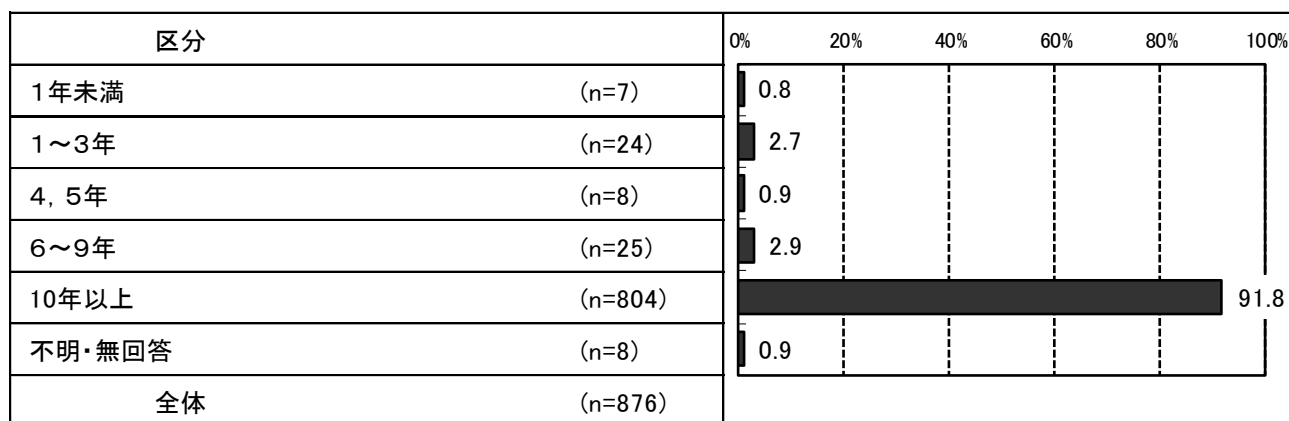
問4 あなたの雇用形態を教えてください。



「正社員」が35.0%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が26.1%、「経営者」が12.4%が続いています。

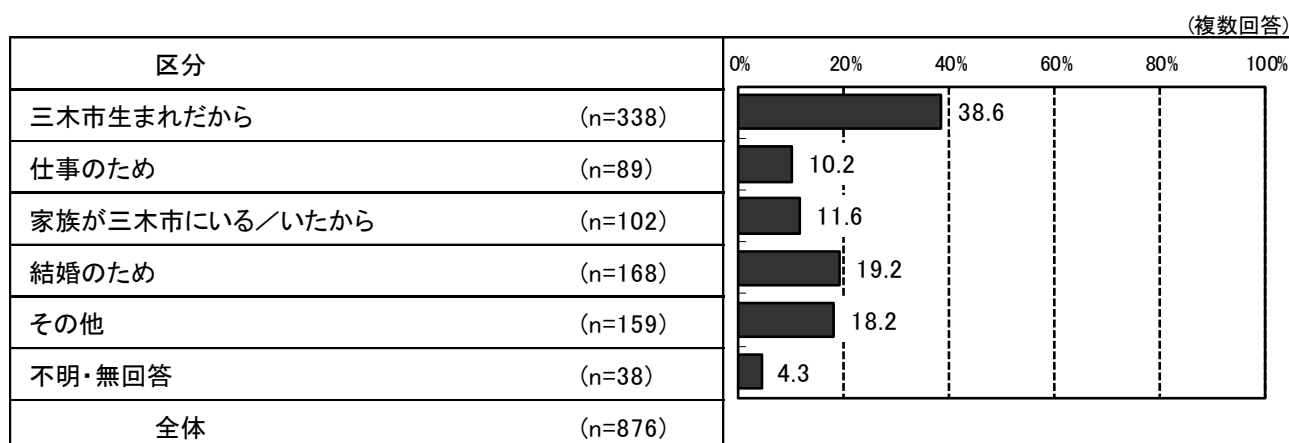


問5 あなたは三木市にどのくらい住んでいますか。



「10年以上」が91.8%で最も多く、次いで「6～9年」が2.9%、「1～3年」が2.7%が続いています。

問6 三木市に住んだ理由を教えてください。



「三木市生まれだから」が38.6%で最も多く、次いで「結婚のため」が19.2%、「その他」が18.2%が続いています。

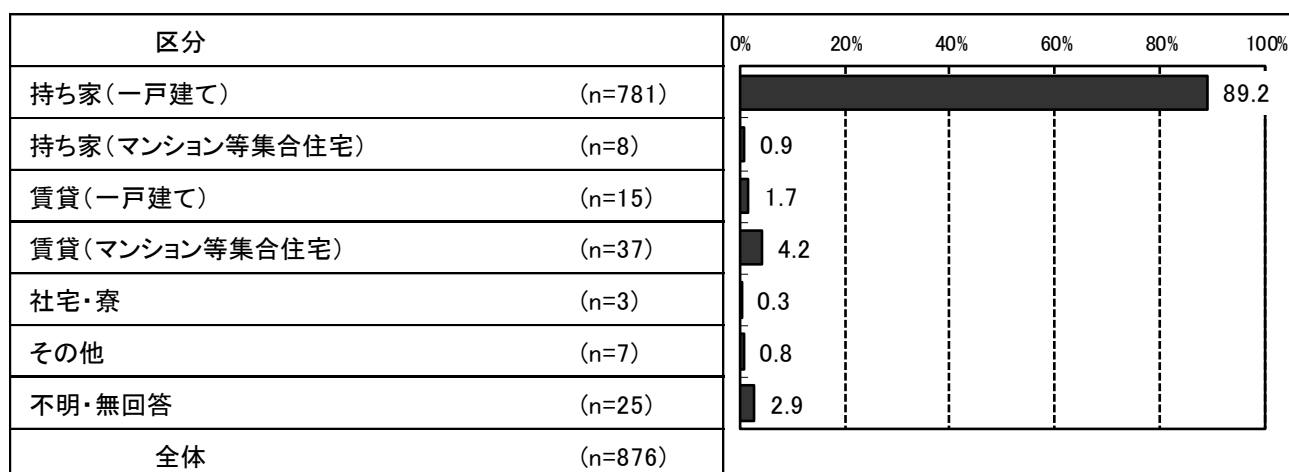
		(n)	三木市生まれだから	仕事のため	家族が三木市にいる／いたから	結婚のため	その他	不明・無回答
全体		876	38.6	10.2	11.6	19.2	18.2	4.3
性別	男性	363	47.1	12.9	11.8	6.9	17.6	4.4
	女性	494	32.4	7.9	11.5	28.7	18.2	4.0
	男性・女性と回答しにくい方	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
年齢	39歳以下	140	53.6	10.0	19.3	15.0	4.3	2.1
	40～64歳	329	41.6	10.6	15.2	19.8	13.7	1.5
	65歳以上	397	30.2	10.1	5.8	20.7	27.0	7.3
居住年数	10年未満	64	0.0	31.3	25.0	28.1	14.1	4.7
	10年以上	804	41.9	8.6	10.7	18.3	18.7	3.9

○性別にみると、男女ともに「三木市生まれだから」が最も多くなっていますが、女性より男性のほうが14.7ポイント多くなっています。

○年齢別にみると、年齢に関わらず「三木市生まれだから」が最も多く、39歳以下は半数を超えて多くなっています。

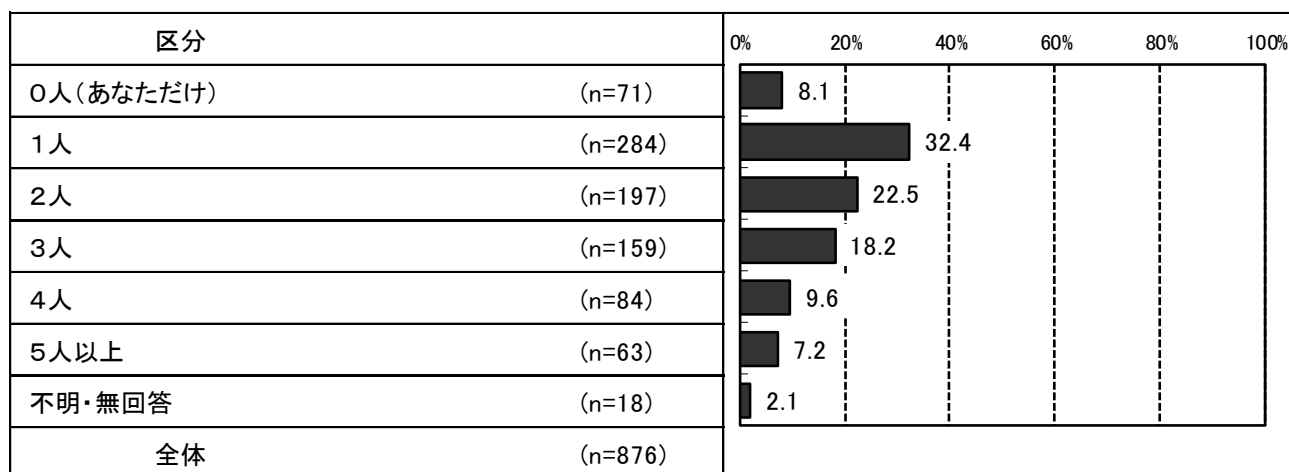
○居住年数別にみると、10年未満の人は「仕事のため」、10年以上の人は「三木市生まれだから」が最も多くなっています。

問7 現在の住居形態を教えてください。



「持ち家(一戸建て)」が89.2%で最も多く、次いで「賃貸(マンション等集合住宅)」が4.2%、「賃貸(一戸建て)」が1.7%が続いています。

問8 現在、一緒に住んでいる人数(あなた以外)を教えてください。

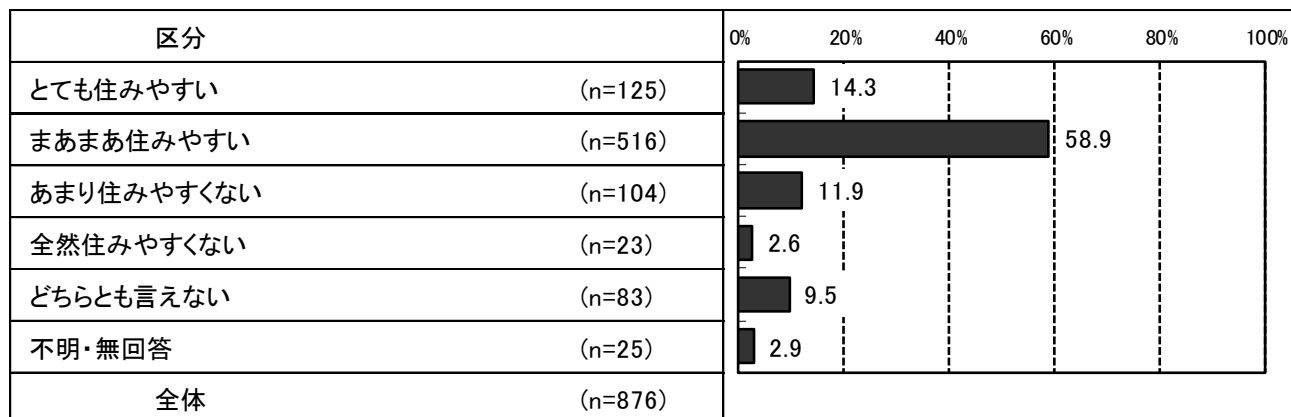


「1人」が32.4%で最も多く、次いで「2人」が22.5%、「3人」が18.2%が続いています。

		(n)	0人(あなただけ)	1人	2人	3人	4人	5人以上	不明・無回答
全体		876	8.1	32.4	22.5	18.2	9.6	7.2	2.1
年齢	39歳以下	140	3.6	6.4	23.6	31.4	17.1	13.6	4.3
	40~64歳	329	6.4	22.8	26.1	24.0	12.2	7.6	0.9
	65歳以上	397	11.3	49.1	19.6	8.6	4.8	4.8	1.8

○年齢別にみると、39歳以下は「3人」、40~64歳は「2人」、65歳以上は「1人」がそれぞれ最も多くなっています。

問9 三木市の住みやすさを教えてください。



「まあまあ住みやすい」が58.9%で最も多く、次いで「とても住みやすい」が14.3%、「あまり住みやすくない」が11.9%が続いています。

問10 問9で選択した理由を教えてください。

「とても住みやすい」「まあまあ住みやすい」と答えた人の理由は、「生活に必要な環境が整っている。住みやすい」が98件で最も多く、次いで「交通が不便・運賃が高い・車がないと不便・免許返納後が心配」が86件、「自然が豊か・気候が穏やか」が85件が続いています。

「あまり住みやすくない」「全然住みやすくない」と答えた人の理由は、「交通が不便・運賃が高い・車がないと不便・免許返納後が心配」が71件で最も多く、次いで「買い物が不便・飲食店が少ない」が20件、「公共施設や病院など、社会インフラが整っていない」が16件が続いています。

「どちらとも言えない」と答えた人の理由は、「交通が不便・運賃が高い・車がないと不便・免許返納後が心配」が28件で最も多く、次いで「住み慣れたまち・ふるさと・住めば都・三木市しか知らない」が7件、「生活に必要な環境が整っている。住みやすい」「職場が遠い・雇用が少ない・賃金が低い」がともに4件が続いています。

住みやすさに関わらず「生活に必要な環境が整っている。住みやすい」というプラス意見が多くなっていますが、反対に「交通が不便・運賃が高い・車がないと不便・免許返納後が心配」と交通に対するマイナス意見も多くみられます。

■ 「とても住みやすい」「まあまあ住みやすい」と答えた人の理由 (延べ 825 件)

分類	件数
生活に必要な環境が整っている。住みやすい	98
交通が不便・運賃が高い・車がないと不便・免許返納後が心配	86
自然が豊か・気候が穏やか	85
都市部へのアクセスが良い。交通が便利	75

分類	件数
環境が良い・空気がきれい・静か・水がおいしい	69
住み慣れたまち・ふるさと・住めば都・三木市しか知らない	57
買い物、商業施設が便利	56
自然災害が少ない	47
車があれば不便はない。運転しやすい	42
都会すぎず田舎すぎない町	41
地域や友人とのつながりが良い	22
治安がよい。安心して住める	17
公園やレジャー施設・趣味の活動が充実している	14
子育てしやすい。学校が充実している	13
穏やかでのんびりとしている	10
買い物が不便・飲食店が少ない	10
子や孫が近住。高齢暮らしには適している	9
大型ショッピングセンター・レジャー施設・スポーツ施設がない	8
政策・行政に対する要望	7
医療・福祉が充実している	4
駐車場が無料のところが多い	4
公共施設が充実している	4
まあまあ住みやすい	4
道路・歩道整備が悪い。渋滞が多い。	4
坂が多い。気候が良くない	4
大学・専門学校がない。教育面が不安。PTAが負担	4
都市部が遠い	4
農家や庭付きなど、住宅環境が魅力	3
職場が近い	3
出産・子育て支援が充実していない	3
過疎化・少子高齢化が進んでいる。市が発展していない	3
職場が遠い・雇用が少ない・賃金が低い	3
環境・治安が悪い。災害、害獣がこわい	3
歴史と文化のある町	2
まちづくりが活発	2
町の美化・ごみ屋敷が問題。公衆マナーが悪い	2

分類	件数
税金が高い・行政サービスが充実していない	2
地域のつながり・行事・役割が負担。維持できない。	1

■ 「あまり住みやすくない」「全然住みやすくない」と答えた人の理由（延べ 167 件）

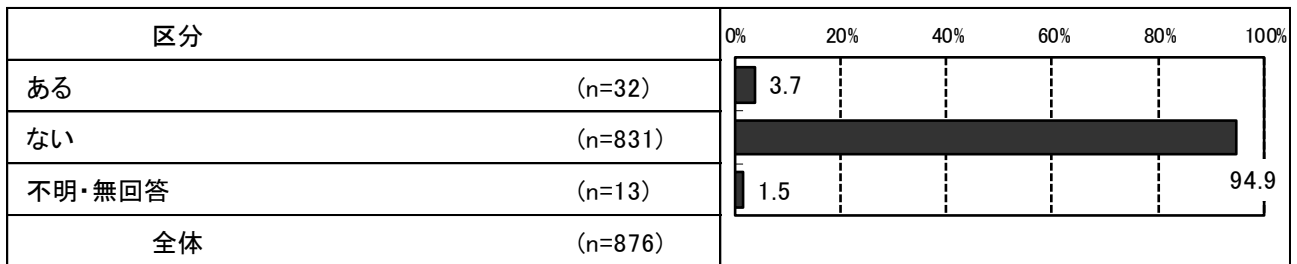
分類	件数
交通が不便・運賃が高い・車がないと不便・免許返納後が心配	71
買い物が不便・飲食店が少ない	20
公共施設や病院など、社会インフラが整っていない	16
道路・歩道整備が悪い。渋滞が多い。	10
出産・子育て支援が充実していない	8
地域のつながり・行事・役割が負担。維持できない。	7
政策・行政に対する要望	6
町の美化・ごみ屋敷が問題。公衆マナーが悪い	5
税金が高い・行政サービスが充実していない	5
過疎化・少子高齢化が進んでいる。市が発展していない	4
大型ショッピングセンター・レジャー施設・スポーツ施設がない	3
坂が多い。気候が良くない	3
環境・治安が悪い。災害、害獣がこわい	3
職場が遠い・雇用が少ない・賃金が低い	2
大学・専門学校がない。教育面が不安。PTA が負担	2
環境が良い・空気がきれい・静か・水がおいしい	1
買い物、商業施設が便利	1

■ 「どちらとも言えない」と答えた人の理由（延べ 69 件）

分類	件数
交通が不便・運賃が高い・車がないと不便・免許返納後が心配	28
住み慣れたまち・ふるさと・住めば都・三木市しか知らない	7
生活に必要な環境が整っている。住みやすい	4
職場が遠い・雇用が少ない・賃金が低い	4
自然が豊か・気候が穏やか	3
車があれば不便はない。運転しやすい	3
坂が多い。気候が良くない	3

分類	件数
過疎化・少子高齢化が進んでいる。市が発展していない	3
環境が良い・空気がきれい・静か・水がおいしい	2
買い物が不便・飲食店が少ない	2
地域のつながり・行事・役割が負担。維持できない。	2
都会すぎず田舎すぎない町	1
治安がよい。安心して住める	1
子育てしやすい。学校が充実している	1
穏やかでのんびりとしている	1
医療・福祉が充実している	1
大型ショッピングセンター・レジャー施設・スポーツ施設がない	1
町の美化・ごみ屋敷が問題。公衆マナーが悪い	1
環境・治安が悪い。災害、害獣がこわい	1

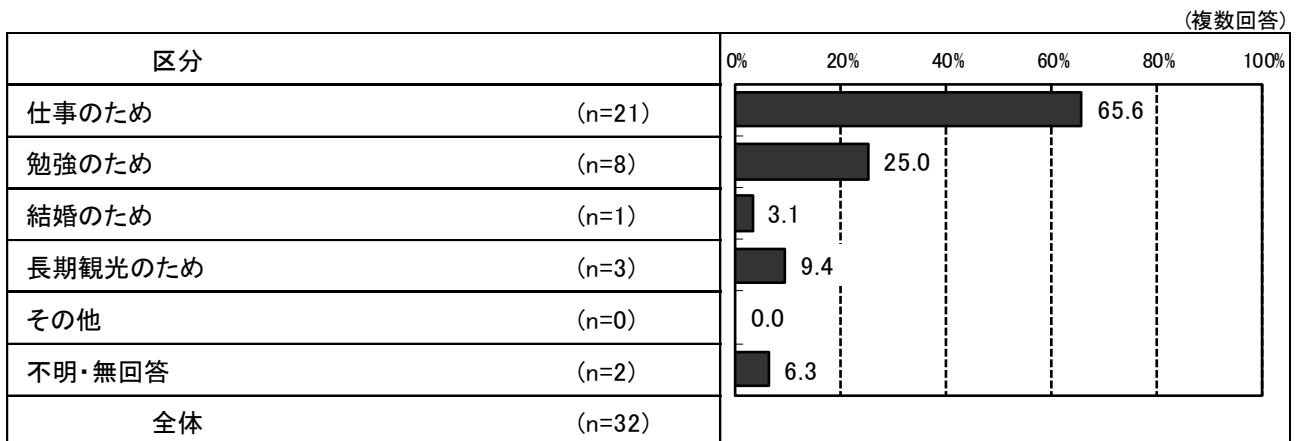
問 11 あなたは、日本以外の国に 90 日以上住んだことがありますか。



「ない」が 94.9%、「ある」が 3.7%となっています。

問 11 で「ある」と答えた方がお答えください。

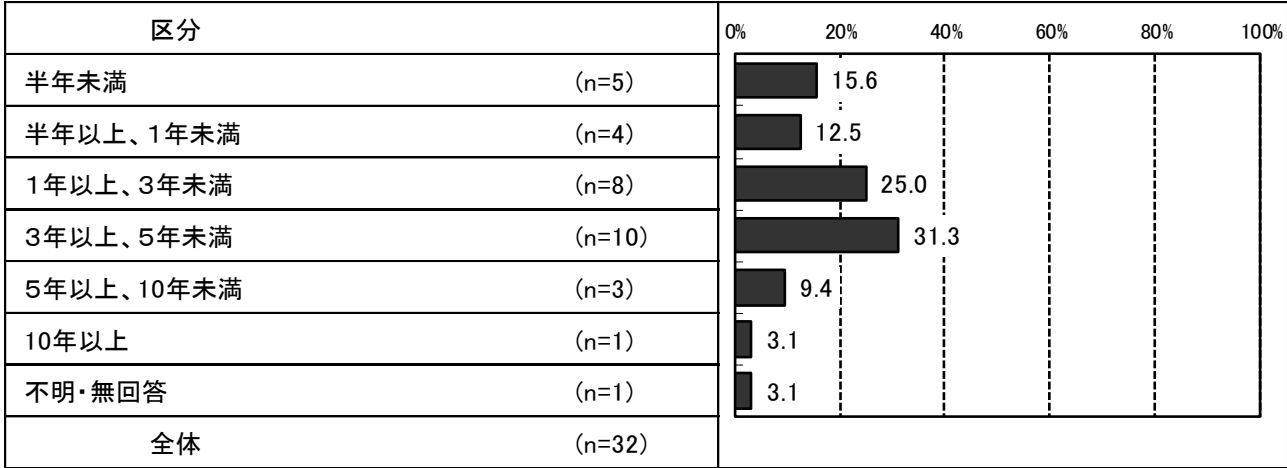
問 12 あなたが日本以外の国に住んだ目的を教えてください。(複数選択可)



「仕事のため」が 65.6%で最も多く、次いで「勉強のため」が 25.0%、「長期観光のため」が 9.4%で続いています。

問 11 で「ある」と答えた方がお答えください。

問 13 あなたは、日本以外の国にどのくらいの期間住みましたか。(複数ある場合は通算期間をお答えください。)



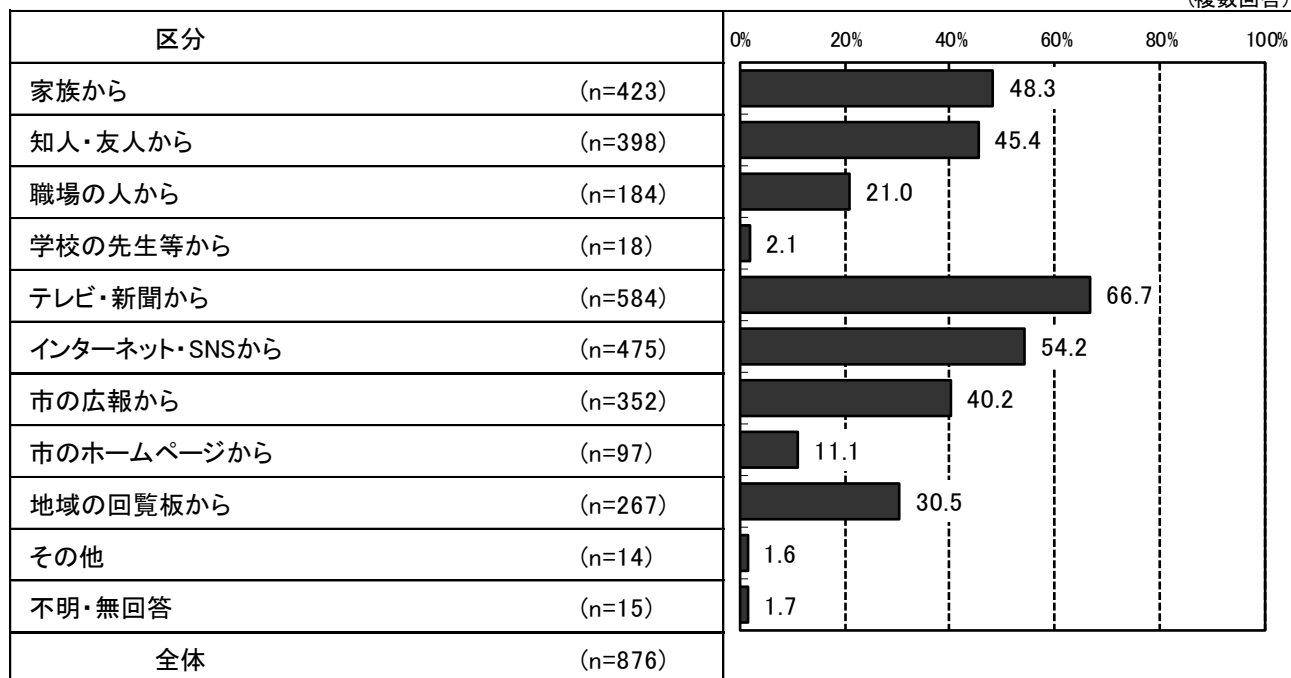
「3年以上、5年未満」が31.3%で最も多く、次いで「1年以上、3年未満」が25.0%、「半年未満」が15.6%が続いています。



## 2. 三木市での暮らしについて（情報・交流）

問 14 あなたは、日常生活に必要な情報をどこから入手していますか。（複数選択可）

（複数回答）



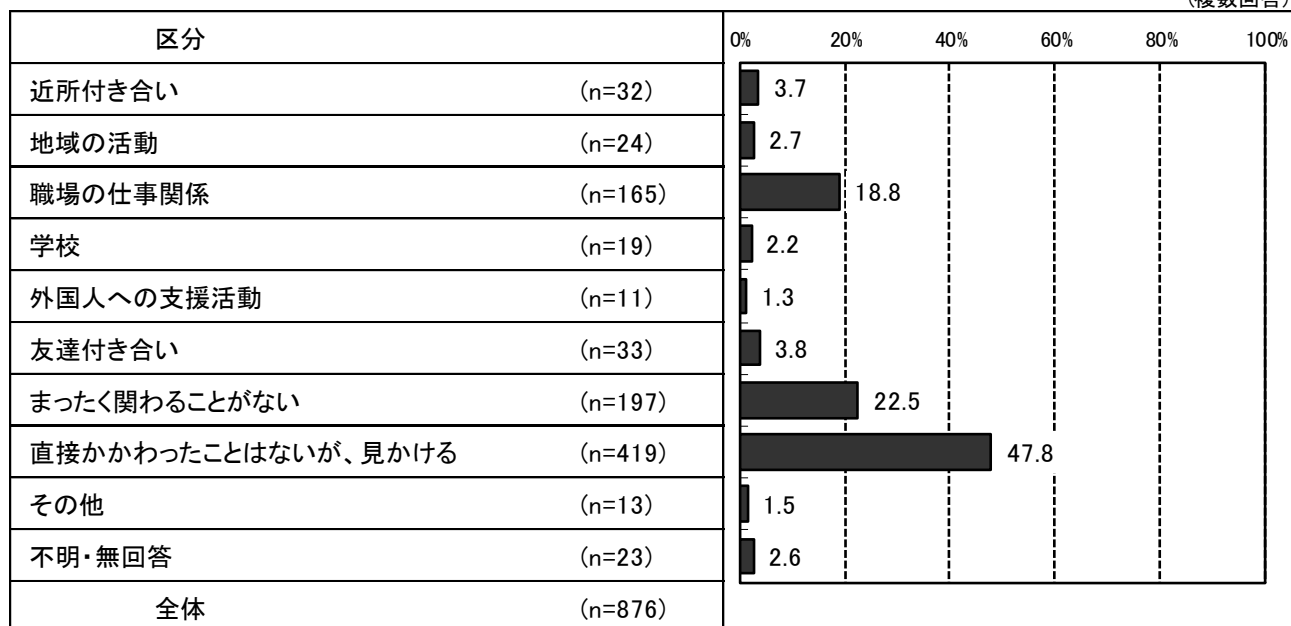
「テレビ・新聞から」が66.7%で最も多く、次いで「インターネット・SNSから」が54.2%、「家族から」が48.3%が続いています。

	(n)	家族から	知人・友人から	職場の人から	学校の先生等から	テレビ・新聞から	インターネット・SNSから	市の広報から	市のホームページから	地域の回覧板から	その他	不明・無回答	
全体	876	48.3	45.4	21.0	2.1	66.7	54.2	40.2	11.1	30.5	1.6	1.7	
年齢	39歳以下	140	75.7	51.4	37.1	8.6	44.3	86.4	20.7	9.3	10.0	1.4	0.0
	40～64歳	329	51.1	45.6	31.0	1.2	67.2	70.2	35.6	12.8	26.4	0.3	1.2
	65歳以上	397	37.0	43.8	7.6	0.5	74.6	30.0	51.1	10.3	41.3	2.8	2.5

○年齢別にみると、64歳以下の年代は「インターネット・SNSから」、65歳以上は「テレビ・新聞から」がそれぞれ最も多くなっています。また、「家族から」「知人・友人から」「職場の人から」「学校の先生等から」「インターネット・SNSから」は年齢が低くなるにつれて回答が多く、「テレビ・新聞から」「市の広報から」「地域の回覧板から」は年齢が高くなるにつれて回答が多くなっています。

問 15 あなたは、日常生活で外国人と関わるのは、どのような場面ですか。(複数選択可)

(複数回答)

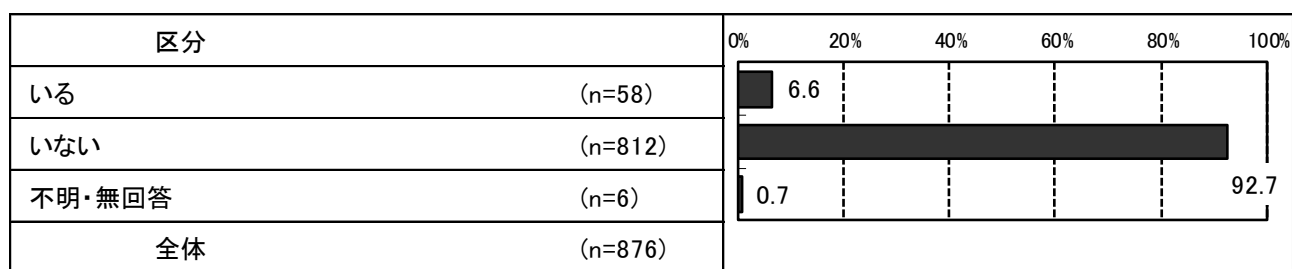


「直接かかわったことはないが、見かける」が47.8%で最も多く、次いで「まったく関わることはない」が22.5%、「職場の仕事関係」が18.8%が続いています。

	(n)	近所付き合い	地域の活動	職場の仕事関係	学校	外国人への支援活動	友達付き合い	まったく関わることはない	直接かかわったことはないが、見かける	その他	不明・無回答	
全体	876	3.7	2.7	18.8	2.2	1.3	3.8	22.5	47.8	1.5	2.6	
年齢	39歳以下	140	4.3	4.3	34.3	10.0	1.4	10.0	14.3	37.1	0.0	2.9
	40～64歳	329	4.0	2.1	28.6	0.9	1.2	4.0	22.5	40.7	0.9	1.2
	65歳以上	397	3.3	2.8	5.3	0.5	1.0	1.5	24.9	57.9	2.5	3.5

○年齢別にみると、年齢に関わらず「直接かかわったことはないが、見かける」が最も多く、65歳以上は半数を超えています。また、「職場の仕事関係」は65歳以上で5.3%と、ほかの年代より20ポイント以上低くなっています。

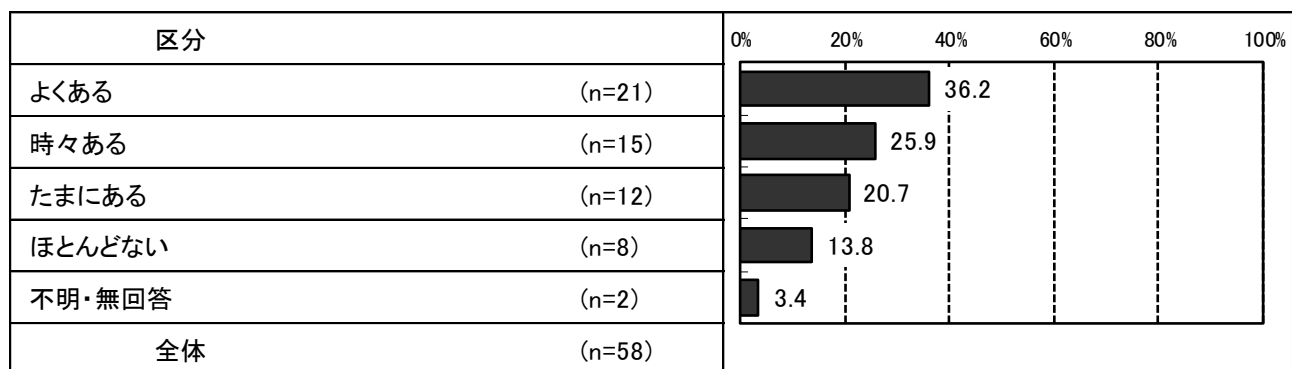
問 16 あなたは、三木市に住む外国人の友人や同僚がいますか。



「いない」が92.7%、「いる」が6.6%となっています。

問 16 で「いる」と回答された方がお答えください。

問 17 あなたは、日常生活で外国人と会話することがありますか。



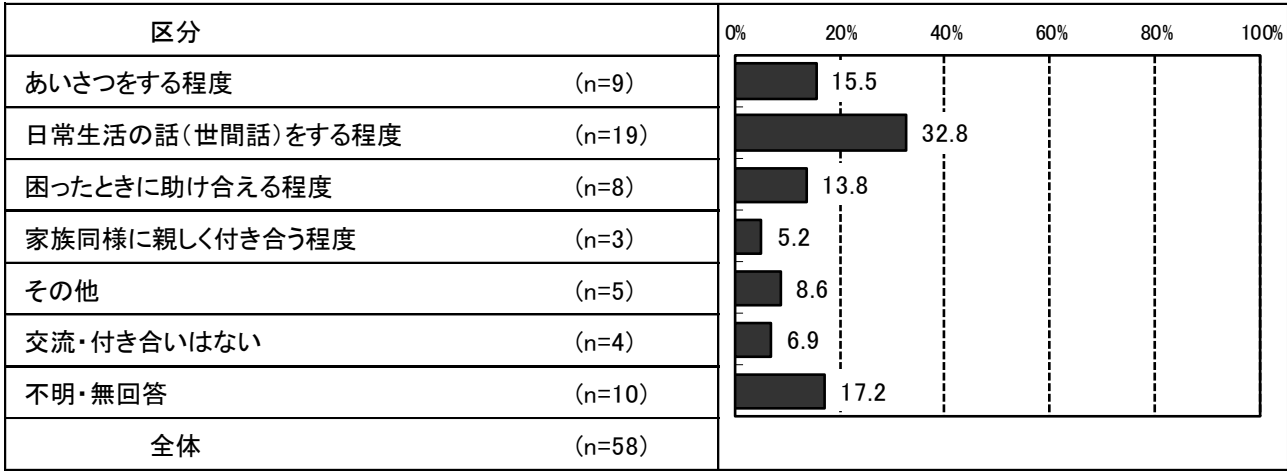
「よくある」が36.2%で最も多く、次いで「時々ある」が25.9%、「たまにある」が20.7%で続いています。

		(n)	よくある	時々ある	たまにある	ほとんどない	不明・無回答
全体		58	36.2	25.9	20.7	13.8	3.4
性別	男性	28	32.1	35.7	17.9	14.3	0.0
	女性	29	41.4	17.2	24.1	10.3	6.9
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

○性別にみると、男性は「時々ある」、女性は「よくある」が最も多くなっています。

問 16 で「いる」と回答された方がお答えください。

問 18 あなたは、日常生活で外国人とどのような交流をされていますか。



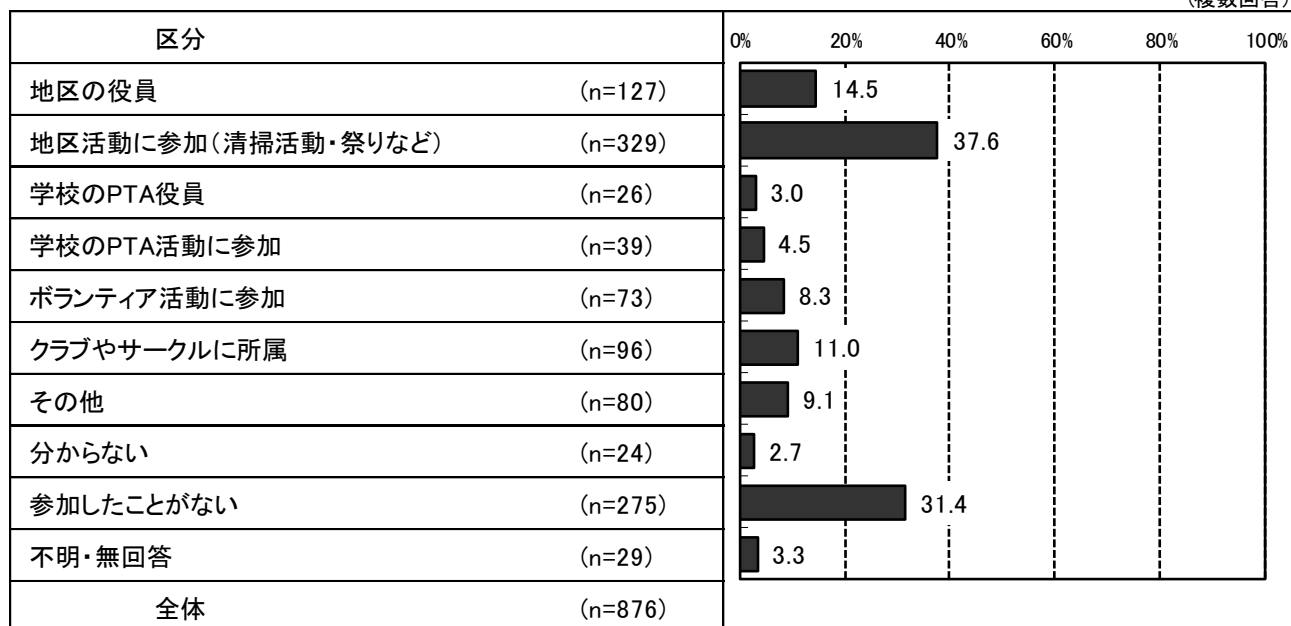
「日常生活の話（世間話）をする程度」が 32.8% で最も多く、次いで「あいさつをする程度」が 15.5%、「困ったときに助け合える程度」が 13.8% で続いています。

	(n)	あいさつをする程度	日常生活の話(世間話)をする程度	困ったときに助け合える程度	家族同様に親しく付き合う程度	その他	交流・付き合いはない	不明・無回答	
全体	58	15.5	32.8	13.8	5.2	8.6	6.9	17.2	
性別	男性	28	21.4	32.1	21.4	7.1	0.0	10.7	7.1
	女性	29	10.3	34.5	6.9	3.4	17.2	0.0	27.6
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

○性別にみると、男女ともに「日常生活の話（世間話）をする程度」が最も多くなっています。また、「あいさつをする程度」「困ったときに助け合える程度」は女性より男性のほうが 10 ポイント以上多くなっています。

問 19 あなたは今、地域や学校などの活動に参加されていますか。(複数選択可)

(複数回答)



「地区活動に参加(清掃活動・祭りなど)」が37.6%で最も多く、次いで「参加したことがない」が31.4%、「地区の役員」が14.5%が続いています。

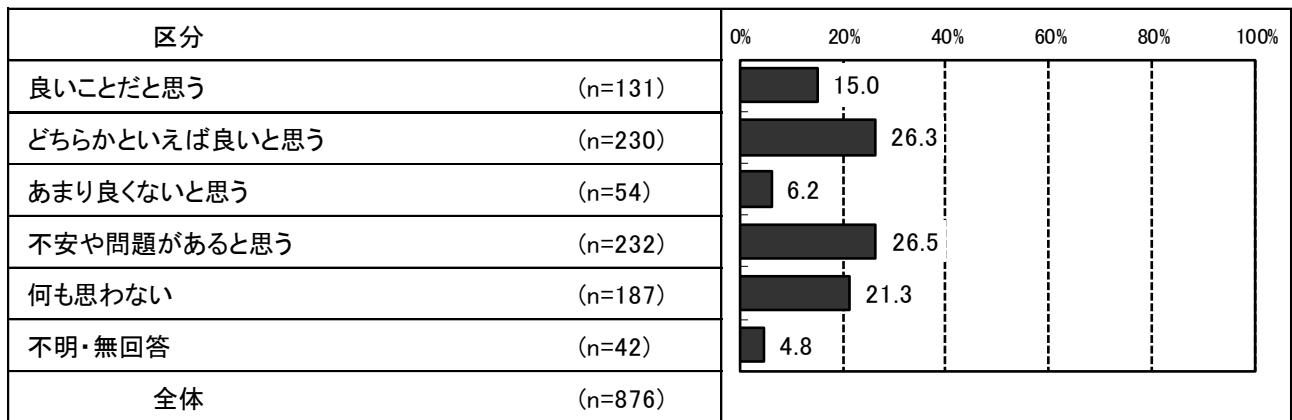
	(n)	地区の役員	地区活動に参加(清掃活動・祭りなど)	学校のPTA役員	学校のPTA活動に参加	ボランティア活動に参加	クラブやサークルに所属	その他	分からない	参加したことがない	不明・無回答	
全体	876	14.5	37.6	3.0	4.5	8.3	11.0	9.1	2.7	31.4	3.3	
年齢	39歳以下	140	7.9	27.1	5.7	8.6	2.9	7.9	2.9	5.0	52.1	1.4
	40～64歳	329	17.9	36.5	5.5	8.2	5.2	6.1	12.8	3.3	28.9	2.4
	65歳以上	397	14.1	42.6	0.0	0.0	12.8	16.1	8.6	1.5	26.2	4.3
居住年数	10年未満	64	14.1	28.1	4.7	3.1	6.3	7.8	6.3	1.6	45.3	0.0
	10年以上	804	14.6	38.6	2.9	4.6	8.5	11.1	9.5	2.9	30.5	3.1

○年齢別にみると、39歳以下は「参加したことがない」、40歳以上の年齢は「地区活動に参加(清掃活動・祭りなど)」がそれぞれ最も多くなっています。

○居住年数別にみると、10年未満の人は「参加したことがない」、10年以上の人は「地区活動に参加(清掃活動・祭りなど)」が最も多くなっています。

### 3. 多文化共生のまちづくりに向けて

問 20 あなたは、三木市の外国人住民が増えることについてどう思いますか。



「不安や問題があると思う」が 26.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば良いと思う」が 26.3%、「何も思わない」が 21.3%で続いています。

	(n)	良いこと だと思 う	どちらか といえ ば良い と思 う	あまり良 くない と思 う	不安や問 題があ ると思 う	何も思わ ない	不明・無 回答	
全体	876	15.0	26.3	6.2	26.5	21.3	4.8	
年齢	39 歳以下	140	23.6	26.4	2.9	21.4	21.4	4.3
	40～64 歳	329	15.2	28.6	6.4	26.7	20.7	2.4
	65 歳以上	397	11.8	24.4	7.1	28.2	21.9	6.5
居住 年数	10 年未満	64	28.1	21.9	6.3	25.0	12.5	6.3
	10 年以上	804	13.9	26.5	6.2	26.7	22.0	4.6

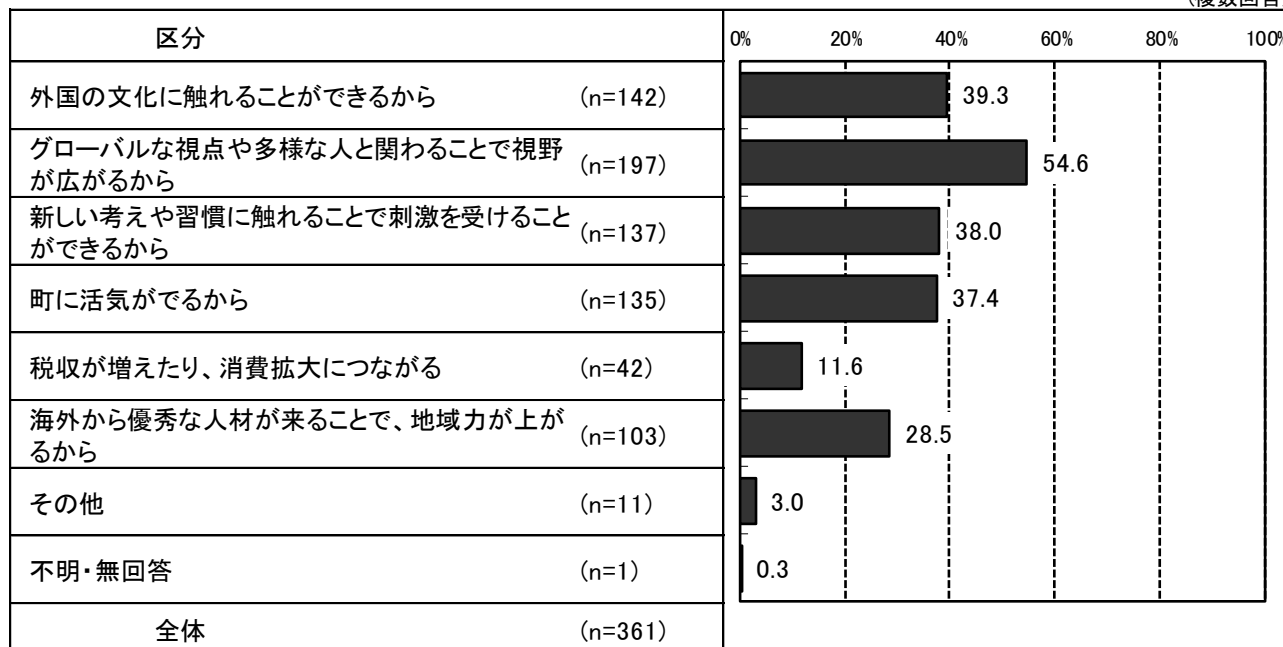
○年齢別みると、64 歳以下の年代は「どちらかといえば良いと思う」、65 歳以上は「不安や問題があると思う」が最も多くなっています。また、「良いことだと思う」は 39 歳以下のみ 20%台となっています。

○居住年数別にみると、10 年未満の人は「良いことだと思う」、10 年以上の人は「不安や問題があると思う」が最も多くなっています。

問 20 で「良いことだと思う」または「どちらかといえば良いと思う」と回答された方がお答えください。

問 21 その理由は何ですか。(複数選択可)

(複数回答)



「グローバルな視点や多様な人と関わることで視野が広がるから」が 54.6%で最も多く、次いで「外国の文化に触れることができるから」が 39.3%、「新しい考えや習慣に触れることで刺激を受けることができるから」が 38.0%で続いています。

	(n)	外国の文化に触れることができるから	グローバルな視点や多様な人と関わることで視野が広がるから	新しい考えや習慣に触れることで刺激を受けることができるから	町に活気がでるから	税金が増えたり、消費拡大につながる	海外から優秀な人材が来ることで、地域力が上がるから	その他	不明・無回答	
全体	361	39.3	54.6	38.0	37.4	11.6	28.5	3.0	0.3	
性別	男性	146	31.5	50.7	33.6	47.9	13.7	32.2	2.7	0.0
	女性	207	44.9	57.5	41.5	30.4	10.6	25.6	3.4	0.5
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	39歳以下	70	52.9	61.4	45.7	37.1	18.6	20.0	1.4	0.0
	40～64歳	144	39.6	53.5	37.5	38.2	11.1	24.3	3.5	0.0
	65歳以上	144	32.6	52.8	34.7	36.8	8.3	37.5	3.5	0.7
居住年数	10年未満	32	46.9	65.6	37.5	46.9	21.9	28.1	3.1	0.0
	10年以上	325	38.8	53.2	38.5	36.3	10.5	28.6	3.1	0.3

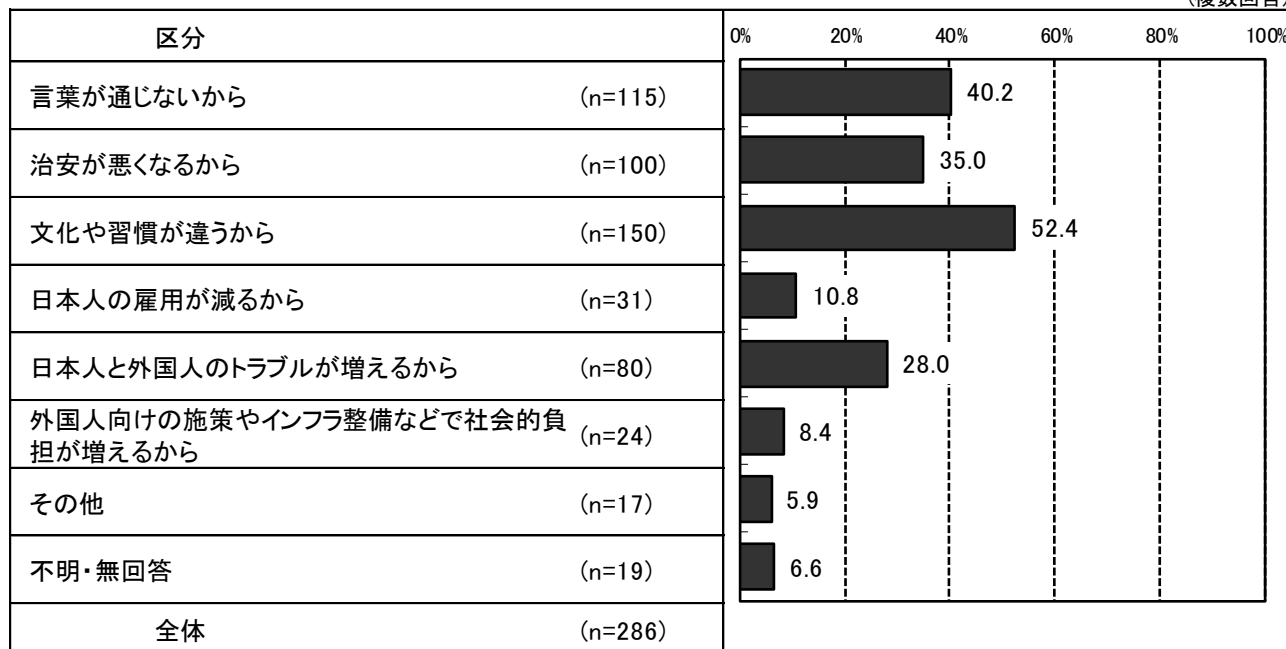
- 性別にみると、男女ともに「グローバルな視点や多様な人と関わることで視野が広がるから」が最も多くなっています。また、「町に活気がでるから」は女性より男性のほうが10ポイント以上多く、「外国の文化に触れることができるから」は男性より女性のほうが10ポイント以上多くなっています。
- 年齢別にみると、年齢に関わらず「グローバルな視点や多様な人と関わることで視野が広がるから」が最も多くなっています。また、39歳以下は「外国の文化に触れることができるから」がほかの年代より10ポイント以上多く、65歳以上は「海外から優秀な人材が来ることで、地域力が上がるから」がほかの年代より10ポイント以上多くなっています。
- 居住年数別にみると、居住年数に関わらず「グローバルな視点や多様な人と関わることで視野が広がるから」が最も多くなっています。また「グローバルな視点や多様な人と関わることで視野が広がるから」「町に活気がでるから」「税金が増えたり、消費拡大につながる」は居住年数10年以上の人より10年未満の人のほうが10ポイント以上多くなっています。



問 20 で「あまり良くないと思う」または「不安や問題があると思う」と回答された方がお答えください。

問 22 その理由は何ですか。(複数選択可)

(複数回答)



「文化や習慣が違うから」が52.4%で最も多く、次いで「言葉が通じないから」が40.2%、「治安が悪くなるから」が35.0%が続いています。

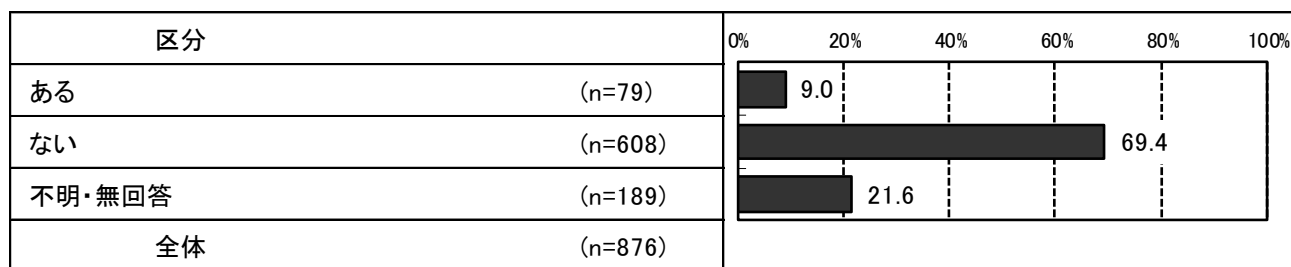
		(n)	言葉が通じないから	治安が悪くなるから	文化や習慣が違うから	日本人の雇用が減るから	日本人と外国人のトラブルが増えるから	外国人向けの施策やインフラ整備などで社会的負担が増えるから	その他	不明・無回答
全体		286	40.2	35.0	52.4	10.8	28.0	8.4	5.9	6.6
性別	男性	125	33.6	39.2	50.4	10.4	33.6	9.6	7.2	6.4
	女性	156	45.5	32.1	53.2	11.5	23.1	7.7	5.1	7.1
	男性・女性と回答しにくい方	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	39歳以下	34	29.4	41.2	73.5	14.7	38.2	8.8	5.9	0.0
	40～64歳	109	41.3	43.1	55.0	9.2	39.4	11.9	6.4	2.8
	65歳以上	140	42.1	26.4	45.0	11.4	16.4	5.7	5.7	11.4
居住年数	10年未満	20	25.0	40.0	70.0	0.0	45.0	5.0	10.0	5.0
	10年以上	265	41.1	34.7	51.3	11.7	26.8	8.7	5.7	6.8

○性別にみると、男女ともに「文化や習慣が違うから」が最も多くなっています。また、「言葉が通じないから」は男性より女性のほうが10ポイント以上多く、「日本人と外国人のトラブルが増えるから」は女性より男性のほうが10ポイント以上多くなっています。

○年齢別にみると、年齢に関わらず「文化や習慣が違うから」が最も多く、39歳以下は73.5%と、ほかの年代より10ポイント以上多くなっています。また、「言葉が通じないから」は39歳以下、「日本人と外国人のトラブルが増えるから」は65歳以上で、他の年代より10ポイント以上低くなっています。

○居住年数別にみると、居住年数に関わらず「文化や習慣が違うから」が最も多くなっていますが、10年未満の人は10年以上の人より10ポイント以上多くなっています。また、「言葉が通じないから」「日本人の雇用が減るから」は10年未満の人より10年以上の人のほうが10ポイント以上多く、「日本人と外国人のトラブルが増えるから」は10年以上の人より10年未満の人のほうが10ポイント以上多くなっています。

問 23 あなたは、外国人が近所に住んで良かったと思うことがありますか。

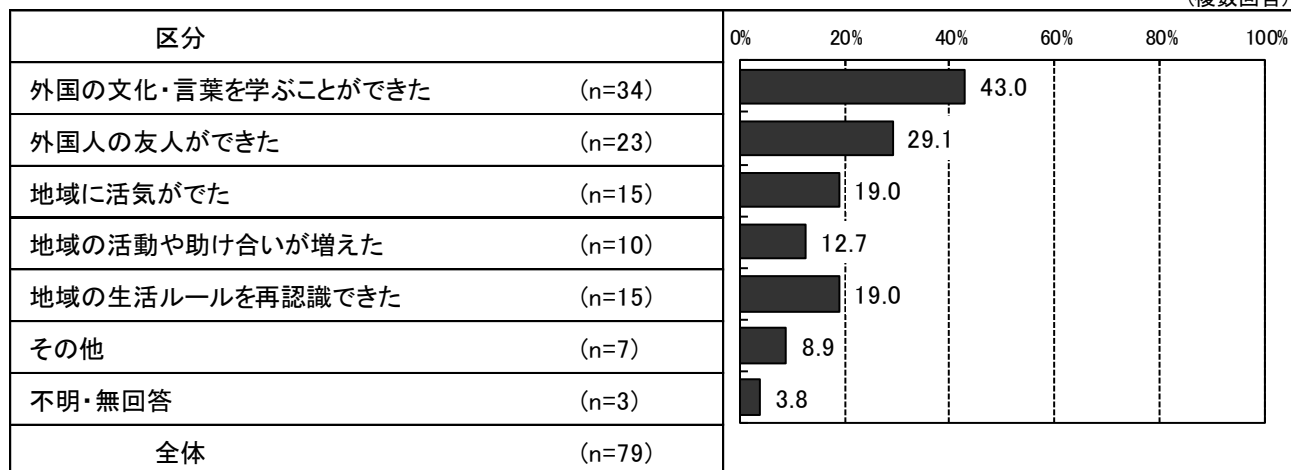


「ない」が69.4%、「ある」が9.0%となっています。

問 23 で「ある」と回答された方がお答えください。

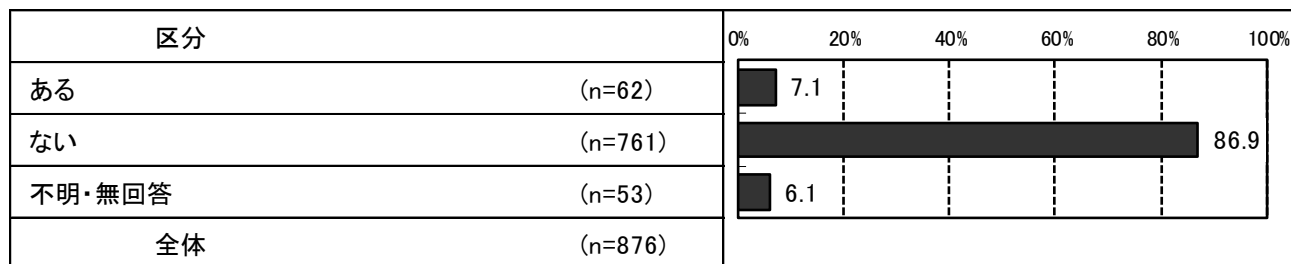
問 24 その理由は何ですか。(複数選択可)

(複数回答)



「外国の文化・言葉を学ぶことができた」が43.0%で最も多く、次いで「外国人の友人ができた」が29.1%、「地域に活気がでた」と「地域の生活ルールを再認識できた」が、ともに19.0%で続いています。

問 25 あなたは、日常生活で外国人との間でトラブルを経験したことがありますか。



「ない」が86.9%、「ある」が7.1%となっています。

問 25 で「ある」と回答された方がお答えください。

問 26 よろしければ、具体的にどのようなことがあったかを可能な範囲で教えてください。

トラブルの具体的な内容は、「社会生活のルール・マナーを守らない」が 23 件で最も多く、次いで「話し合いや注意の意図がうまく伝わらない」が 16 件、「ゴミ出しのルール・マナーを守らない」が 12 件で続いています。

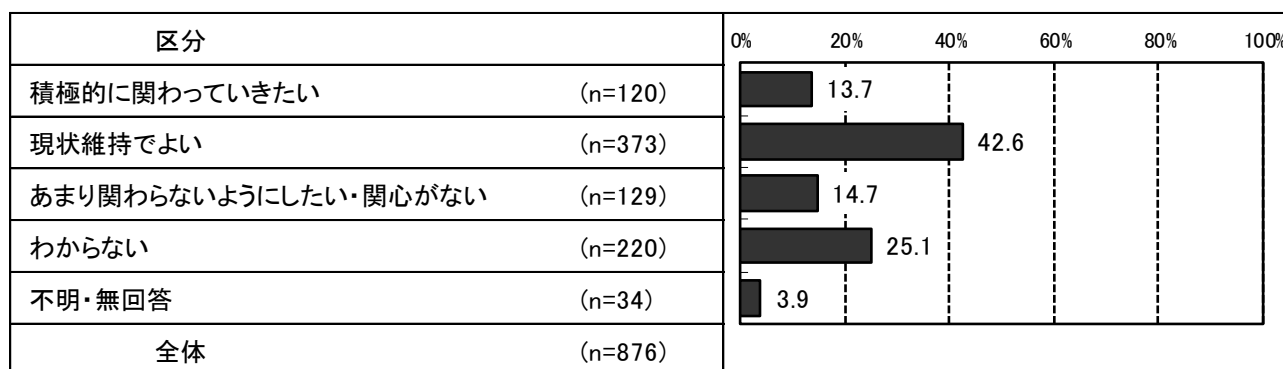
分類	件数
社会生活のルール・マナーを守らない	23
話し合いや注意の意図がうまく伝わらない	16
ゴミ出しのルール・マナーを守らない	12
職場での認識の違い・口論・接客トラブル	7
犯罪被害に関するトラブル	6
相互理解・認識の不足	6
運転・事故被害に関するトラブル	6
地域・PTA 活動でのトラブル	2
嫌がらせを受けた	2
その他	5

問 27 あなたは、地域で外国人との交流は深めるべきだと思いますか。

区分	0%	20%	40%	60%	80%	100%
積極的に深めるほうが良い (n=161)	18.4					
生活上の必要最小限でよい (n=359)	41.0					
特に深めなくてよい (n=109)	12.4					
わからない (n=210)	24.0					
不明・無回答 (n=37)	4.2					
全体 (n=876)						

「生活上の必要最小限でよい」が 41.0% で最も多く、次いで「わからない」が 24.0%、「積極的に深めるほうが良い」が 18.4% で続いています。

問 28 あなたは、外国人とこれからどのように交流していきたいですか。

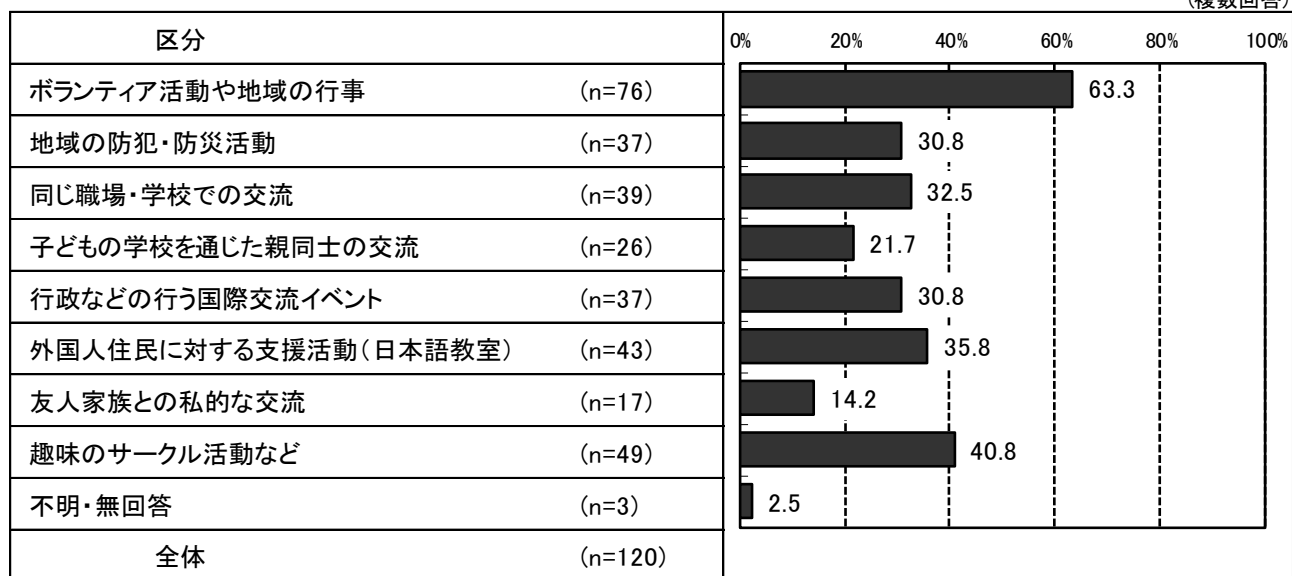


「現状維持でよい」が42.6%で最も多く、次いで「わからない」が25.1%、「あまり関わらないようにしたい・関心がない」が14.7%が続いています。

問 28 で「積極的に関わっていきたい」と回答された方がお答えください。

問 29 あなたは、外国人とどのような交流機会があるといいと思いますか。(複数選択可)

(複数回答)



「ボランティア活動や地域の行事」が63.3%で最も多く、次いで「趣味のサークル活動など」が40.8%、「外国人住民に対する支援活動(日本語教室)」が35.8%が続いています。

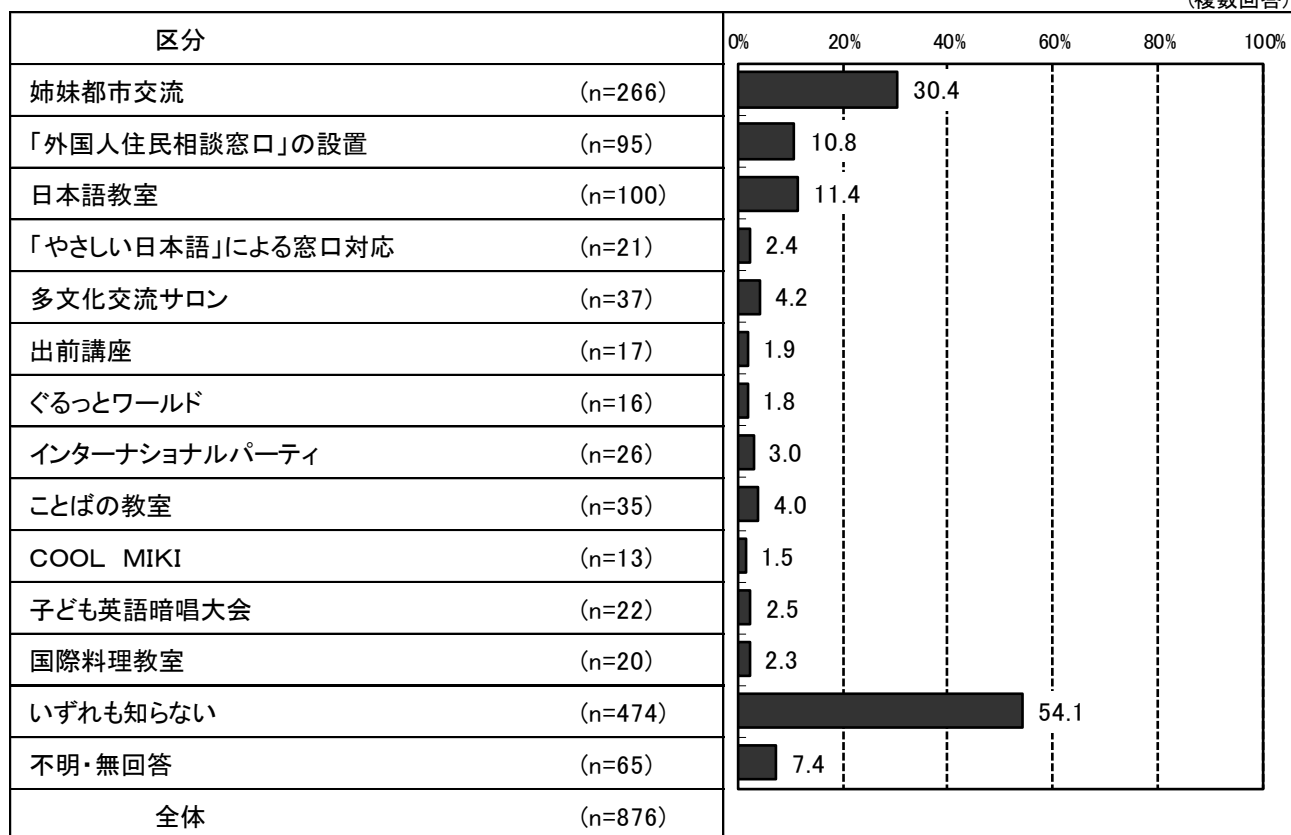
	(n)	ボランティア活動や地域の行事	地域の防犯・防災活動	同じ職場・学校での交流	親同士の交流	子どもの学校を通じた親同士の交流	行政などの行う国際交流イベント	外国人住民に対する支援活動(日本語教室)	友人家族との私的な交流	趣味のサークル活動など	不明・無回答
全体	120	63.3	30.8	32.5	21.7	30.8	35.8	14.2	40.8	2.5	
性別	男性	47	63.8	31.9	27.7	12.8	27.7	25.5	8.5	46.8	4.3
	女性	70	62.9	30.0	34.3	27.1	32.9	42.9	15.7	35.7	1.4
	男性・女性と回答しにくい方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	39歳以下	31	64.5	22.6	54.8	32.3	32.3	32.3	29.0	41.9	0.0
	40～64歳	49	55.1	32.7	28.6	18.4	26.5	36.7	8.2	38.8	6.1
	65歳以上	40	72.5	35.0	20.0	17.5	35.0	37.5	10.0	42.5	0.0

○性別にみると、男女ともに「ボランティア活動や地域の行事」が最も多くなっています。また、「子どもの学校を通じた親同士の交流」「外国人住民に対する支援活動(日本語教室)」は男性より女性のほうが10ポイント以上多く、「趣味のサークル活動など」は女性より男性のほうが10ポイント以上多くなっています。

○年齢別にみると、年齢に関わらず「ボランティア活動や地域の行事」が最も多く、65歳以上では70%台と特に多くなっています。また、39歳以下は「同じ職場・学校での交流」「子どもの学校を通じた親同士の交流」「友人家族との私的な交流」がほかの年齢より10ポイント以上多くなっています。

問 30 あなたは、多文化共生に向けた三木市の取り組みや三木市国際交流協会が実施している事業を知っていますか。(複数選択可)

(複数回答)



「いずれも知らない」が 54.1%で最も多く、次いで「姉妹都市交流」が 30.4%、「日本語教室」が 11.4%で続いています。

	(n)	姉妹都市交流	外国人住民相談窓口の設置	日本語教室	やさしい日本語による窓口対応	多文化交流サロン	出前講座	ぐるっとワールド	インターナショナルパーティ	ことばの教室	COOL MIKI	子ども英語暗唱大会	国際料理教室	いずれも知らない	不明・無回答
全体	876	30.4	10.8	11.4	2.4	4.2	1.9	1.8	3.0	4.0	1.5	2.5	2.3	54.1	7.4
居住年数	10年未満	64	4.7	9.4	6.3	1.6	4.7	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	1.6	79.7	3.1
	10年以上	804	32.1	10.8	11.8	2.5	4.2	2.0	3.1	4.2	1.6	2.7	2.4	52.4	7.7

○居住年数別にみると、居住年数に関わらず「いずれも知らない」が最も多く、10年未満の人は10年以上の人より10ポイント以上多くなっています。また「姉妹都市交流」は10年以上の人で32.1%と、10年未満の人より20ポイント以上多くなっています。

問 31 あなたは、日本人と外国人がともに安心して暮らせる社会にするために、どのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。

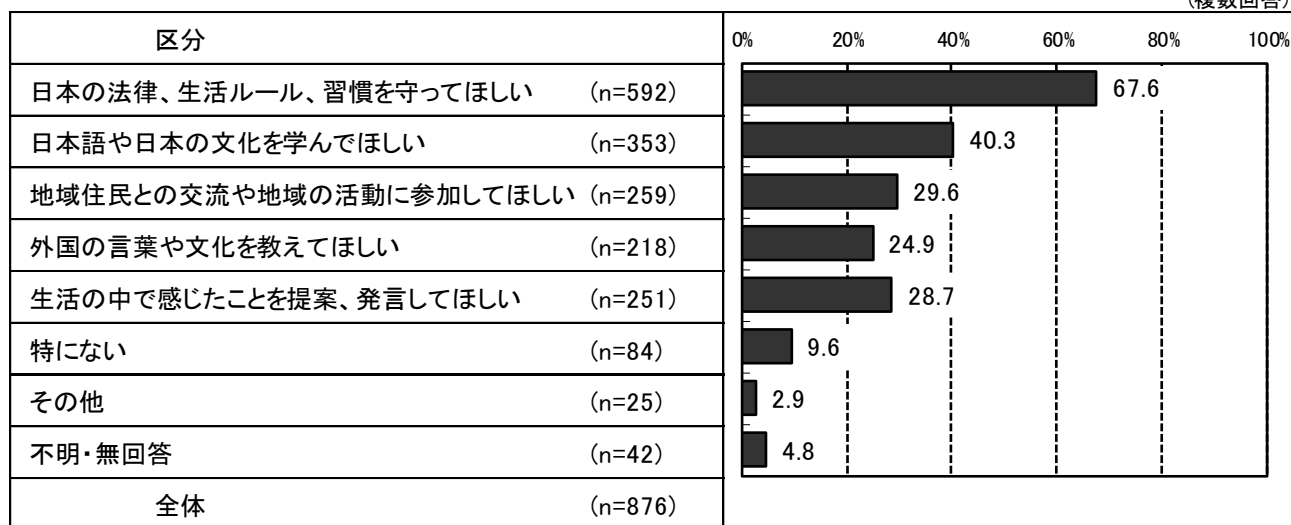
力を入れるべき取組は、「多文化共生の交流の場づくり」が96件で最も多く、次いで「日本の社会・生活についての情報提供・周知」が83件、「日本語教育の推進」が43件で続いています。

分類	件数
多文化共生の交流の場づくり	96
日本の社会・生活についての情報提供・周知	83
日本語教育の推進	43
多文化共生の意識啓発・醸成	39
地域社会への参画促進	33
基本的な人間関係が大切	30
語学学習・通訳支援	28
差別意識の解消・人権教育の促進	23
多文化共生推進への消極的・否定的意見	21
多文化共生をテーマにした交流イベントの開催	20
適正な労働環境の確保	17
生活支援策の促進	16
就学前からの多文化共生教育の促進	16
多様な言語・方法での生活情報の提供	13
外国人住民の相談窓口の設置	12
災害・防犯対策の推進	10
行政による指導・監督・管理の徹底	9
地域活性化・グローバル化の推進	7
多文化共生推進施策の情報提供・周知	5
医療・保険サービスの提供	4
外国人同士の集いの場づくり	2
住宅確保のための支援	2
その他	17
特になし・わからない	30



問 32 三木市に住む外国人にどのようなことを期待しますか。(複数選択可)

(複数回答)



「日本の法律、生活ルール、習慣を守ってほしい」が67.6%で最も多く、次いで「日本語や日本の文化を学んでほしい」が40.3%、「地域住民との交流や地域の活動に参加してほしい」が29.6%で続いています。

	(n)	日本の法律、生活ルール、習慣を守ってほしい	日本語や日本の文化を学んでほしい	地域住民との交流や地域の活動に参加してほしい	外国の言葉や文化を教えてほしい	生活の中で感じたことを提案、発言してほしい	特にない	その他	不明・無回答	
全体	876	67.6	40.3	29.6	24.9	28.7	9.6	2.9	4.8	
年齢	39歳以下	140	66.4	37.9	25.0	45.7	35.7	8.6	2.9	4.3
	40～64歳	329	71.7	41.0	30.1	26.4	35.0	5.5	2.7	2.4
	65歳以上	397	65.0	40.8	31.0	16.6	21.4	13.1	2.8	6.8

○年齢別にみると、年齢に関わらず「日本の法律、生活ルール、習慣を守ってほしい」が最も多くなっています。また、「外国の言葉や文化を教えてほしい」は39歳以下で40%台と、ほかの年代より10ポイント以上多くなっています。「生活の中で感じたことを提案、発言してほしい」は65歳以上のみ20%台と、ほかの年代より10ポイント以上低くなっています。

## 第3章 団体ヒアリング結果（関係団体）

三木市を中心に活動し、多文化共生を推進している団体の視点により問題点を抽出するとともに、「三木市多文化共生推進プラン」に反映させるべき内容をヒアリングにて把握するために実施しました。

問1 貴団体についてお答えください。

4団体より回答をいただいています。

活動内容

日本国内外において、ネパールの女性の地位向上や自立支援、介護、衛生知識の向上に関する活動を行い、相互の文化交流を推進することによって、国際協力や人権の擁護又は平和の推進に寄与することを目的として、パラリンピックやライトイットアップブルーなども推進している。
1 国際交流の普及及び啓発事業 教育施設、自治体における出前講座、ことばの教室等セミナーの開催、広報誌の発行
2 外国人受け入れ体制整備事業 子どもから大人までの日本語学習支援を含む居場所づくり、通訳翻訳者の育成及び活用、出前講座などのゲストスピーカーの育成及び派遣
特に外国人に限定した活動はありません。
日本語学習支援 外国人中学生への学習支援と、学校からの連絡プリントの解説

問2 外国人住民と関わる中で、何か感じることはありますか。（外国人住民の属性やここ最近の傾向など）

各団体が外国人住民との関わりの中で感じることは、多国籍の外国人が増えている中で、日本人との交流というより同国や同宗教的なつながり（外国人コミュニティ）ができているのではという意見が出ています。

また、定住する外国人が増えたことから学習・進学・就職を希望する人が増えているとの意見も出ています。

そのほか、医療機関の受診や新型コロナによる生活困窮、母国の家族の生活困窮といった意見や、特に不安を感じていないのではといった意見も見られます。

以前は、外国人本人の言葉の壁の問題が超えなければならないスタート地点のように思われましたが、そのお子さんやご家族が増え定住される中で、地域との折り合いや協和よりも、同国、宗教的なつながりを主にされるようになったと感じています。

<p>○国籍、民族のバリエーションが増え、言語の壁や文化習慣による様々な違いを感じることもある。理由としては、2015年12月、外国人住民数が1,000人を超えたころから、東南アジア圏の技能実習生が増え始めたこと、また、2011年に勃発したシリアの紛争の影響で、同国人や隣国の人々の転入が増えたことにあると考える。</p> <p>○家族の帯同によって地域の学校に在籍する外国人の子どもが増加し、学習支援が不足しているケースが頻発しているようだ。</p> <p>○日本語が不十分な外国人患者が受診できなかつたり、彼らの対応に苦慮している医療関係者の話を聴いたりすることが増えた。</p>
<p>○コロナ関連で職が安定せず、経済的に困窮する人が相談に来られる。</p> <p>○外国人住民はご自身の日本での生活困窮よりも、母国にいる家族の生活困窮が課題のように感じる。</p> <p>○日本での暮らしに不安を感じているのではないかと感じることもある。</p>
<p>家族で定住し、子どもたちが日本での進学・就職を希望することが増えている</p> <p>同国人が一定数いる場合、同国人のコミュニティができており、日本人との交流機会が増えている。</p> <p>先輩同国人から生活に必要な情報が回ってくるからか、生活に不便を感じる事が無い様子。そのため日本語学習意欲が低下している人も見られる気がする。</p> <p>最近、東南アジアは国が裕福になっているのか、スマホをはじめとして持ち物が日本人と変わらなくなっている。</p>

### 問3 普段、外国人住民からどのような相談や問い合わせがありますか。

外国人からの相談や問い合わせについて、学校・教育関係の意見を4団体中3団体が答えており、内容としては学校関係の書類・案内が読めない、日本語学習の情報、進学などの意見がみられます。

次いで医療に関する意見が出ており、女性の産科医のいる病院や近隣の医療機関など医療機関に関する情報の意見が出ています。

その他、様々な手続きや支払い、就労などに関する相談や問い合わせについて意見が出ています。

<p>医療、保健、ビザについて</p> <p>行事、学校の持ち物について（子どもは学校に通っているため、日本語を話せるようになるが、親は日本語が話せない、読めない場合がある。）</p>
<p>○子どもの教育—日本語習得、高校進学に際しての奨学金、制服の調達</p> <p>○日本語教室の情報</p> <p>○女性の産科医のいる病院の情報</p> <p>○在留カードの更新に必要な書類等</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>○出生証明書などの英訳、和訳</li> <li>○公営住宅、戸建ての紹介</li> <li>○就労に関すること</li> <li>○税金・年金の支払いについて</li> <li>○運転免許の取得について</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○母国への仕送り費用が足りない。仕送り費用の支援をもとめている。</li> <li>○仕事が安定しない。</li> <li>○生活の資金を借りたい。</li> <li>○避難所がどこか知りたい。</li> <li>○困りごとを相談できる窓口の問い合わせ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○近隣の病院についての問い合わせ。(おすすめの病院はどこか？ 場所は？ 女医さんのいる病院はどこか？等)</li> <li>○こども園に提出する書類。何を聞かれているのか、どのように書けばよいのか等</li> <li>○学校からのプリントの内容について、何が書いてあるのか</li> <li>○行きたい場所への交通手段はどうすればよいのか</li> <li>○マイナンバーカード、通帳、Paypayの手続きについて、スマホでどうすればよいのか</li> <li>○小学校低学年で日本に来た。日本語はほとんど困らないが、両親とも外国人なので、日本語の敬語の使い方を教えてほしい。</li> <li>○子どもが保育園に通っているが、園からのLINEでの連絡など、難しい日本語が使っているため、理解するのが大変</li> </ul>

問4 外国人住民からの相談や問い合わせ等の対応を行うにあたり、問題や課題等がありますか。

相談や問い合わせの対応にあたっての問題や課題は、「言語（コミュニケーション）による壁」が最も多くみられます。具体的には、言葉の行き違いやコミュニケーションが取れないといったものや、やり取りに時間がかかってしまうこと、日本の制度の説明が難しいなどの意見がみられます。そのために、通訳・翻訳の配置やコミュニケーションツール、書類の多言語化（翻訳、やさしい日本語の活用）など、様々な手法・支援が求められています。

<p>言葉での行き違いはどうしてもあるので、イラストなど目に見える形での冊子が身近にあると助かる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○会話もある程度できても、読み書きができないことがあるので、提出書類を書くことができない。</li> <li>○自治体などの適切な場所へつなぐことに困難がある。つないだとしても、言語の壁により、日本人よりやり取りに時間を要する。また、その後の仲介においても、面談などの予約の日程調</li> </ul>

整や無断欠席の場合の再予約などのやり取りが難しい。協会スタッフが両者の間に立つことで意思疎通は円滑に行えるが、自治体自体の自助努力を損なう可能性がある。

- 通訳や翻訳で、特定の言語を指定された場合、対応できるスタッフがいらない。
- 過去の相談で理解できたとしても、期間が空くと、同様の相談を再度尋ねることがあり、外国人住民に努力を促すことも必要である。
- 行政の制度、特に税金の制度が難しく、外国人が理解できるような仕組み（翻訳文など）が必要だと考える。

- お互いに言葉が通じないことで、コミュニケーションがとりにくい。
- 複雑な制度の説明が難しい。ポкетークでは通訳しきれない部分のコミュニケーションが難しい。
- 手話や要約筆記のように使える資源(ボランティア団体等)、言語に関しては通訳を気軽に頼める団体などが身近にあれば、対面でのやり取りもスムーズにいくのではないか。特に重要事項説明や契約書など細かい部分に関して、理解を求めるのが難しい。多国籍の住民が多いなか、三木市において必要な役割ではないか。
- 言葉が通じないことで、あきらめて苦笑いになられることがあり、申し訳なく感じる。何かよいコミュニケーションツールがあれば、それをどこでも使用できるような環境が整備されればよいと思う
- 手順や方法などを伝えるが、こちらの意図するところが伝わっていないことが多い。
- 連絡を取り合わなければならないが、連絡手段を見出すまでに時間がかかる。

- 書類などは電話で用件が完了できない。会って手助けするためにはまとまった時間が必要になる。
- 学校や園からの文書での連絡は、両親とも外国人の場合は、親も日本語がわからないので理解が困難です。学校や園も多言語化や「やさしい日本語」を使って連絡するなど、配慮が必要ではないか。
- 外国人の児童、生徒の授業について、どれくらい理解できているかなど、学校のフォロー体制が必要ではないか（漢字が分からない）

問5 外国人児童生徒の学習支援や進学、就職、保護者への対応にあたり、問題や課題はありますか。(※学習等において直接関わりがない場合は、次へお進みください)

外国人児童生徒の学習に関する問題や課題として、進学にあたっての費用の問題、保護者の日本語能力(会話はできるが、書類が読めない・書けない)、子ども自身が学べる機会などに関する意見が出ています。

- |  |
|--|
| <p>○様々な家庭環境により、子どもの学習発達に影響が出る・・・保護者の日本語が十分でない場合、会話能力が高くても読み書きが不可の場合、漢字圏の中国出身で読み書きは問題なくても意思疎通が難しい場合など</p> <p>○母国の教育制度とは異なることがあり、特に受験については内申書重視などの情報を得る術がなく、3年生になって慌てる。全日制、定時制、通信制などの諸学校の説明も保護者には難しい。</p> <p>○子どもの教育について日本語がゼロレベルである場合、母語と日本語を繋ぐ通訳が役割の多文化共生サポーターに日本語学習支援までを負わせることが問題である。</p> <p>○自己肯定感が高い人は、実際はそうではないとしても「わかる、できる」と思い込んでいて、現実を伝えることが難しい。</p> |
| <p>○進学にあたり、学費がまかなえず、生活福祉資金、教育支援資金の相談にこられる方がおられる。外国人生徒に限らず、日本人であっても同様であるが、相談が進学間際で資金貸付が対象であっても申請に間に合わないことがある。外国人生徒だと言葉がなかなか通じないことから日本人以上に相談に時間を要する。早めに相談に応じられるように、低所得世帯の生徒に対しては学校で早めに制度の案内をしてもらえたらと感じる。</p> <p>○上記については、保護者の方が子どもよりも日本語が話せず、説明に困難さを感じる場合がある。</p>  |
| <p>○学習言語、生活言語ともに語彙力が足りていないと思われる。小学校、中学校ともに先生方は精一杯対応してくださっているが、児童・生徒は家庭内や生活コミュニティでは母語を使っていることが多いため、滞在年数の割に日本語力が伸びていないように感じられる。</p> <p>○学校での取り出し授業、更に児童へのひらがな・カタカナ支援や絵本の読み聞かせなど、日本語・日本文化に触れる機会を増やすことが必要だと思われる。</p> <p>○異文化の中での学習、進学で、ある種の「生き辛さ」を感じながら生活しているように見える。</p> <p>○高校への進学援助の必要がある。</p>   |

問6 外国人住民への支援にあたり、他の機関や団体との連携はありますか。また、どのような内容（支援）で連携をしていますか。

他機関・団体との連携状況は以下の通りで、連携している内容も各団体の特性・活動内容に応じたものとなっています。

#### 連携している機関・団体

兵庫県立三木高校、関西国際大学、三木警察、行政、奉仕団体、一部の医療機関や民間企業、
三木市国際交流協会
神戸市教育委員会 学校教育部学校教育課

#### 連携している内容

○日本語教室（三木市の事業を受託）において定期的に研修を開催している。例：自転車走行、AED講習や救急車の呼び方、ゴミの捨て方等
○学校などで多文化共生理解講座を行い、母国紹介や日本における生活など外国人の生の声を生徒が傾聴する機会を提供している。
○高校生の探求学習に協力し、情報提供を行う。
○大学生のフィールドワークに外国人住民の参加を促している。
コミュニケーション支援（対面時の通訳、文面の日本語訳や外国語訳など）※子育てファミリーサポートの申し込み時などの場面
兵庫大開小学校において、外国にルーツを持つ児童への取り出し授業に対応するボランティアの配置、使用教材の購入。
神戸市 JSL 教室参考 url <a href="https://www.city.kobe.lg.jp/a48730/jsl/shoujsl.html">https://www.city.kobe.lg.jp/a48730/jsl/shoujsl.html</a>

問7 外国人住民への支援にあたり、今後連携したい機関や団体はありますか。また、連携するにあたり、必要と感じていることはありますか。

今後連携したい機関や団体として教育委員会が5団体中2団体から出ています。その内容としては、子ども一人ひとりにあった教育が受けられる環境（日本語教育も含む）や配布物に対する説明について意見が出ています。そのほか、外国人も参加できるイベントや労働問題で相談できる窓口が必要という意見も出ています。

#### 連携したい機関・団体

三木市教育委員会、医療機関、ハローワーク
多言語の通訳を気軽に頼める団体やボランティア
三木市教育委員会、自治会、企業

#### 今後必要と感じていること

<p>○家族の呼び寄せで、海外から転校する子どもが増加している。多くの場合、家庭でも母語を使用していることから、日本語の習得は学校のみとなる。日本語の基礎学力がないまま、通常の教室での授業についていくことは困難であるにもかかわらず、十分な支援を受けているとはいえない。マジョリティの中で理解できない言葉や状況におかれ、精神的に追い込まれるケースもある。一人ひとりのニーズに合った教育を受けられるような環境整備が必要と考える。</p> <p>○外国人患者が安心して医療を受けることができることと同時に医療関係者にとってストレスのない現場となるのではないかと考える。</p>
<p>○週1回程度、学校内での取り出し授業としての日本語支援。</p> <p>○学校からのお知らせプリントの日本語は、外国人保護者・児童・生徒には難解な表現なので、配布するときに手助けが必要。</p> <p>○児童・生徒は週2回程度の学習支援が必要</p> <p>○外国人も参加できるイベントの開催</p> <p>○労働（雇用関係）問題で、企業内外を問わず相談できる窓口</p>



問8 貴団体において、今後、新たに展開を考えている事業や取組はありますか。

新たに展開を考えている事業や取組は、言葉の壁を解消するものが多く、方法としては防災を軸に互いが学べる場やコミュニティ通訳の育成、居場所づくり、紙芝居を活用した日本語教材の作成など、各団体の特性を生かした取組が出ています。

防災士としての資格を活かし、外国人住民と日本人地域住民を同時に、またいろんな国籍の方を対象に防災意識の向上や災害時の対応等、コミュニケーションの場としての一面を持つ講座の開催。

- コミュニティ通訳の育成や活用・・・多言語には限界があるので、やさしい日本語という枠も検討する。
- 外国人の子どもの居場所づくりの拡充・・・既存の宿題支援だけでなく、日本文化体験やリクリエーションなどの機会を増やす。
- 外国人住民に地域の活動やボラティア活動の参加を促す・・・地区の清掃、公民館のサークルなど

紙芝居を使用した日本語教材の作成。

一つのストーリーに対し、複数言語の語彙集を作成し、日本語ゼロレベルの大人向けクラスでのグループレッスン導入や、児童・生徒への日本語教室の使用。

例)「桃太郎」「かぐや姫」「おおきなかぶ」等、知っていることが常識となっている物語。

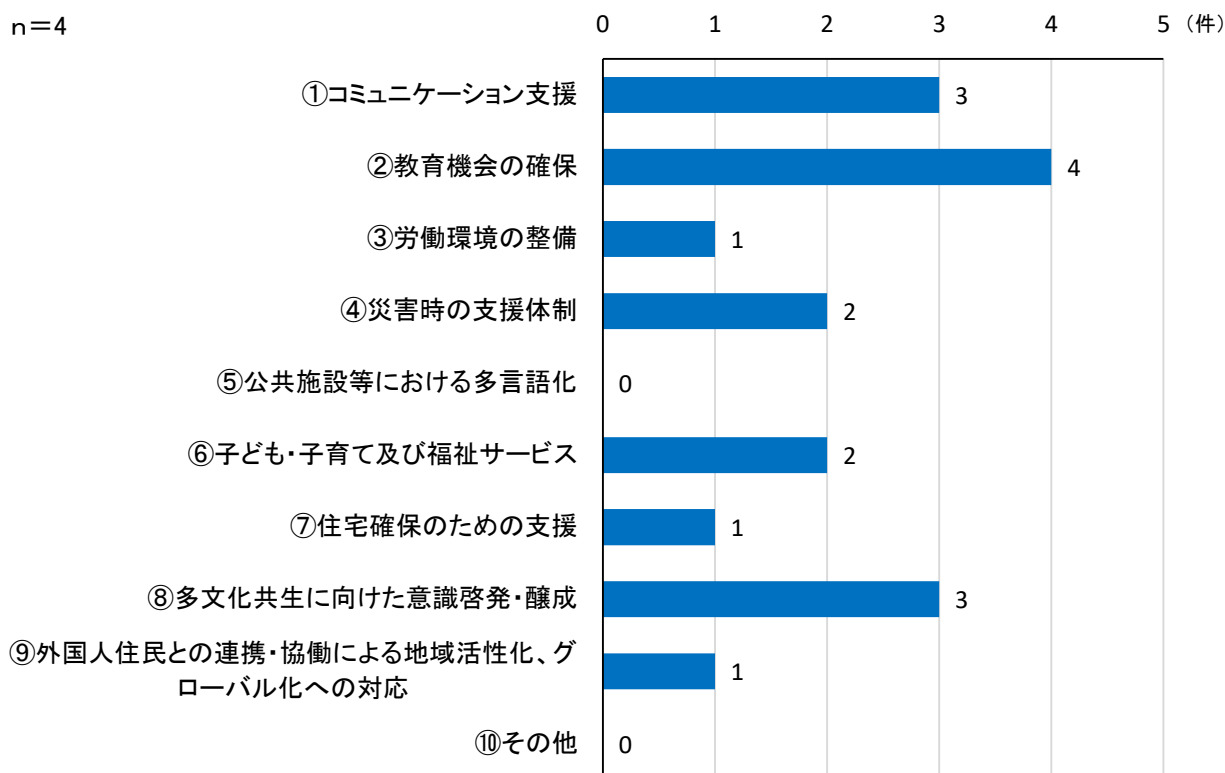
※かぐや姫は古文の「竹取物語」への理解につながる。

【目的】語彙を増やし、日本文化の理解に使用する。中学校での古文に備える。

問9 三木市として、多文化共生を進めるにあたり、どのような施策・事業に取り組んでほしいと思いますか。次の①～⑩のうち、特に進めてほしいものを5つまで選んでいただき、その理由をご記入ください。

多文化共生を進めるために必要な施策・事業は、すべての団体が「②教育機会の確保」と答えています。具体的には外国から来た子どもが日本語の基礎を学べる場、日本語で教育を受ける不便さの解消、親子ともに学べる場といった「学びの場」に関する意見と、受けるための資金援助といった意見が出ています。

次いで「①コミュニケーション支援」と「⑧多文化共生に向けた意識啓発・醸成」が続いており、日本人住民と外国人住民が様々な方法や機会を活用し、お互いが理解できるような取組が求められています。



#### 【具体的な内容】

##### ①コミュニケーション支援

日本人住民に提供される行政サービスや履行しなければならない義務の内容や、生活のルールや習慣、地域の活動などについて、外国人住民にも理解しやすいように「やさしい日本語」を含む多言語化で情報提供をする。

現在の社会情勢では、今後も外国人住民の増加が見込まれる。

老若男女を問わず、自分の得意分野、参加したい分野の幅が広くあることが、楽しめる場所、居心地の良い場所のはじまりだと思うのでコミュニケーション支援が必要

## ②教育機会の確保

来日直後、学校に通うまで、もしくは通いながら、外国人の子ども対象に日本語の基礎学力や学校生活のノウハウを身に付ける場の確立が望ましい。米国の ESL と日本の JSL には制度や仕組みなどに大きな差があるように思える。SDGs の観点からだれも取り残さない施策を進めることが重要だと考える。
日本語での教育を受ける不便さを解消し、十分な学習効果あげることが生活基盤を作り就職・就業・起業につながる。 両親とも外国人家庭の支援（親子ともに日本語学習支援が必要）
日本に馴染むと共に、未来の日本の子どもたちと友人となる存在を子どもたちにも好意的に受けとめ、育てほしいので
進学に当たり、学費が賄えず生活福祉資金、教育支援金の相談が多い。外国人の児童生徒が、就学の機会を逸することが無いよう就学支援助成制度やその他、多言語での周知やわかりやすい説明が必用。 子どもだけでなく、親（大人）の日本語学習支援が必要

## ③労働環境の整備

日本人の中に、「外国人は共に働く同僚であり、立場は対等」という意識が定着しなければ、日本で働きたいと考える外国人が減り、日本の労働力強化が実現できなくなると思われる。
労働環境の改善など外国人労働者を受け入れる企業も、外国人の支援を推進する必要がある。

## ④災害時の支援体制

多くの外国人の方々を取り残されることなく、また、日本人とのコミュニケーション不足における軋轢を生まないために
災害時、情報弱者として取り残されることが無いよう、平時から外国人向けの啓蒙活動や、災害に関する情報、避難所情報などの学習機会を設けることが必要。可能であれば定住外国人の防災リーダー受講のサポートなども有効と思われる。

## ⑥子ども・子育て及び福祉サービス

三木市で出生する外国人の子どもが増えていることから、保健、教育などの現場において多言語化だけでなく、通訳者の派遣なども必要となる。
福祉制度やサービスの多言語化（外国人にも理解しやすい、「やさしい日本語」を含む）も必用ではないか

### ⑦住宅確保のための支援

空き家バンクの説明の多言語化、自治会の説明の多言語化、外国人の入居を快く思わない地域住民への人権の観点からの意識啓発を進める。

### ⑧多文化共生に向けた意識啓発・醸成

同じ言葉（発音、ジェスチャー）であっても意味が違うことがあることを前提に、お互い理解しておくことが共生の一步だと思うので

外国人住民の存在や彼らの発言を傾聴する機会を設ける。

外国人の通訳、翻訳者の活用を促す。

外国人職員を登用する。

外国人住民との共生について、市民の意識啓発や醸成がまだまだ不十分であると考えている。

### ⑨外国人住民との連携・協働による地域活性化、グローバル化への対応

人間関係が希薄になりつつある地域社会の活性化を図るためにも、イベントなどに国籍、民族の垣根を越えた人々にも参加を呼び掛ける。

## 第4章 団体ヒアリング結果（自治会）

問1 貴自治会名をお答えください。

20 自治会より回答をいただいています。

問2 貴自治会に加入している外国人住民はいますか。また、自治会に加入している外国人住民の割合はどの程度ですか（約半数程度、2割など）。

自治会への外国人住民の加入状況について、自治会によって加入者に差はあるものの20自治会中10自治会において外国人が自治会に加入しています。外国人が加入していない自治会は10自治会ありますが、うち4自治会は外国人住民がいない状況です。

現時点では加入無し
1割程度とは思いますが
外国人住民はいません。
外国人住民はいますが、自治会には加入していません。
外国人住民はいますが、自治会加入はありません。
外国人住民はいます、15戸中1戸。
ごく少数います。
外国人住民は1家族いますが、自治会には加入していません。
1世帯います。(340世帯中1世帯)
外国人住民はいません。
令和5年4月より自治会加入予定。現在は、自治会協力者扱いとなっている。1戸3名
外国人住民はいません。
ピアン自治会の外国人の自治会加入者は、100%です。 ピアン 120軒 224人数 外国人比率 10.3% 中国人 3軒 18人 ネパール 1軒 2人 ベトナム 1軒 3人
現在、中国、ベトナム、タイ、ブラジル、スペイン、シリア、レバノン、ラオス等、約464戸中70世帯くらい外国籍の方が入居されていますが、ラオス、シリアの方2世帯が自治会加入をしている。
2世帯います。
外国人住民はいません。

自治会加入しています。
個人では1戸5人家族（30戸内） 会社、事業所8～9戸（60事業所内） 隣接する地域で、自治会未加入の事業所は20件程度ある。主としてヤードと思われる。
いません
いません。正確には分からない。

問3 貴自治会において、日本人住民と外国人住民が交流したり、一緒に活動をしたりするイベントや活動はありますか。その自治会活動に外国人住民の参加はありますか。

外国人住民との交流状況について、20自治会中11自治会が外国人住民との交流はないと答えています。交流のある自治会では祭りや清掃活動、勉強会などを実施していますが、新型コロナウイルスの蔓延に伴い、一部の自治会では活動を自粛している状況です。

現時点ではありません。
コロナ以前は、地区の夏祭りに金魚すくいなどで盛り上がっていたのを思い出す。
ありません。
ありません。
夏祭り等の参加を促しますが、参加はありません
戸主の配偶者が外国人、自治会活動は戸主が中心のため、特に問題はありません。
自治会主催のイベント（祭りとか）には参加する人は、ほとんど無い。
ありません。
外国人住民とのイベントや活動はありません。また、自治会活動への外国人住民（自治会に加入されていない方）の参加はありません。但し、問2の自治会に加入されている外国人住民の方は、いつも参加されます。
ありません。
自治会に加入すれば、自治会行事にすべて参加いただく
ありません。
毎年、10月開催のふるさと祭りの「餅つき大会」やピアン敷地内の屋外飲み会等に2～3名の参加がありました。2020年4月以降は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、飲み会等を伴う自治会活動は開催していない。
シリアの児童に勉強会をボランティアに指導していただいていたが、勉強会より遊びがメインになるため、現在は、公民館で実施している。URに要請をし、集会所利用賃貸を半額免除となっていました。現在は実施していません。

毎年ハロウィン祭りを10月に開催しています。希望に応じてお誕生日会を開催できるよう集会所などを提供しています。
ありません。
毎月1回ある清掃活動に参加しています。
以前は夏祭りなどへの参加はあり、一斉清掃、行事などへは個人の外国人住民は毎回参加される。約1/3の事業所は、一斉清掃までに事業所として実施している。交流として、親睦旅行などは少数の参加あり
居住者がいないので、交流イベントはありません。
交流イベントはありません。

問4 貴自治会において、日本人住民と外国人住民が交流したり活動するにあたり、問題や課題はありますか。

外国人住民との交流活動における問題や課題として、20自治会中8自治会が問題はないと答えています。交流にあたっての問題として、20自治会中9自治会が言語や習慣の違いによるもので最も多く、ゴミ出しに関するものが2自治会となっています。

現時点では住民が交流する場面がまったくありません。 問題課題そのものが分かりません。
やはり、言葉の違いが壁ではないでしょうか、少数の外国人は日本語を理解しようとしませんが、同じ国から多数来られると母国語で会話するので、あまり日本語を話さなくて良い分、覚えるのが遅くなると聞いたことがあります。
ありません。
ありません。
コミュニケーションの取り方が難しい。
自治会に加入して、1年のため現状ではまだわかりません。
自治会に加入している外国人は少数。地域に住む外国人住民は多い(集合住宅に住む労働者)が、交流しようとしにくい。出合っても目をそらそうとしたり、無視する。
ありません。
一番の課題は、言語だと思います。英語圏以外の外国人住民も多く見受けられるが、共通言語の英語を話せる日本人住民も外国人住民も少なく、コミュニケーションが取りにくい。
ありません。
コミュニケーション、特に言葉が問題。受入れる側の外国人に対する潜在的なイメージなど
ありません。

中国人、ベトナム人との会話で、日本語や英語が通じないことが多いため、入居当初は意思の疎通が図れなかった。東安アジアの人と付き合う大事なポイントは、相手のプライドを大事にすることだと思います。
文化と習慣の違いとベトナム、中国の方は3交代勤務のため、日常会話をする時間がなく、また、注意、アドバイスをするにも言葉が通じず、個人でポケットークを購入していますが、使用頻度は低い。ゴミ関係に関しては、三木市役所やURの協力で、ごみカレンダーの多言語版を作成していただき、配布していますが、完全な理解はしていない。
ゴミ出しのトラブル。昼間に大音量での音楽（母国の音楽など）をかけ、騒音として近隣からの苦情があります。課題はあります。
日本人住民と外国人住民とのコミュニケーション（言葉による意思の疎通等）文化の違い
言語お違い。コミュニケーションの取り方が難しい。
古くからの個人外国人住民は問題ない。新しい外国人住民（事業所に係る）については、言葉の壁があり、また習慣が違うため、いろいろな事が説明しにくいので、アプローチができていない。
特にありません。
特にありません。

問5 外国人住民が自治会に加入することについて、どのように思われますか。

外国人住民が自治会に加入することについて、20自治会中13自治会は「問題ない」「加入してほしい」「いいこと」など外国人住民の加入を求めており、うち4自治会は言語や習慣等を理解してほしいと答えています。

外国人住民が地区に住んでいること自体知りません。
日本の習慣を理解していただけたら、なんら問題ないと思います。もちろん、日本人も外国人の習慣を理解しないとイケないです。
地域の文化交流ができると思う。
当地区の外国人の方は、数年間の就労の後、自分の国に帰られる方が多いため、現在のところ当自治会に加入される予定はありません。
自治会に加入してほしいと思っています。
新しい風が入って良いと思っています。
難しい
言葉の課題はありますが、本人が加入を希望される場合は、自治会として拒むものではありません。既に加入されている外国人住民の方も、徐々に日本語を覚えて、町内の方と仲良くされてい



ます。
同じ地域内に居住するので、加入すべき
非常にいいことだと思う。
問題はありません。
ピアンは自治会費が管理費に含まれているため、入所者は100%自治会員ですが、言葉や生活習慣等の違いがあるため、外国人入居者は、自治会の役員や年2回の大掃除免除となっています。
団地内の社会的ルール等の勉強会を持ち交流を深めることは、可能ではないかと思います。ベトナムや中国籍の方は、就労ビザ（3年）の期限が切れると帰国され、新たな方が転入されるので、どの棟にどなたがいるか分からなくなる。
住民ですので、当然加入していただきます。交流することで御互いの情報交流を行うことは、地域の安全安心のまちづくりを構築する上で必須です。
自治会活動に賛同してもらえる場合は、外国人住民が自治会に加入しても良い（ただし、言葉が通じない場合は難しいのではないかと思う。）
自治会に加入してほしいと思っています。
集会や行事に参加してもらうことにより、お互い理解しやすくなり、マナー違反やトラブルを避けることができ、外国の習慣や情報等知識の向上にも繋がる。
日本人住民と何ら変わりません。文化の違い等は考慮する必要がありますが、言語に関しては覚えていただく必要があります。
日本人の文化や考え方を尊重できる外国人住民であれば、自治会に加入しても問題ないと考え
る。

問6 外国人住民のことで、地域住民から意見や苦情など相談はありますか。内容を可能な範囲で教えてください。

外国人住民のことで地域住民からの相談として、20自治会中12自治会は「問題はない」と答えています。苦情の内容としては「騒ぐ」「ゴミの捨て方」に関する意見が6自治会でみられます。

まったく耳にしたことはありません。
別がない
ありません。
ありません。
苦情や相談はありません。
苦情や相談はありません。
たまに、早朝や夜中に大勢で騒ぐ、奇声を上げる、大音量で音楽を流す。
自治会に加入されていない外国人住民の方々のゴミの出し方（ごみカレンダーを守らない）について苦情が多くあります。ごみステーションには、多言語の看板を立てて注意を促しているのですが、なかなか難しいです。
ありません。
現在、苦情や相談はありません。
苦情や相談はありません。
入居当初は、たびたび土曜日・日曜日の22時以降、窓を開けて大音量で音楽をかけ騒ぐことがあった。また、ごみ出しのルールやごみの分別ができないなど、問題がある。
夜遅くまで、ドアを開放しての大声、分別しないゴミ出し、早朝、深夜の出退勤時の大きな声の会話、棟間での大きな声の会話、そんなルール違反があれば、外国人であるとの偏見を持っている。
ゴミ出しのトラブル。昼間に大音量での音楽（母国の音楽など）を騒音として近隣からの苦情があります。課題はあります。
ゴミの出し方のルールが守られていない事があると聞いたことがある。
苦情や相談はありません。
個人の外国人住民については、問題ありません。事業所全員については、外国人従業員の住まいが事業所敷地内の簡易な建物やコンテナ、スーパーハウスなどが多く、仲間同士でのやりとりとなり、一般住民との関わりが全くなく、国籍がどこなのか言葉もわからないので地区の住民が不安がる。時には夜遅くまでお酒を飲んで騒ぐなど、迷惑なことも多くある。
特にありません。
ありません。

問7 上記の意見や苦情の解決に向けて、どのように取り組んでいますか。

苦情の解決に向けて、外国人住民への説明会や意見交換会の開催、多言語による看板の設置や資料の配布に取り組んでいます。問6で問題はないと答えた自治会は取り組んでいる内容もありません。

ありません。
ありません。
ありません。
注意しにくい。
ごみステーションに、多言語の看板を立てて注意を促しています。
ありません。
今後、外国人住民を自治会に受け入れる側として、相談しやすい環境づくりを考えないといけない。
ありません。
夜間の騒音は該当居住者に注意をする。ゴミ出しのルールや分別の方法は、最初の1～2回は一緒に分別するなど多言語のゴミの分別表など使って説明した。多言語のパンフレットは、環境課でもらう。
集合住宅での生活マナーの多言語チラシの配布、ごみカレンダーの多言語版の配布、ポケットークを使っての説明。シリア児童達の自転車修理（パンク修理）
当事者（外国人住民）と地域として意見交換、交流を行っている。前向きなお互いに信頼できる対話を条件としている。
外国人住民の職場の方や大家さんから説明してもらっている。
注意もしにくい。騒音、ごみ処理、排水等については注意を聞いてくれることもあるが、大部分か注意しても無視されたり、事業主に伝えても改善されることが少ない。言語が違うので、伝えることが困難。
特にありません。
ありません。

問8 反対に地域住民のことで、外国人住民から意見や苦情の相談はありますか。また、内容を可能な範囲で教えてください。

外国人住民からの相談について、ほとんどの自治会がないと答えています。一部、ルールや回覧を多言語化してほしいという意見があります。

まったく耳にしたことはありません。
ありません。
ありません。
ありません。
ありません。
何もない。
恐らく、言葉の問題もあり、区長には聞こえてきません。自治会の役員会でも外国人住民からの意見や苦情が、議題に上がったことはありません。
ありません。
現在はありません。
ありません。
外国人住民からの相談はありません。
ありません。
地域のルールや回覧について、多言語を用意してほしいとのこと。会話も丁寧にゆっくり話してほしい。
ありません。
ありません。
道路の補修や路肩の雑草など、環境面の苦情はある。地域住民のことにについて、外国人住民からの苦情はない。
特にありません。
特にありません。

問9 貴地域のまちづくりにあたり、外国人住民と一緒に取り組んでみたいと思う内容や取組はありますか。

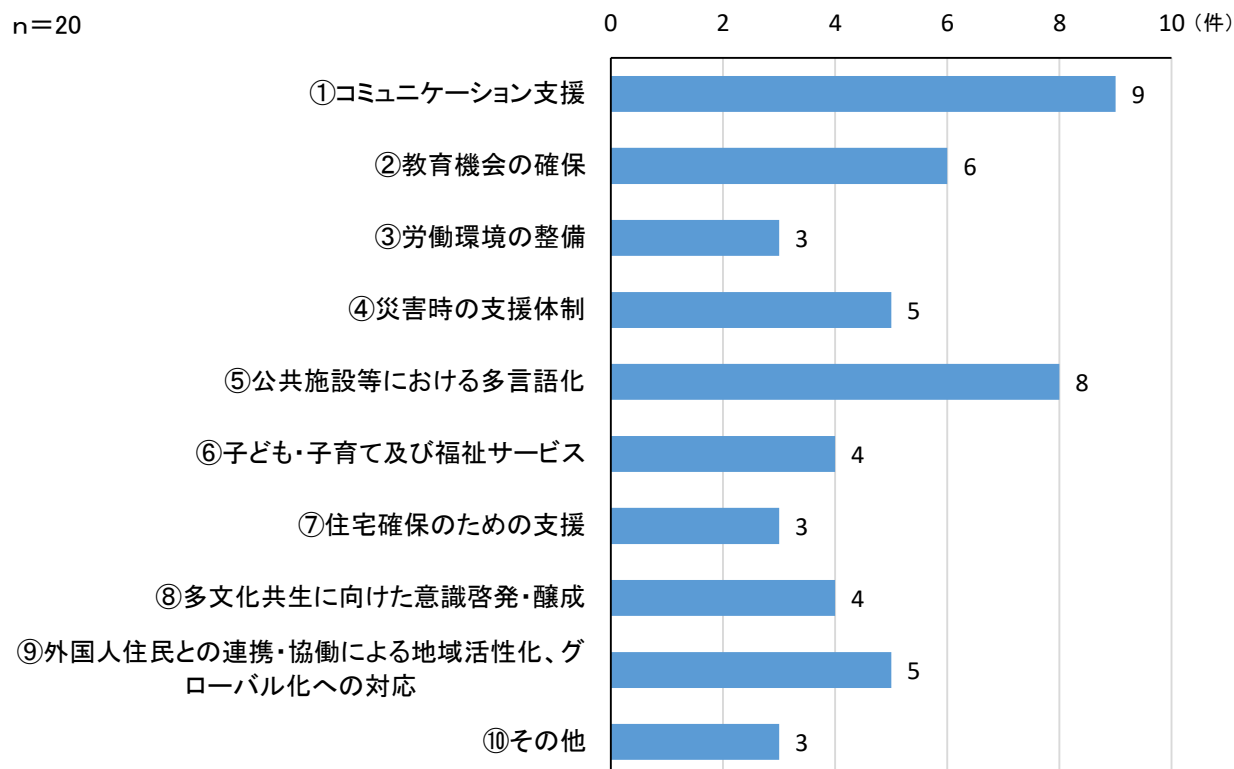
外国人住民と一緒に取り組みたい内容は、祭りや食を通じた交流会、互いの国の文化を理解するものなど交流を深めるものが多くみられます。また、まずは自治会活動に参加してほしいという意見もみられます。わからない・ないという意見も6自治会から出ています。

現時点では、特段ありません。
わからない
ありません。
ありません。
地域の祭りなどに参加していただき、親睦を図り徐々に馴染んでいただき、文化的な交流も深めたい。
何もない。
日本語教室があればいいと思います。
自治会活動すべて
まずは、自治会行事に参加してもらおう。
情報公園都市で働く外国人労働者とクリーン活動
公民館の調理室等を利用して1年2~3回程度、持ち回りでお国自慢の料理を作りランチ会が開催出来たら良いと思います。2~3年前に自由が丘公民館で開催したことがある。
食文化を通じての交流、自治会活動の意義の説明。隣人同士の支え合いの大切さ、団地住民へのプライド教育、異文化への理解と協調性
地域のイベントに多文化交流を目的とした、より良い交流を行いたい。
文化交流会等の催しができれば取り組みたいと思う。
これからの課題だと思っています。
近年は、新型コロナウイルス対策で事業などができませんが、できるようになれば夏祭り等の案内などで参加を呼び掛けたいと思っている。
外国人住民の協力が得られれば、母国のことを教えていただけるような意見交換会ができれば良いと思います。
ありません

問 10 三木市として、多文化共生を進めるにあたり、どのような施策・事業に取り組んでほしいと思いますか。次の①～⑩のうち、特に進めてほしいものを5つまで選んでいただき、その理由をご記入ください。

多文化共生を進めるために必要な施策・事業は、「①コミュニケーション支援」が9件で最も多くなっています。具体的にはコミュニケーションは重要で、最低限必要という意見が多くみられます。

次いで「⑤公共施設等における多言語化」が8件、「②教育機会の確保」が6件で続いています。



## 【具体的な内容】

### ①コミュニケーション支援

コミュニケーションを図ることが重要であると思われる。
コミュニケーション支援（生活情報の多言語化、相談体制の整備など）。地域社会で生活する上で必要なルールや習慣、イベント等について多言語での情報提供が必要。日本語教育支援など
地域内での生活に当たり、生活情報の多言語化は最低限必要
見知らぬ地域で頑張っていることを私たちが認識を改め、思いやりの精神を持つ
生活上での問題解決
言葉が通じないのが一番のネックになるので、相談できるよう通訳、通訳機器の充実を図ってほしい
①⑦⑧⑨⑩全体を通じて、当地区の外国人はほとんどが単身で来日しており、家族との生活実態はない。ほとんどの外国人は、事業主が確保した住宅に大勢の人が共同で生活している
最低限必要だと思います。

### ②教育機会の確保

外国人にとって日本語は重要、勉強する機会が多ければ良いと思う。
現在、就労されている方々の問題はもちろんです、子どもたちの言語習得と教育が今後に関がっていくと考えます
外国人の子どもたちにも教育機会は当然確保されるべき
児童の自転車修理の際の会話は、日本が戦争を仕掛けたから悪いなど、児童が考えもつかない内容が多く、驚かされることがある。児童はもちろん家庭内での意識改革が大切だと考える
外国人の子どもたちにも同じように教育の機会、場所を提供してあげてほしい
ボランティア機関へのサービスを充実させる。

### ③労働環境の整備

外国人労働者の国籍の相違により、様々な問題、課題がありますので、受入企業への福利厚生支援などを充実すべき
日本の少子化もあり、外国人の労働力は必要です。不当な扱いを受けていないかどうか実態調査が必要です。

#### ④災害時の支援体制

公民館の使用について
昨年12月17日（金）自由が丘公民館での日本語教室の特別事業（防災研修）に参加した外国人住民が、災害が発生した場合の避難場所をはじめ、行動指針が分からないとのことでした。要援護者の取扱い、外国人も要援護者として取り扱うべきだと思います。
緊急時の対策
災害時の支援は当然
日本人住民、外国人住民を問わず災害時の避難情報など、誰一人取り残されることのないような取り組みは必要と感じる

#### ⑤公共施設等における多言語化

言葉が通じない
最低限必要だと思います。
利用者の利用改善
多言語サービスが第一だと思います。意思を伝達できない社会は滅びます。特に医療機関
市内に居住するのに最も必要なこと
ゴミ出しマナーなどの啓発。交通ルールの順守
特に医療機関は、生活と密接に関係しているため、言語の多言語化が大切です。薬局も重要だと思います。

#### ⑥子ども・子育て及び福祉サービス

言語や人種の違いなど、問題は多々ありますが、幼年時からの教育は大切だと思う。特に文化
相手に対しての思いやり、相手に喜んでもらったときの心の達成感、子供らしいやさしさの心を育むことが大切だと思います。言葉の大切さは理解できるが、やさしさ、言葉は両輪ではないかと思っています。
仕事があっても安心して預けられる施設がない限り、働くことが困難です。外国人の方に託児施設で従業員として働いてもらうのも良いと思います。
育児問題の解決

#### ⑦住宅確保のための支援

日本人が外国で就労する場合に発生する様々な状況を想定して、住宅、地域情報の提供をすれば 労使ともどももっと良い環境が創造できると感じています。
--



長期で住んでいる人より短期就労が多く、知らない内に人が入れ替わっている。自治会では把握できない。外国人が働いている事業所が20社以上あると思うが、何人いるのかわからない。事業所ごとに国籍も違い、グループ化しており、日本人社会と隔たりが大きい。交流はごく一部で経営者のみで、その経営者の住所は市外にある。

#### ⑧多文化共生に向けた意識啓発・醸成

外国人住民の自転車通勤などのマナー作り

職種は自動車、重機、農機の解体、古い家電、廃プラ、金属などを収集、加工などを行い、輸出している。ヤード内が多く実態は不明で従業員（外国人）の労働環境も悪く交流どころではない。

多文化理解の促進、差別言動の解消、イベント開催や社会参画いずれも素晴らしい内容ですが、全て理想論と感じる。どうすれば、達成できるか具体策を御願います。

#### ⑨外国人住民との連携・協働による地域活性化、グローバル化への対応

以上のことにより行政側で、自治会への外国人の情報提供（国籍、言葉、外国籍住民の人数）を御願いたい。多言語での行政の仕組みや生活のルールなどで情報提供をしていただければ、地域（自治会）に役立つ。

交流

#### ⑩その他

問4のように三木市民が転入してきた外国人の文化と習慣の違いをどこまで理解できるか？また、理解できた上で、どこまで自身のエネルギーを傾注できるか、個人では限界があるので、地域内で何人かが同じ目標を持つ、そのためには、外国人の三木市に対する貢献度を広報で大々的に周知してほしい。個人的に周知するのは難しい。

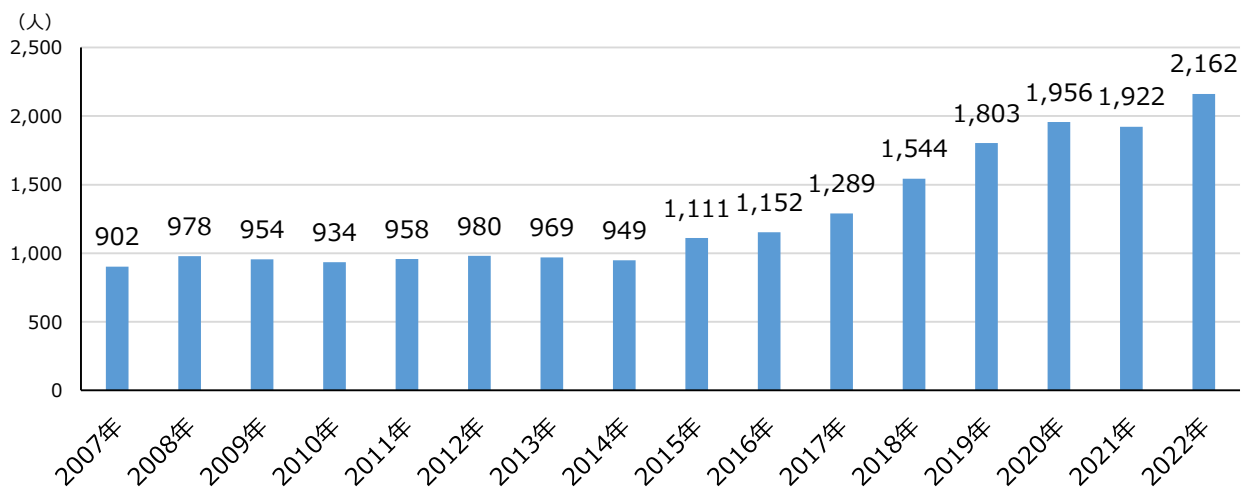
今は居住者がいませんか、来られた時は自治会としても積極的な声掛けやイベントへの勧誘などに、市にも協力してほしいです。

## 第5章 考察

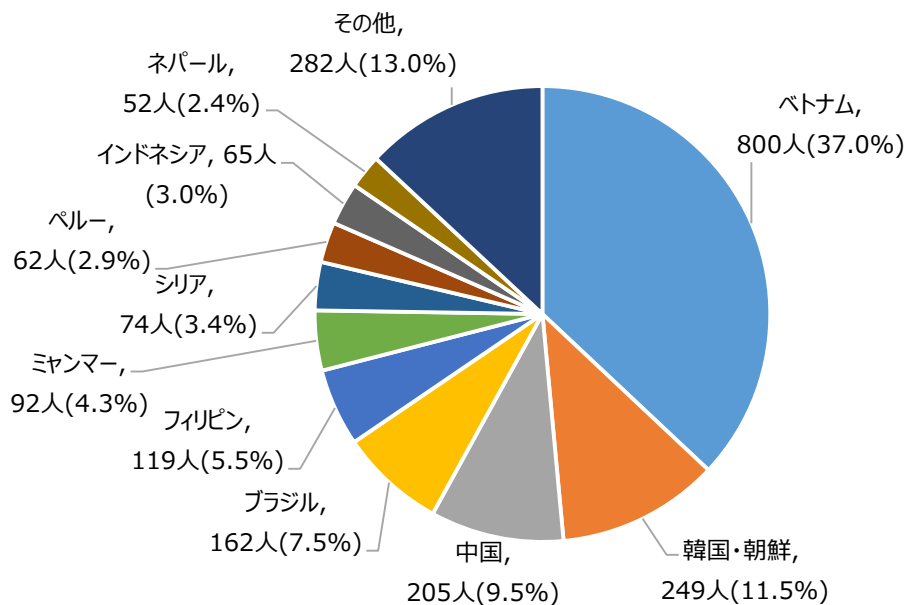
本市の外国人住民は増加の傾向にあり、2022年で2,162人と、2007年から倍以上の1,260人増加しています。

国別にみると、2022年は「ベトナム」が800人で全体の37.0%と最も多く、次いで「韓国・朝鮮」が249人(11.5%)、「中国」が205人(9.5%)が続いています。2007年当時は「韓国・朝鮮」が344人で全体の38.1%を占めていましたが、近年「ベトナム」が大きく増えています。

外国人住民の推移



2022年国別外国人住民



資料：三木市調べ（各年12月末現在で、2022年のみ6月末現在）

## (1) 教育・学習

外国人に日本語力について尋ねたところ【問 15】、「聞く」は「ゆっくり話してくれれば、大体理解ができる」が最も多くなっていますが、在日期間が1年未満の人は「ゆっくり話してくれれば、少し理解できる」が最も多くなっています。

「話す」は「単語や短い文で、自分の言いたいことが少し言える」が最も多く、次いで「母語ほどではないが、自分の言いたいことがだいたい話せる」が続いています。「自己紹介や挨拶ぐらいであれば言える」は在日期間1年未満の人で25.6%と、ほかの人よりも多くなっています。

「読む」は「短くて簡単な日本語で書いてあれば、大体理解できる」、「書く」は「ひらがなとカタカナで会社や学校の名前、住所等が書ける」が最も多くなっており、「聞く」や「話す」に比べて十分でない人が多く、特に在日期間が短い人に多い状況です。

関係団体ヒアリングにおいても、会話はある程度できて読み書きができない人がおり、学校からの書類や様々な手続きにおいて苦労している人がいるとの意見も出ています。また、多文化共生を進めるために必要な施策・事業で「教育機会の確保」「コミュニケーション支援」は関係団体・自治会ともに多い回答となっており、日本人アンケートで共生社会に向け力を入れる取組【問 31】で「日本語教育の推進」と答えた人が3番目に多いことから外国人に対する日本語の教育・学習支援は重要なものと考えられます。

「日本語を学んでいる」【問 18】と答えた人は83.5%で、うち82.0%の人が「家で、自分で学習している」と答えており、「日本語教室で勉強している」と答えた人は27.5%となっています【問 20】。日本語学習機会【問 22】としては「インターネットやアプリ等で日本語が学習できるといい」が55.5%と半数を超えて多く、次いで「近所や職場の人が教えてくれるといい」が45.5%で続いていることから、地域や団体、企業等と連携し、外国人が身近な場で学べる環境・機会を構築するとともに、ICTの有効活用も必要と考えられます。

生活の中で日本語が話せなくて困った内容【問 16】は、「病気になったときの医師の間診や症状の説明のとき」が約半数で最も多く、「市役所の窓口・手続きのとき」「郵便局や銀行の窓口で」が30%台で続いています。病気のと時の説明については在日期間が長い人で最も多い回答となっています。また、不安に感じていることや困っていること【問 24】は、「日本語のコミュニケーション」が42.5%で最も多く、次いで「病気になったとき」が31.0%で続いています。困っている場面として医療の場が多くなっています。

日本語を学ぶ外国人は多いものの、十分とは言えない状況にあり、職場だけでなく、日常生活における様々な場面、手続き時において困った経験を有する人が多くなっています。

地域や団体、企業等と連携し、日本語を学べる機会をつくとともに、ICTを活用した多言語対応を進める必要があります。

## (2) 交流

外国人に三木市に住む日本人の友人や同僚の有無を尋ねたところ【問 25】、60.5%の人が「いる」と答えています。在日期間1年未満の人は「いない」が53.5%と、半数を超えています。交流状況としては「日常生活の話をする程度」が31.4%で最も多く、次いで「あいさつをする程度」が26.4%となっています。また、日本人との交流機会【問 28】について、「日本の文化を紹介してほしい」が37.0%で最も多く、次いで「母国の文化や習慣などを教えたい」が34.5%、「ボランティア活動や地域の行事に参加したい」が32.5%と続き、「交流はしたくない」は6.5%と、多くの外国人が交流の機会を求めている状況にあります。

一方、日本人に外国人の友人や同僚の有無を尋ねたところ【問 16】、「いる」は6.6%にとどまっています。また、外国人住民が増えることをどう思うか尋ねたところ【問 20】、「良い（「良いことだと思う」と「どちらかといえば良いと思う」の計）」は41.3%（39歳以下は50.0%）、「良くない（「あまり良くないと思う」と「不安や問題があると思う」の計）」は32.7%と、良いと思う人のほうが多くなっています。

また、外国人の友人が「いる」と答えた人の約6割が「良い」と答え、「いない」と答えた人でも4割が「良い」と答えています。「不安や問題があると思う」は友人が「いる」と答えた人で10.3%、「いない」と答えた人で27.8%と、17.5ポイントの差がみられます。そのほか、外国人との交流を「積極的に深めるほうがよい」「積極的に関わっていききたい」と答えた人は友人がいる人のほうがいない人より多くなっています。

外国人住民が増えること

	(n)	う 良 い こ と だ と 思 う	ど ち ら か と い え ば 良 い と 思 う	あ ま り 良 く な い と 思 う	不 安 や 問 題 が あ る と 思 う	何 も 思 わ な い	不 明 ・ 無 回 答
全体	876	15.0	26.3	6.2	26.5	21.3	4.8
友人がいる	58	25.9	36.2	0.0	10.3	22.4	5.2
友人がいない	812	14.2	25.5	6.7	27.8	21.4	4.4

自治会ヒアリングにおいて

約半数の自治会は外国人との交流がなく、外国人住民が加入している自治会は20自治会中10自治会となっています。自治会への加入については20自治会中13自治会が望んでいることであり、課題としてはコミュニケーション（言語・習慣の違い）の取り方となっています。

外国人は日本人と交流を深めたいと答えた人が多くなっています。日本人で外国人と交流がある人は数パーセントにとどまっていますが、交流のある人は外国人との交流を積極的に進めたほうがよいと答えています。交流に不安を持っている人は「文化や習慣が違う」「言葉が通じない」が主な理由となっていることから、お互いの文化を理解しあう機会をはじめ、お互いのコミュニケーションを高めるための方法を検討する必要があります。

また、求められている交流機会として外国人・日本人ともに「ボランティア活動や地域の行事」が共通して多くなっています。そのほか、外国人はお互いの文化の紹介、日本人はサークル活動、

職場・学校での交流などが多く、また在日期間や年齢によって求められる交流内容が異なることから、的確にニーズを把握しつつ、様々な機会や場を設ける必要があります。

### (3) 労働

在留資格【問5】は「技能実習」、職種は「製造業」が最も多くなっています。雇用形態【問7】は男性が「正社員」、女性は「契約社員・直接雇用」が最も多く、「正社員」は30歳代以下の年代で最も多くなっています。

将来心配なこと【問36】で「仕事のこと」は2番目に多い回答となっています。

外国人の「読み」「書き」【問15】は、生活や仕事に必要なものは大体理解できる（書ける）と答えた人は約20%と「聞く」「話す」に比べてできる人が少なく、十分に読み書きができるとは言えないと考えられます。

また、日本語を学んでいると答えた人に学ぶ目的を尋ねたところ【問21】、「現在の仕事に必要なだから」が最も多く、今後の日本語学習機会の重要性【問22】として「近所や職場の人が教えてくれるといい」が2番目に多く、日常生活に必要な情報を職場の人から得る人も半数を超えていることから【問23】、企業（事業所）と連携した支援体制の構築が必要と考えられます。

労働・職場は、単に賃金を得るだけでなく、日本語の学びや日常生活における情報を得る場として重要であることから、企業（事業所）と連携した支援体制の整備が必要と考えられます。また、労働環境の改善を働きかけるとともに、企業（事業所）が抱える問題や課題に対する支援が必要です。

### (4) 災害

外国人に現在の不安や困っていることを尋ねたところ【問24】、「地震や台風などの災害に関すること」は23.5%と4番目に多い回答となっており、将来心配なこと【問36】で「災害時のこと」と答えた人は15.0%となっています。

関係団体ヒアリングで多文化共生を進めるために必要な施策・事業を尋ねたところ、「災害時の支援体制」は4団体中2団体が、外国人住民のいる10自治会のうち5自治会が必要と答えており、災害や避難所に関する情報の提供や学習機会の提供が必要という意見が出ています。

外国人が取り残されることがないように日ごろからの情報提供や啓発、交流が必要と考えられます。

## (5) 理解・差別

外国人に三木市での生活において差別を受けた経験を尋ねたところ【問 29】、14.5%の人が「ある」と答えており、在日期間が長い人ほど差別を受けた経験がある人が多くなっています。

具体的な差別の内容【問 30】としては「職場で」と「近所の人と交流しているとき」がともに24.1%で最も多く、次いで「電車やバスに乗っているとき」「公的機関の手続き」と続いています。

一方、日本人に外国人とのトラブルの経験について尋ねたところ【問 25】、「ある」は7.1%となっており、具体的な内容としては社会生活やゴミ出しのルール・マナー、話・意図が伝わらないといった内容となっており、自治会ヒアリングにおいてもゴミ出しによる苦情が一部みられます。

関係団体ヒアリングで多文化共生を進めるために必要な施策・事業を尋ねたところ「多文化共生に向けた意識啓発・醸成」は4団体中3団体が必要と考えており、2番目に多い回答となっています。具体的には外国人住民との共生について、市民の意識が不十分である、外国人住民の発言を聞く機会を設けるなどの意見が出ています。

言語や文化の違いにより、お互いに十分な話し合いやコミュニケーションが取れないことから、差別やトラブルに発展しているケースもあると考えられます。日本語を学ぶ機会を増やすとともに、日本人と外国人がお互いの文化やマナー等について学び、交流を深める必要があります。

## (6) 情報・相談

外国人に日常生活に必要な情報の入手方法を尋ねたところ【問 23】、「知人・友人から」が57.0%で最も多く、次いで「職場の人から」が54.5%、「インターネット・SNS から」が47.5%で続いています。「市の広報」「市のホームページ」は約10%となっており、高い年齢層や在日期間が長い人ほど広報やホームページで入手している人が多い状況です。

また、三木市や三木市国際交流協会が実施している事業【問 33~34】について、半数以上の人は「いずれも知らない」「利用していない」と答えています。「日本語教室」は認知度が31.5%、利用状況が17.0%と2番目に高くなっています。「外国人住民相談窓口」の設置」「ことばの教室」は認知度で10%程度となっていますが、そのほかの事業は認知度・利用状況ともに10%に満たない状況にあり、十分に周知が進んでいるとは言えない状況です。

日常生活に必要な情報を「インターネット・SNS」から入手している人は約半数程度みられることから、ホームページなどのICTを活用した情報の発信が必要と考えられます。

関係団体ヒアリングにおいて外国人からの相談や問い合わせにおける問題・課題を尋ねたところ、言葉が通じないことでの弊害が大きく、かつ多くの時間を要してしまう点が大いと考えられます。外国人に対して物事を伝えるツールの整備が求められています。具体的には通訳・翻訳者の配置やコミュニケーションツール、書類の多言語化（翻訳、やさしい日本語の活用）などが意見で出ています。

三木市多文化共生のまちづくりに関する  
調査報告書

発行：三木市市民生活部市民協働課文化共生係

住所：〒673-0492

兵庫県三木市上の丸町10番30号

TEL：0794-82-2000（代表）

0794-89-2315（直通）

FAX：0794-89-2318

この事業は、一般財団法人自治体国際化協会の助成により実施されています。

